

2015 年度卒業論文

リヨンの青年エコロジストたち

—現存するラディカルな緑—

総合政策学部 4 年

村西祐亮

71108365

序論

本論

第1章 リヨンとはどのような街か-JEの活動舞台

- 1-1 リヨンという街-基本情報
- 1-2 JEの活動範囲から見るリヨン
- 1-3 まとめ

第2章 リヨンの青年エコロジストたち-JEリヨンの客観的情報

- 2-1 JEとは-概略
- 2-2 JEリヨン グループ紹介
- 2-3 JEリヨン メンバー紹介
- 2-4 メンバーの性格や日常
- 2-5 その後のJE
- 2-6 まとめ

第3章 JEとは何者なのか？

- 3-1 JEリヨンの活動
- 3-2 団体規約
- 3-3 彼(女)らは自らをどう位置付けているか？
 - 3-3-1 ホームページ上の定義
 - 3-3-2 思想的位置付け
 - 3-3-3 JEメンバーへのインタビュー
- 3-4 まとめ

結論

序論

・研究概要

「緑の党」¹とは、主にヨーロッパを中心に活動しているエコロジー政党である。その政党システムへの定着具合は国によって様々である²が、ドイツやフランスなどでは政権に参加した経験を持ち、特にドイツでは常に一定の議席をもち、政策に影響を与えるなどしてきた³ように、議会制民主政治において知られた存在となっている。

本稿ではこの政党としての緑の党ではなく、その青年組織に当たる⁴、「Jeunes Écologistes」(ジュンヌ・エコロジスト)の地方組織、「Jeunes Écologistes Lyon」(ジュンヌ・エコロジスト・リヨン: 青年エコロジスト、略称 JE⁵) に焦点を当てて研究を行う。

議員となって政治の世界でエコロジーを訴える、言うなれば政治の「プロ」的なエコロジストたちがいる中で、リヨンという街で、草の根の若いアマチュアのエコロジストたちは何を考え、どこに向かおうとしているのか。その取り組みと模索を描きたい。

・問題意識・研究目的

筆者は、2011年3月11日の福島第一原発事故以来、原発の問題に強い関心を持ってきており、その中で、「脱原発」を中心とするエコロジー社会への転換を説き、主にヨーロッパで成果を収めている「緑の党」に注目するようになった。

日本でも2012年に「緑の党」が発足し⁶、2013年の参議院議員選挙では、緑の党から立候補したミュージシャンの三宅洋平氏が、落選者中では最多となる約17万票を獲得するなど⁷、動き出しはしたものの、まだその存在や価値観が広く認知されているとは言い難いし、今後ヨーロッパのように政治システムに定着していきけるのかについては疑問が残る。

筆者は2013年8月から2014年5月末まで、フランス・リヨン第3大学に交換留学をし、

1 フランスの緑の党は、現在厳密には「ヨーロッパ・エコロジー=緑の党 (EELV)」を名乗っている(畑山,2012:219)が、混乱を避けるため本文中では「緑の党」の名称を用いる。

2 ジーン・フラン克蘭ドほか,2013

3 西田,2009:133-137

4 緑の党の全国版のホームページには、JEは直接的には紹介されていないが、トップページから「Jeunes Écologistes」で検索すると関連記事が表示されるほか、緑の党リヨンのホームページ上には「リヨンのエコロジストたち」としてJEが紹介されている(<http://lyon.eelv.fr/les-ecologistes-lyonnais/les-jeunes-ecologistes/> : 2015/12/13 閲覧)

5 JEは各地に存在しており、それらが集まって構成される全国版JEも存在する。本文中では特別な記載がない限り、「JE」は「JEリヨン」を指すものとするが、区別が必要な場合は適宜全国版を「JE連盟」、リヨンの地域組織を「JEリヨン」と呼ぶ。

6 <http://greens.gr.jp/about/> (2015/12/23 閲覧)

7 朝日新聞 2013/8/3 朝刊、http://www.huffingtonpost.jp/2013/07/22/miyakeyouhei_n_3634080.html (2015/12/13 閲覧)

そこで緑の党リヨンの青年組織・JE リヨンの活動に参加して、彼(女)らの様子を追ってきた。フランス緑の党は、政権にも参加するなどの経験を持ち、政党システムに定着している。そうした制度化された党とアマチュアの青年組織の違いは何なのか、どんな若者たちが、何を考え、何のためにここに参加し、行動を起こしているのだろうか。これらを明らかにし日本に紹介したいと思い、本論文で扱うこととした。

・研究対象

小集団研究としての研究対象はフランス緑の党青年部・リヨン支部 (Jeunes Écologistes Lyon) とする。JE の組織構成などの詳細は本論で記述する。また、彼らがどんな場所で活動しているのか把握するため、リヨンのデータも使用する。

・研究方法と構成

研究手法としては「小集団研究」をとる。大きく分けて3部構成とし、第1章では、JE がどのような場で活動しているのか把握するため、リヨンについての政治的・経済的・社会的な情報分析をまず行ってリヨンがどのような街なのか、特にJE が活動範囲としている地域を中心に述べ、第2章では参加メンバーや他団体との関係などJE の客観的な位置付けを描き、第3章ではJE の活動など参与観察の結果を具体的に記したうえで、規約やホームページ上でのグループの定義とJE メンバーへのインタビューを見ながら、JE が何者であるのか、あろうとしているのかを分析する。

・先行研究

緑の党やエコロジー思想を扱った文献は非常に多い。例えばフランスの緑の党に関するものだと、党の結成過程や選挙経験、政権参加経験などを記した畑山敏夫著『フランス緑の党とニュー・ポリティクス：近代社会を超えて緑の社会へ』(2011) が代表的である。緑の党や政治的エコロジーとは、思想や哲学から社会運動、さらには政党政治まで幅広く関わってくる問題であり、それだけに多方面から研究がなされている。こうしたものを包括的に扱った著作としては、小野一著『緑の党 運動・思想・政党の歴史』(2014) がある。

これらは有力な参考文献となるし、このほかにも緑の党や緑の思想を扱った著作は近年増えている。しかし、それらはもっぱら党に関する研究が中心であり、今回私が扱うJE のような周辺の連携組織についての研究は、フランス語論文を含め管見の限り見当たらない⁸ため、筆者の研究には新規性があると言ってよい。

⁸ 特にリヨンのそれとなるとまずないと考えられる。

・問題設定

緑の党は社会運動に由来しているとされ、議会政治への参加はあくまで議会外の助けという位置付け⁹であった。反既成政党的文化¹⁰を持ち、脱物質主義や底辺民主主義を掲げる¹¹その姿は、産業社会を鋭く批判する「緑のラディカリズム」に分類され¹²、「アマチュア運動家の党」¹³とも呼べるものであった。しかしその後の選挙活動や政権参加を経て、党の運営面では底辺民主主義的なシステムが難しくなり¹⁴、ドイツでは「反政党的政党」の理念が廃され、市場経済擁護の姿勢が選択されていく¹⁵などして、「ラディカリズムを捨て去った」¹⁶「設立当時のような『アマチュア運動家の党』や『社会運動としての政治組織』ではまったくなくなった」¹⁷「急進的な異議申し立て政党というイメージから脱却した」¹⁸と指摘されているように、現実化・穏健化してきたということが先行研究で明らかにされている。しかし一方で、これらの研究では草の根民主主義やアマチュア性が完全に消失したわけではなく、既成政党とは異なる魅力をいまだ持ち続けていることも指摘されている¹⁹。ただ、具体的にどのような活動家が周囲に存在するのかについて詳しく論じられているものは確認できなかった。

本稿ではこうした先行研究の成果を踏まえて、「本当に『緑』からラディカリズムはなくなってしまったのか」という問題意識のもと、JEを研究対象として取り上げ、現在の「緑」における草の根活動家の様子や（主観的および客観的な）位置づけを紹介することによって、政党政治にとどまらない「緑的なもの」のあり方を分析・提示していくことに挑戦したい。社会運動やそれと連携した政党の取り組みが日本でも盛んになる中で、一つの参考になれば幸いである。

・本文中の和訳文、写真、データなどについて

本文中でメールや Web 上のデータ、記事などフランス語で書かれたものを日本語に訳し

⁹ 大畑ほか,2004:202

¹⁰ 畑山,2012:65

¹¹ 畑山,2012:15-17

¹² ドライゼク,2007:259-262

¹³ ジーン・フランクランドほか,2013:415

¹⁴ 畑山,2012:121-123

¹⁵ 西田,2009:149

¹⁶ 小野,2014:238

¹⁷ ジーン・フランクランドほか,2013:421

¹⁸ 畑山,2012:192

¹⁹ ジーン・フランクランドほか,2013:415-418

たものは、基本的にすべて筆者が和訳したものである。仏和辞書には「ロワイヤル仏和辞典第2版」の電子辞書版を使用した。筆者が自分では理解しきれなかったものは、総合政策学部のパトリス・ルロワ教授、宮代康丈教授、ジョルジュ・ヴェスイエール教授に適宜質問させていただいたほか、フランス人の友人らの協力を得た。

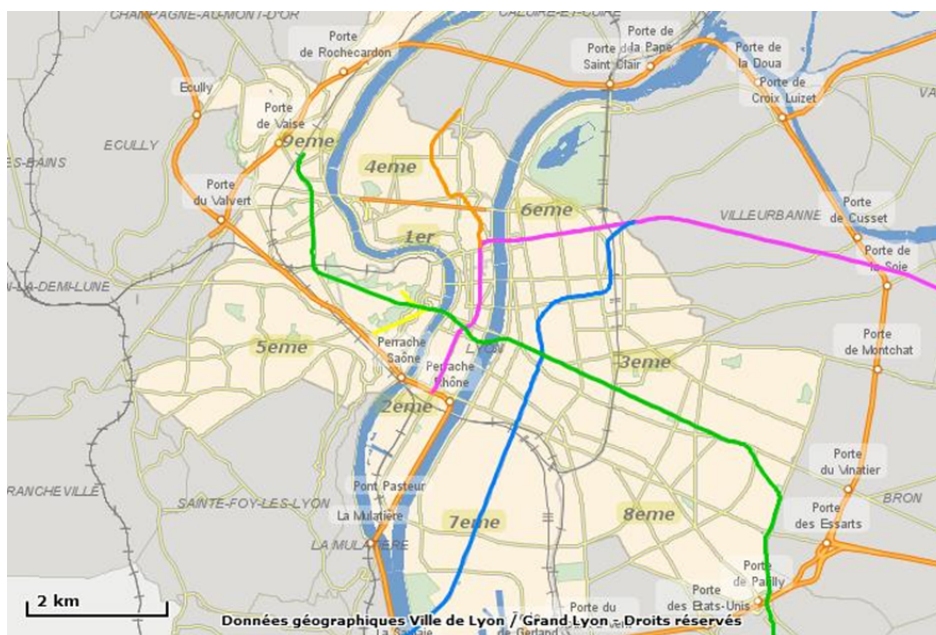
また、本文中に写真やデータを用いて説明している箇所があるが、それらの情報はすべて巻末の「資料集」にまとめてあるのでそちらを参照していただきたい。巻末資料集の写真は、特筆がない限り筆者が撮影したものである。また、リヨン市や市内各区の各種データに関する表を掲載したが、これは INSEE（国立統計経済研究所）のホームページ上のデータを筆者が和訳して作成したものである。

第1章 リヨンとはどのような街か—JE の活動舞台

JE リヨンがどのような組織か見ていく前に、まずは彼らがどのような場所で活動しているのか、その舞台を把握しておく必要がある。エコロジー思想は国や地域を越えて普遍的に主張されるものではあるが、地域グループという小集団を研究する上で地域的な特性を一通り述べることは不可欠であろう。

1-1 リヨンという街—基本情報

リヨンはフランス南東部ローヌ・アルプ地域圏に属する、パリ（220万人）、マルセイユ（85万人）に次ぐ人口約50万人のフランス第3の都市である²⁰。どのエリアをリヨンと定義するかには諸説あり、58のコミューンを含め、1200万人の人口を有する「グラン・リヨン」など大きめの区分もあるが²¹、ここで言う「リヨン」とは、特に記載のない限りリヨンの市（Commune de Lyon）を指すものとする（範囲は下図の白い部分）。



<http://cartes.lyon.fr/plan/> (2015/12/17 閲覧)より

本章では、INSEE（国立統計経済研究所）のホームページから閲覧することができる国内各地の人口や産業についての膨大な統計データを主に参照しながらリヨンの街を紐解い

²⁰ http://www.insee.fr/fr/themes/tableau.asp?reg_id=0&ref_id=NATTEF01214 (2015/12/14 閲覧)

²¹ <http://www.lyon.fr/page/decouvrir-lyon/portrait-dune-ville/lyon-carte-didentite.html> (2015/12/14 閲覧)

ていきたい。以下で扱うデータは巻末の資料集に掲載している。

まずは INSEE ホームページに重要な数値として挙げられているものを見て行きたい(資料集「リヨン主要データ」)。フランスとしての国レベルでの平均と比較した時にまず目に付くのが、人口密度の高さである。国レベルではたったの 100 人/km²程度に過ぎない人口密度は、リヨンの場合では 10,000 人/km²超とほぼ 100 倍の値である²²。住居に関して言えば、持ち家率が全国平均と比べて低い。世帯ごとの所得や課税世帯の値を見ても、平均と比べて裕福な都市であることが見て取れる。就業率や失業率は全国と比べてほとんど差がないが、産業構造は大きく異なっている。全国では産業の 1 割を占める農業の割合はリヨンではたったの 0.1%で、第 2 次産業の割合も低い。一方第 3 次産業の割合は 4 分の 3 以上を占め、第 3 次産業中心の都市であることがわかる²³。これは施設の種別割合にも反映されている。なお、こうした特徴は、程度の差はあれフランスのいわゆる地方都市には共通のものである²⁴。

ここからは各種のデータを細かく見ていきたい。数値等は資料集「詳細データ」を参照。

・人口

人口構成をみると、全国平均と比べて若年層の割合が非常に高く、世帯構成では単身世帯の割合が半数近くにまで及んでおり、家族世帯を上回っているほか、家族世帯においても子どものいないカップルの占める割合の方が大きい。婚姻状況を見ても独身者が半数を超えている。以上から若い世代の独身者がリヨン社会の中心的な存在であることが見て取れる。また人口に占める移民の割合は 1 割を超えており、全国平均を上回る。

・経済・産業

元来絹織物工業が盛んだったリヨンは、その後ガラス・石鹼工業のほか化学・薬品・金属などを行う「工業都市」となったが、90 年代から脱工業化・第 3 次産業化を推し進めてきた²⁵。なお第 3 次産業の比率が高いことは前述のとおり他の地方都市と同様である。部門ごとの雇用割合を見ても「商業、交通、諸サービス」と「行政、教育、健康、社会事業」

²² ちなみにパリは 21,258.3 人/km²、マルセイユは 3,543.0 人/km²である (<http://www.insee.fr/fr/themes/comparateur.asp?codgeo=COM-69123&codgeo=COM-75056&codgeo=COM-13055> 2015/12/14 閲覧)。都市部に人口が密集していることがうかがえる。

²³ 第 3 次産業の割合は、パリでは 83.9%、マルセイユでは 68.9%である。

²⁴ 例えば同じく地方都市と称されるリール、グルノーブル、ボルドーとの比較では、人口密度などで差はあるが、主に産業構造において共通点が多い。<http://www.insee.fr/fr/themes/comparateur.asp?codgeo=COM-69123&codgeo=COM-59350&codgeo=COM-38185&codgeo=COM-33063> (2015/12/14 閲覧)

²⁵ 高橋ほか,2003

の合計が非常に高い。

人口で見ると、就業者のうちでは管理職や高度知的職業に就いている者が多い。退職者の割合が全国と比べて少ないことから、若い世代が中心の社会であることがわかる。また学生も 16.7%と多く、同じローヌ・アルプ地方の地方都市グルノーブルなどと並んで学園都市であるとも言える。一方で失業率は全国のレベルと差がない。

交通や住居の状況に関しても言及しておきたい。メトロやトラムなどの公共交通機関が発達している²⁶ことからわかるように、通勤に公共交通機関を利用する人が多い。住居に関しては、持ち家率が低く、借家率が非常に高い。これは、若年独身者が多いこととも関連性があると言ってよいだろう。

・教育

リオンは地方都市の例にもれず学生が多く、3つに分かれている国立のリオン大学のほか、グランゼコールも多数存在する。特にリオン政治学院（シアンスポ）はJEのメンバーの多くが通っている学校である。

リオン全体を見ると、全国平均と比較して学歴が高いことがわかる。長期高等教育証書を保有している者の割合が3割近いのに加え、職業適性証書、職業教育修了証の保有者も多い。18～24歳の多く、さらには25～29歳の2割弱も就学しており、大学生及び大学院生が多いことがうかがえる。

・政治

リオンの市長は社会党所属で、党内では右派に位置する²⁷ジェラルール・コロンの。ローヌ地方選出の元老院議員も務める。1999年に元老院初当選、2001年にリオン市長に初当選して以来現職²⁸である。地方議会にはいくつかの種類があるが、ここでは大リオン圏議会の議席配分と、リオン市議会の議席配分およびそれが選出される際の投票結果について扱う。

²⁶ リオン市内の交通機関を運営しているのはTCL (Transports en Commun Lyonnais) である。4種類のメトロや5種類のトラム、トロリーバスを含む数多くのバスなどが運航している。資料集に路線図を掲載した。

²⁷ <http://www.leparisien.fr/flash-actualite-politique/hamon-ne-croit-pas-que-hollande-s-era-au-second-tour-en-2017-15-04-2015-4694279.php> (2015/12/14 閲覧)

²⁸ <https://fr.news.yahoo.com/socialiste-g%C3%A9rard-collomb-reconduit-%C3%A0-t%C3%A0te-grand-lyon-155739257.html> (2016/01/01 閲覧)

大リヨン圏とは、リヨン市のほかにまわりのコミューンも併せた地域を指す。大リヨン圏議会では左派と右派が拮抗しており、市長の属する社会党の議席は、同党と並んで国政の二大政党の一翼を担う右派・共和党に9議席劣っている。なお、緑の党は7議席である²⁹。

市町村議会の定数は、フランスでは一般的に上限が69だが、リヨンはパリ、マルセイユと並ぶ例外で、区議会も設置されている³⁰。こちらは73議席のうち社会党が27議席を占めている。また、選挙の第2回投票で統一のリストを組んだ左派諸党も合わせると48議席となり、過半数を占める^{31 32}。

以上の特徴を総括すると、「(学歴が高い)若者・学生・単身者が多く、第3次産業の割合が高く、人口が密集している」というフランスの地方都市の典型的な特徴を持っているのがリヨンであるということがわかる。

²⁹ <http://www.grandlyon.com/metropole/les-groupes-politiques.html> (2015/11/08 閲覧)

³⁰ 大山,2013:197

³¹ <http://www.lyon.fr/page/vie-municipale/les-groupes-politiques.html> (2015/11/08 閲覧)

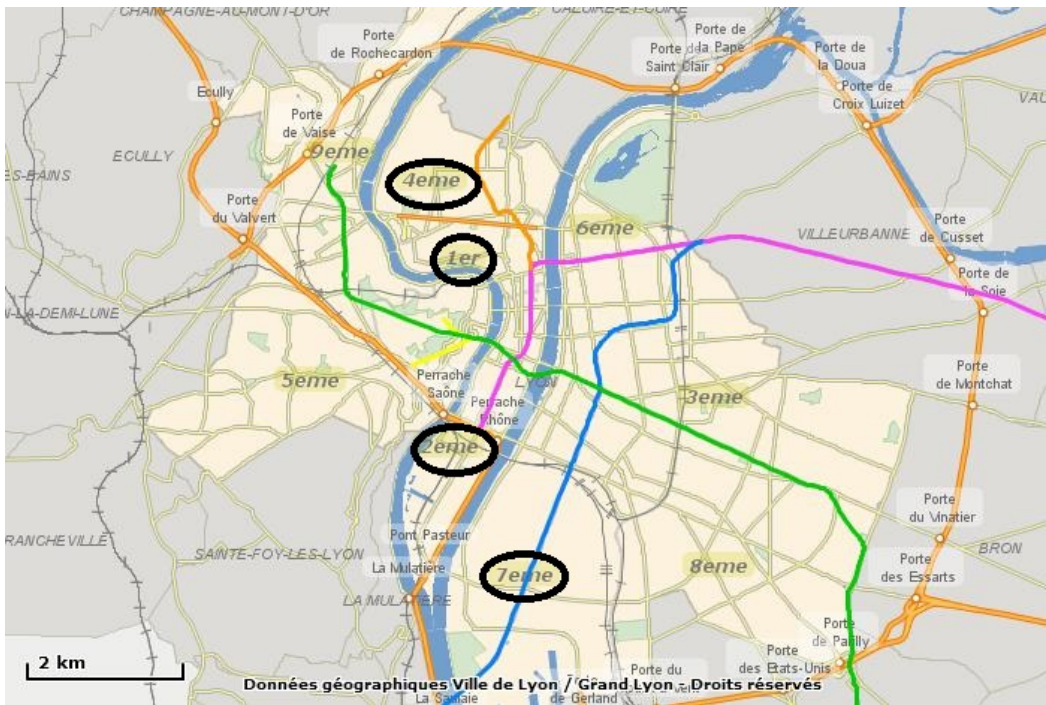
³² リストを組んだ党は http://www.lexpress.fr/resultats-elections/municipales-2014-lyon-69000_413788.html (2015/11/08 閲覧)の候補者名を、第1回、第2回それぞれ参照して判断した。

1-2 JE の活動範囲から見るリヨン

リヨン氏には全部で9つの区があるが、私がJEに参加していたころ、活動で訪れた場所は主に1区、2区、4区、7区で、より具体的には地図上に丸で示した範囲である。なお、私の留学期間が終了しJEの活動に参加しなくなって以降も、メーリングリストで送られてくる活動案内のメールを参照する限りでは、現在も私が参加していたころと活動範囲に大きな差はないようである。

なおこの範囲は、主に筆者の記憶と当時筆者が書いたレポートに基づくものなので厳密でない部分もあるかもしれないが、ある程度の活動圏としてはカバーできていると考えている。

リヨンの街を理解するにあたって、まずはJEの活動範囲の区の特徴を、人口や産業の構成、投票結果や、筆者が受けた街の印象などから見て行きたい。



<http://cartes.lyon.fr/plan/> (2016/01/01 閲覧)をもとに筆者が作成

JEの活動の中心となるのは、何と言っても *nuit de l'action* (ニュイ・ドゥ・ラクシオン：活動の夜) である。具体的な活動内容は後述するが、自転車に乗って街を巡り、反過剰消費や監視カメラ反対、JEの宣伝ポスターなどを掲示したり、商店街に出向いてネオンを消灯したりする活動である。このアクションが行われる範囲がすなわちJEの活動範囲と言っても過言ではなく、ここでは実際に *nuit de l'action* のコースを擬似的にたどりながら、

リヨンの街を見ていくことにしたい。

文中の「写真」は、すべて資料集に掲載してある。また、メトロの路線図・駅についても同様。以下のデータについては、資料集「詳細データ」および「区ごと詳細データ」参照。

・7区



アクションの集合場所は多くの場合 7 区のジャン・マセ駅である（写真 1³⁴）。駅周辺には学生向けのマンションが多く立ち並び（筆者もこの近くに住んでいた）、メンバーの多くが通うシانسポからも徒歩 10 分程度で、リーダー格のセドリックをはじめメンバーの住まいもこの近くにあり、集合場所として便利である。住居のほかにはスーパーやレストラン、パン屋などが集まっており住宅街と言える。

nuit de l'action では、ジャン・マセ広場を出発すると、ジャン・ジョレス通り等を通って北上し、時にサックス・ガンベッタ駅付近を經由しながらギョチエール駅方面に向かうことが多い。ギョチエール駅周辺やギョチエールから市内最大の広場・ベルクールに向かう通りには移民が営んでいる店が多く³⁵、街はやや雑然としておりあまり治安が良くない印

³³ https://www.google.co.jp/maps/vt/data=RfCSdfNZ0LFPrHSm0ublXdzhdrDFhtmHhN1u-gM,pUJyVP62-CAOWvTGFqrAvPO1ZPokHD5BeToAoLgYUg8KIIdVB-sRyFF7l0aT2_dSOTWmlugHITG3MxTxpEoPNMsMYEF7IdNZP-G92PXfNOokcZFQIImR5YdX98SxE_3RQsFSnSG0z7FXzUQ6BKrAQa5KeRIngKNVi7bNuxK_HWMzmXw-0Nn9SG4QI_Ay-HFO1EUzlniM29mifmabKyw（2015/12/14 閲覧）

³⁴ <http://www.clos-jean-mace.fr/lyon-7/jean-mace.php>（2015/12/14 閲覧）より

³⁵ 7 区の移民は 8 区、9 区について多い。

象がある(写真 2³⁶)。このあたり一帯はリヨン7区に属している³⁷(写真 3³⁸)。7区内で何かアクションを行うことはそれほど多くはないが、会議の場となるセドリックやフランセツトの家は7区にあり、活動拠点となっている。

また、*nuit de l'action* では訪れることはないが、会議場としてよく使われる緑の党リヨンのオフィスも7区にある。サックス・ガンベッタ駅からギョチエール駅と反対方向にガンベッタ通りを進んだところにあるメトロD線・ガリバルディ駅付近に位置する小さなオフィスである(写真 4,5)。ガリバルディ付近は、比較的静かな住宅地という印象で、ホテルや飲食店、スーパー、商店やオフィスなども並んでいる居住区域である。

その7区の統計データを見てみたい。まず人口増加率が平均よりも高く、特に平均ではマイナスの社会増がここではプラスである。年齢別に見ると15～29歳が36.6%と市内で最も多く、高齢者は少ない。単身世帯も2区と並んでトップで、独身の割合も6割を超えており、学生の割合も2割弱と高いほか、移民割合は13.8%で平均をやや上回る。一方、学歴に関しては、長期高等教育修了証書保有者の割合は平均より若干低い。さらにもう一つ注目しておくべき点をあげるとすれば、所得の低さである。「消費単位による家庭の税務に関わる諸収入の中央値」の項目は市内で3番目に低い。これらの特徴をまとめると、教育機関や学生マンションが多い7区の特徴は、実際の統計で見ても若者、特に学生が多く、所得が低いことだと言えよう。

畑山は、緑の党の支持者のプロフィールとして、若い・高学歴・新中間層などの特徴を挙げている³⁹が、これは、教員など高度知的産業の割合が市平均より低いことなどの例外を除けば、7区の特徴とある程度合致していると言える。では、7区における投票結果もここで確認しておこう。リヨンの全体像を把握するために使った、2014年の市議会選挙の結果を参照したい。市議会の議席配分を決めるこの選挙では、リストに基づき区ごとに議員が輩出されるため、区ごとの投票結果を比較しやすい。

³⁶ <https://www.google.co.jp/maps/@45.7550924,4.8424895,3a,75y,174.35h,85.77t/data=!3m6!1e1!3m4!1sQFp1IFaBmy9WUHFU9ezGIA!2e0!7i13312!8i6656?hl=ja> よりスクリーンショット(2015/12/14 閲覧)。

³⁷ サックス・ガンベッタ駅～ギョチエール駅に向かうガンベッタ通りは、厳密に言うと3区と7区の境界上にある。

³⁸ <https://www.google.co.jp/maps/place/%E3%83%95%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%82%B9+%E3%83%AA%E3%83%A8%E3%83%B3+7e+%E3%82%A2%E3%83%AD%E3%83%B3%E3%83%87%E3%82%A3%E3%82%B9%E3%83%A2%E3%83%B3/@45.7502592,4.8401687,15z/data=!4m2!3m1!1s0x47f4ea246efbf2fb:0x508ab2ae4c21920?hl=ja> (2015/12/14 閲覧)からのスクリーンショット。

³⁹ 畑山,2012:70-75

市全体では第1回投票で8.9%の票を得たエコロジスト⁴⁰が10%を超える票を集めた区は9区中3区あり、その一つが7区(10.87%)であった。社会党も38.81%と人気で、逆に右派連合は2割強とあまり人気がなかった。一方極右も平均をやや上回る得票率であったが、これはエコロジストが10%を超える票を得た3区の中では例外的である。第2回投票でも左派が多く票を獲得して8議席を得ている。統計や筆者の街の印象から読み取れる潜在的なエコロジスト支持層の存在から考えれば、納得の行く投票結果であるとも言える。

・2区



41

2区はローヌ川とソーヌ川に囲まれたリヨンの中心部に位置する南北に長い地区である。国鉄の駅ペラーシュやその南に位置する過去に開発が行われたコンフルアンス地区、北には観光名所であるベルクール広場(写真6)、そこから北に延びるショッピング街・レピュブリック通り(写真7)などがある。

特に北部のベルクール以北はJEの主戦場とも言える地域である。nuit de l'actionでは、ギョチエールからギョチエール橋を渡ってローヌ川を越え、ベルクール広場へ至るという

⁴⁰ ここでいう「エコロジスト」とは、緑の党(Europe Écologie Les Verts)を指している。市議会には、「リヨン・エコロジーと市民」と名乗るグループがあり、議員を3人輩出している(<http://www.lyon.fr/page/vie-municipale/les-groupes-politiques.html> 2015/12/14 閲覧)が、ここでは対象としない。

⁴¹ https://www.google.co.jp/maps/vt/data=RfCSdfNZ0LFPrHSm0ublXdzhdrDFhtmHhN1u-gM,iziEFikVNq0umS2eG4wvhlueIBbQGCR8Gif-dMmmpUgsPf6kFbcmv8lxJSB5apeRwOIlyg-o0-AjbpbkMAEBRCbMvFGKFX9yVLumZ-ZY85vmQCGiXk9QvwVqndjG3HkTLVMfMXOo_rAvF9d-aURQA6mBEqneuvr-XiXw3_lifYTP4wgClqOVZgl3DfLdb13D5nV4LMN4yUJVh1-Q (2015/12/15 閲覧)

ルートを取ることが多い。同広場が集合場所になることも何度かあった。詳しくは第 3 章で扱うが、貼り紙などの作業を一通り終えた一行は、広場の北にあるレピュビュリック通りを北上しながら後述の「ライト・オフ」を行っていた（写真 8⁴²）。レピュビュリック通りはリヨン最大クラスの商店街で、マクドナルドやスターバックス、ZARA などのグローバルチェーン店、携帯電話会社オランジュ、チェーンベーカリーのブリオッシュ・ドレ、映画館のパテなどフランスの大手企業などが並んでおり、休日は多くの人を訪れる。なお、南部のペラーシュや商業地区のコンフルアンス地区も集合場所や活動場所として選ばれたことはあるが、それほど回数は多くない。

メトロの駅では、北からコルドリエ、ベルクール、アンペール・ビクトール・ユゴー、ペラーシュと A 線のほとんどの駅が 2 区内にある。中でもベルクールは観光地でもあるうえメトロ D 線と、ペラーシュは国鉄とそれぞれ連絡しているため利用客が多い。

ではその 2 区のデータを確認してみよう。まず、持ち家率と家族世帯の割合の低さと単身世帯の多さが目に付く。持ち家率・家族世帯の割合がいずれも市内最低であるのに対し、単身世帯は市内最高であり、借家に住む一人暮らしの者が多いことがわかる。また、15~29 歳が人口の 33.7%を占め（9 区中 2 位）、長期高等教育を修了した者が多く、学生の割合は市内で唯一 2 割を超えトップである。ここまでの傾向は先に見た 7 区と変わらず、それよりもさらに一人暮らしの学生という住民像が色濃く浮かび上がってくる。

しかし、選挙結果は 7 区と真逆と言っていい値を示している。2014 年の地方選の投票結果を参照すると、第 2 回投票で右派が市内でもっとも高い支持を集め、左派は不人気、また第 1 回でのエコロジストの得票は 6.05%と 9 区中最低だった。7 区と類似した住民像で、かつ同じく緑の党の支持層ともなりうる高度知的職業従事者⁴³は 7 区よりも多い⁴⁴中、支持政党にここまでの開きがあるのは不思議にも思われる。ただ、その他のデータを見ていくと、7 区とは異なる点がある。まずは経済面について、レピュビュリック通りの商店街に代表される市内有数の商業地区であり、所得の中央値は市内 2 位、貧困率は市内で 3 番目の低さと、7 区と比較するとある程度の豊かさがあることが読み取れる。

また、大学についても注目したい。2 区を中心にある大学は、リヨン＝カトリックという

⁴² <https://www.google.co.jp/maps/@45.7585152,4.8354168,17z?hl=ja> (2015/12/15 閲覧)からスクリーンショット

⁴³ ただ、INSEE による調査での高度知的職業には管理職も含まれている。前出の畑山（2012）は、緑の党支持者のプロフィールとして中間管理職を挙げているが、同調査では中間管理職は別項目となっている。ゆえにここでの「管理職・高度知的職業」における管理職は上級である可能性があり、必ずしも緑の党の支持者となりうるとは言えない。

⁴⁴ 一方同じく緑の党支持層の中間管理職はやや少ない（16%）。

カトリック系の私立大学である。フランスの私立大学は学位授与権がない⁴⁵など、国立大学やグランゼコールとは違った立ち位置にあり、公立と比べ数も少ない⁴⁶。また高等教育研究省のサイトによると、私立の宗教系の高等教育機関の13校のうち5校がカトリック系であり、リヨン＝カトリックはその一つである⁴⁷。上記の通り商業地区であるという点に加え、宗教系の私立大学の学生が多いという点も、7区との違いの一因と言えるかもしれない。

・1区



48

1区はリヨン北部に位置し、面積は全9区の中で最も小さい。1区で重要な場所は、市庁舎のあるメトロA線（およびC線）のオテル・ド・ヴィーユ駅周辺である。メトロの駅で言えばA線のオテル・ド・ヴィーユ駅と、丘を登るC線のクロワ・パケ駅が含まれる。市

⁴⁵ http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/data/syogaikoku/1352615.htm (2015/12/15 閲覧)より入手可能な、文部科学省「諸外国の教育統計」平成26(2014)年版」(エクセルファイル)より

⁴⁶ <http://www.ambafrance-jp.org/article4034> (2015/12/15 閲覧)

SFCの宮代教授によれば、フランスに私立大学は厳密には存在せず、私立の高等教育機関はuniversitéを名乗れない。

⁴⁷ <http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid49085/les-etablissements-d-enseignement-superieur-privés.html> (2015/12/15 閲覧) なお同校は、リヨン＝カトリックは、リヨンの大学連合「Université de Lyon」に加入している。<http://www.universite-lyon.fr/l-universite-de-lyon/les-etablissements-membres-et-associes-314457.kjsp?RH=PFR-Udl&RF=PFR-Udlmem> (2015/12/15 閲覧)

⁴⁸ https://www.google.co.jp/maps/vt/data=RfCSdfNZ0LFPrHSm0ublXdzhdrDFhtmHhN1u-gM,31h2vjtL7Lz80UiP45IqBbMW3FbOqYN-90F_R7VT-yAA7_KJCyI79CkpoaU8_i4OdaZmmVW8jCQ7ufCr0-GpCnrFTsY--s_WGGBk2cBm- oLviX189DhNC2M8_0LAKkYEwl9fIS6e38DbQnS6TyGcmgftEtSKfdXfnZD9jEk9ah9gYLM_UEBeyqYwT_UpwcdRELAIKnWmSUlqm2j2A (2015/12/15 閲覧)

内屈指の芸術地区であり、オペラ座や美術館など文化・芸術施設が集中している。また、市庁舎や美術館に囲まれたテロー広場は、中心に噴水があつたりカフェやバーが並んでいたり、おしゃれな場所という印象である（写真 9,10）。

nuit de l'action では、ジャン・マセからスタートしてオペラ座でひと段落したこともあれば、テロー広場からさらに北へ坂道を進み 4 区のクロワ・ルース地区に至ったこともあった。1 区内で活動範囲となっていたのは東側だけであり、西側は筆者も訪れたことがほとんどないが、グーグル・ストリートビューなどで見る限りでは住宅街という印象である。ただ、7 区のような現代風のマンションというよりは、やや古めの建物が目立つ。

芸術地区である 1 区の統計的特徴はどのようなものであろうか。リヨン市全体と比較した場合、15~29 歳が多く、30~44 歳も合わせると 56.2%となる（市は 50.6%）。また、職人・商人・企業主や管理職・高度知的職業、中間管理職の人口が多く、工員が少ない。また、単身世帯の割合がやや多く、独身率が国内でも高い（53.4%）リヨン市と比べても非常に高く、6 割を超えている。また現役世代の割合も高い。そして特筆すべきは学歴の高さである。長期高等教育修了証書を保有している者は、リヨン市では 31.1%だが（これでも国内平均 13.7%を大きく上回る）、1 区では 42.1%である。一方で所得は平均を下回っており、貧困率もやや高い。以上から、1 区には若年～壮年・高学歴・中～低所得・独身の管理職・高度知的職業、中間管理職の者が多いと言えよう。

選挙結果は非常に特殊なものとなっている。1 区では、左派が強く、社会党とは別のリストを作成した左翼戦線が一番人気で、第 2 回投票でも 3 議席を獲得しており、エコロジストも 10%を超える票を得ている。左翼戦線の得票率 33%超は、2 番目に高かった 4 区の 10.02%を大きく引き離しており、突出している。なお 1 区は、右派連合が 1 議席も取れなかった唯一の地区であり、極右の得票率が 9 区中最低である。こうした投票結果は、先に見た区内の住民像（高学歴で所得低く、知的な職業に就く若者）に照らし合わせると納得できる。

・ 4 区



4区は1区の北に位置する小さな街で、高台にある。中でもクロワ・ルースの丘（写真1 150）が有名で、ブティックやショップなどが並んでいた⁵¹、マルシェが賑わっていた⁵²するほか、道に石畳が敷き詰められており、丘からリヨンの街が一望できるなど、非常に高級感のある閑静な街である。ちなみにクロワ・ルース地区は、古くは絹織物業が盛んだった地域でもある⁵³。私が参加した *nuit de l'action* で訪れた回数は1,2回であった。メトロの駅では、丘を登るC線のクロワ・ルース駅と、エノン駅が含まれる。

4区のデータも興味深いものである。持ち家率が高い、貧困率が低い、所得が高い、移民が最も少ないなどの数値上のデータは、上述の街の印象や特性を裏付けている。そしてこれまで見てきた各区と比べても大きく異なっている点がある。それは、若者が少ないことだ。15~29歳と学生の割合は市内最低であり、年齢別の人口比率の表を見ても中高年が多いことがわかる。また、長期高等教育修了者の割合は平均よりは高いもののそれほど多くはないほか、中間管理職に就いている者の割合が高い。独身者が少なく、家族世帯が多いことから、比較的裕福なファミリー層が暮らしていると考えられる。

⁴⁹ https://www.google.co.jp/maps/vt/data=RfCSdfNZ0LFPrHSm0ublXdzhdrDFhtmHhN1u-gM_uvxp3KawOwG_OcIZGX3VFjY-3ujePtJa2ELbsn-3Xw-dQe5t1-Vim8WmiROMM44Cds7geZVmzYjwXdMgKCTtNnGEIO5jK58HYgNGnlYzB2XNpp6qtG-fPazhOLOmYycSiYzBubQKr8T1--DHmUqMNBnzKWImIhS_50nYkpYGQhdZWBfKvKCiBYbvaEb-54jt9wYC4a4fUd0mXmMpQ (2015/12/15 閲覧)

⁵⁰ http://www.mairie4.lyon.fr/page/decouvrir-le-4e_4.html より (2015/12/15 閲覧)

⁵¹ http://www.jp.lyon-france.com/node_60/node_64/node_5524 (2015/12/15 閲覧)

⁵² <http://www.tsujicho.com/oishii/recipe/letter/totteoki/marcher.html> (2015/12/15 閲覧)

⁵³ http://www.jp.lyon-france.com/Visites-guidees/node_16243/Croix-Rousse-traboules-la-Maison-des-Canuts (2015/12/15 閲覧)またその名残からか、工業関連の施設が平均より多い。

選挙結果ではまず注目したいのが、エコロジストが市内で最多の票を集めた点である⁵⁴。エコロジストの支持層とされる若者や学生が市内でもっとも少ないにもかかわらずこの結果となったことは印象的である。そのほか左翼戦線も 1 区に次ぐ得票率を記録するなど、全体的に左派が好成績を残した。住民像や各種のデータは 6 区とあまり変わらないが、6 区では右派が圧倒的な支持を集めており、必ずしも所得や人口構成のみが選挙結果、特に左右の選択を決定するわけではないことが読み取れる。

1-3 まとめ

では、ここまで見てきた JE の活動範囲が含まれる地区の特徴をまとめておこう。まず 7 区は、若者、特に学生が多く、所得が低い、街は主に学生マンションやスーパーなど生活の空間である。2 区は一人暮らしの若者、学生が多く、学歴と所得が高い、街はレピュビュリック通りを中心とした商業地区、ショッピングエリア。1 区の住民像は若年～壮年・高学歴・中～低所得・独身の管理職・高度知的職業、中間管理職で、街には芸術・文化関連の施設が多い。4 区は持ち家率と所得が高く、貧困率と移民の割合が低く、中間管理職の比較的裕福なファミリー層が多い。街は市場やブティック、住宅が並び閑静で高級感がある。以上をまとめると以下の表のようになる。

	学生	学歴	所得	左派・緑	治安・雰囲気
7 区	多	中	低	強	中～良
2 区	多	高	高	弱	良
1 区	少	高	中～低	強	良
4 区	少	やや高	高	強	良

これらの情報からまず言えることは、JE の活動は、リヨンの中でも学生数が多い（≒距離的にも心理的にも身近な）ところ（7,2 区）および左派・緑が強いところ（7,1,4 区）⁵⁵で行われているということである。これら 4 区のうち、JE がもっとも活動を盛んに行っている 2 区がやや特徴を異にしているように思われる。保守派が強い 2 区が対象として頻繁に活動が行われている理由は、まず距離的に近いこと、夜でも多くの人を訪れる繁華街であり、注目を集めやすいこと、そして商業地区であり、反抗・抗議の対象として設定しやすいことなどが考えられる。

⁵⁴ ちなみにエコロジストの得票が極右を上回ったのは全 9 区のうちでここ 4 区だけである。

⁵⁵ 緑が人気のところでは左派全体が強いのは事実だが、これらの地区の年齢や所得構成が必ずしも似たようなものではないことを踏まえると、緑の党は「新しい社会運動」に多く見られるように、階級というよりもある種の文化を共有する人々が政治基盤となっているとも言えよう。

・その他の地区

これまではJEが活動を行っていた区を見てきたが、リヨンには他にも5区存在している。この中には興味深い特徴を有しているところがある。これらの地区は本稿の分析や主題には直接関係しないが、言及しておくことは無駄ではないと考える。ここでは、6区および8区・9区を見て行きたい。

まず6区は、注目すべき選挙結果を示している。それは、第1回投票において右派が過半数の票を集め、第2回投票が行われなかったことである。他の8区ではすべて第2回投票が行われていることを考えれば、右派に対する圧倒的な支持と言ってよいだろう。緑の党や左翼戦線は全く支持されていなかった。その1区を大きく特徴づけているのは、所得の高さである。所得の中央値は28000ユーロを超え2位の2区(24819.8ユーロ)を引き離しているほか、最下位の8区とは10000ユーロ近い差がある。他にも、貧困率が最低で、長期高等教育修了者が5割弱と非常に学歴が高いのも特徴的だ。また、75歳以上が10%強を占めるなど、高齢者が多いことも特徴の一つである。こうした裕福で高学歴な高齢層が多いという特徴は、多少の差はあれ、投票結果が真逆の4区と共通するところが多い。しいて言うなら、4区には中間管理職従事者が多い一方、6区は少なく、管理職・高度知的職業従事者が多い点が異なる。また、6区の面積の多くは大公園のテット・ドール公園が占めており、それ以外はマンションを中心とした住宅街である。

次に8区と9区を見ておきたい。これらの2区は、8区が市の南東、9区が市の北西と対角線上に真逆に位置し、人口にも大きな差があるが、その特徴は非常によく似ている。まず、経済的に非常に貧しい。貧困率は8区が19%、9区が19.7%と群を抜いているほか、所得の中央値が2万ユーロに届いていないのもこの2区だけであり、生産年齢人口における失業率も15%を超えており、移民の数はこの2区が1,2位である。また長期高等教育修了者はこの2区だけ2割を超えておらず、管理職・高度知的産業従事者も11%台と非常に低く、一方工員が10%超と非常に多い。政治的には極右の人気が高い。特に8区は18%を獲得し、市内で唯一の極右の議員を誕生させている。9区は8区よりはやや低いものの、市内2位の得票率である。「移民多い・貧困・低学歴・労働者」といった潜在的な極右支持層⁵⁶が存在した上でのこの得票率は、セオリー通りと言えよう。

⁵⁶ 畑山,2007:52-59

第2章 リヨンの青年エコロジストたち-JE リヨンの客観的情報

本章から JE についての記述を行うが、適宜巻末資料集に掲載した JE ホームページ上の記述や宣言の翻訳を参照されたい。

2-1 JE とは一概略

緑の党の考え方に「賛同する」⁵⁷、若者たちによる地域レベルのグループの連合体が「Les Jeunes Écologistes」である⁵⁸。若者のエコロジストグループの歴史は 25 年と古いが、現在の JE が誕生したのは 2011 年 1 月のことである⁵⁹。通常の活動は地域ごとに存在するグループによって行われ、「あらゆる分野・レベルにおいて、エコロジーのための文化的な闘争に勝利するために闘う」⁶⁰ことを目的としている。

筆者が、2013 年 12 月から 2014 年 5 月末までの半年弱にわたって活動に参加したのは、本土に存在する 17 のグループのうちの一つ、「Jeunes Écologistes Lyon」(JE リヨン)である。

2-2 JE リヨン グループ紹介

後述の中心メンバー・ナターシャによれば、JE リヨンは現在の形では 2011 年より活動している⁶¹。

組織形態としては、部署や役割などは特に決められておらず⁶²、強いて言うなら会議で司会を担当することが多い人や、積極的に発言・活動参加しリーダーに近い役割を担う人(会議を仕切ったりイベントへの参加を呼びかけたり)する人がいたり、メーリングリストの管理者がいる程度である。活動において役割が細かく決められていたり、参加者に強くコミットメントが求められたりするようなことはあまりなく、内部は基本的にネットワーク型であると言える。ただ、後述する通り新しい団体規約が採択され、メンバーシップ型の様相が強まったと見ることもできる。

JE 専用の決まったオフィスはなく、会議やアクション前の打ち合わせ・作業はメンバーの自宅(アパート)で行われるか、7 区にある緑の党のオフィスが使われる。

⁵⁷ <http://www.jeunes-ecologistes.org/statuts/> (2015/12/15 閲覧) また、JE のメンバーであるからと言って緑の党の党員に自動的になるわけではない、ということも書かれている。

⁵⁸ <http://www.jeunes-ecologistes.org/lorganisation/> (2015/12/15 閲覧)

⁵⁹ <http://www.jeunes-ecologistes.org/historique/> (2016/01/11 閲覧)

⁶⁰ <http://www.jeunes-ecologistes.org/le-mot-des-secretaires-federaux/> (2015/12/15 閲覧)

⁶¹ これは上述の通り JE 連盟と同様である。

⁶² これは「集団指導制」(collégialité)と表現されており、他の JE とは違う JE リヨンの特徴であるとセドリックは説明している。また、決められている役割は男女各 1 名選ばれる財務担当だけである。

外部との関係に関して、まず JE リオンは全国レベルの「JE 連盟」の一員である。連盟からのメールや連絡がメーリングリストで転送され共有されることがあるほか、JE のフォーラムに参加して他地域のグループと交流することもある。ただ、日常的に密接な関係はそれほどない。

次に緑の党リオンとの関係が挙げられる。緑の党リオンのホームページには「リオンのエコロジストたち」という項目に JE が掲載されており、連絡ができるようになっている⁶³。党の活動に JE が駆り出されたり、党から JE に対して活動の指示が出されたりすることはなく⁶⁴、あったとしても協力を呼びかける党のメールが党に近いメンバーによってシェアされたり、党の担当者から連絡が入ったりする程度であるが、中心メンバーのセドリックは、党からの影響（の可能性）を強く嫌っている。党のオフィスを JE の活動で使用したり、選挙前のミーティングや選挙時の開票速報視聴会に JE が呼ばれたりすることもある⁶⁵。メーリングリストには、たまに党の担当者⁶⁶から事務連絡が来る場合があり、内容は JE に興味を持った人を紹介するものであることが多い。

その他の団体との恒常的な関係は特にないが、反 TAFTA⁶⁷や気候変動など、共通するテーマがあれば他団体と協力してアクションを行うことも多い。ほかにも 2014 年 2 月 8 日にはスクワット（廃墟となった建物に不法に住み着くこと）を行っている若者たちの団体と共に反過剰消費のアクションを行った。詳しくは後述するが、2014 年半ば頃から開発地区におけるキャンプなど直接行動的な運動との関わりを強めようという流れも見られる。また、*nuit de l'action* のビラ貼りの際左翼戦線のポスターのある掲示板の前で、「この人の上には貼れない」などと好意的な発言をしていたメンバーがいたほか、セドリックは緑の党が「社会党よりも左の」勢力と連携することを期待するなど、他の左派・左翼勢力には好意的な感情を持っている。

一方、オランダ率いる与党・社会党とのエコロジストの連携については否定的である。セドリックやナターシャは、緑の党リオンがコロンの社会党と連携しないことを決定した際、これを歓迎する趣旨の投稿を facebook で行っていた。セドリックはリオンのエコ

⁶³ <http://lyon.eelv.fr/les-ecologistes-lyonnais/les-jeunes-ecologistes/> (2015/12/15 閲覧)

⁶⁴ 集票や支持の呼びかけのような党の得票促進のための活動はもちろん、どのような活動をするかも JE の裁量に任されている。

⁶⁵ こうした党公式の集会に JE のメンバーが参加することはほとんどない。参加していることが多いのは、党のメンバーに顔見知りが多いナターシャである。

⁶⁶ 筆者が初めての取材で党のオフィスを訪れた際に、JE を紹介してくれた人物。

⁶⁷ Transatlantic Free Trade Agreement（環大西洋自由貿易協定）のこと。

http://www.lemonde.fr/les-decodeurs/article/2015/10/13/si-vous-n-avez-rien-suivi-au-taf-ta-le-grand-traite-qui-effraie_4788413_4355770.html (2015/12/15 閲覧)

ロジストはコロン市長から酷い扱いを受けてきていると話しており、市長の操り人形状態から脱すべきだと主張している。

次に、街の中での JE の位置についてだが、*nuit de l'action* で街を行き来する際の通行人たちの反応は、おおむね好意的なもの（あるいは単に無関心）であった。基本的には貼り紙等をしていても特に注意を向けられることはないが、中にはグループの活動や様子に興味を持って話しかけてくる通行人もいた。そうした時にセドリックは、立ち止まって自分たちのコンセプトや活動を熱心に紹介したり、社会の問題について通行人と話し合ったりしており、アクションは草の根民主主義を広める場でもあると語っていた。一方で消灯運動の際は、映画館の係員に見つかってひどく注意されており、レピュビュリック通りのショッピングエリアの中には彼(女)らの活動を好ましく思っていない人もいたようだ。

以上の関係を図にしたものを巻末資料集に掲載したので参照してもらいたい（図 1）。

2-3 JE リヨン メンバー紹介

中核メンバーとして参加するためには会員となる必要があり⁶⁸、会議や *nuit de l'action* の日時や内容は会員であるメンバーが決定する。ただ、実際の活動においては会員であるか否かはそれほど重要性を持たない。参考程度に、facebook グループには私を含めて 61 人の参加者がいる⁶⁹が、全員が一堂に会することはまずなく、ふだん会議に参加しているのは 10~15 人程度で、ほとんど全ての活動に参加している人、会議にはよく来る人、一度しか会ったことがない人など様々な層の参加者がいる。筆者が参加していた時期にほぼ必ず参加していたコアメンバーは以下で紹介する。参加者のほとんどは、筆者が参加していた 2013~14 年時点から見て 1 年以内に活動を始めた者たちばかりであった。

リーダーは正式には置かれておらず、「集団指導制」が取られているが、活動面・事務面でのリーダー的存在はいた。以下における学年などの情報は私が参加していた 2013 年冬~2014 年春当時のものである。

セドリック：活動面でのリーダー的存在。男性。会議ではたびたび司会を務めて積極的に発言し、アクションでも指導的な役割を担う。JE リヨンの象徴的・中心的人物と言っても過言ではない。長髪にひげを蓄え、麻のズボンのようなものを履いてタバコをふかす、ヒッピー的なスタイルの青年。14, 5 歳のときにアフリカでの森林伐採についてのドキュメンタリーを見てエコロジーに関心を持つようになり、2009 年からエコロジスト活動に参加するようになった。

⁶⁸ メーリングリストも、会員用とシンパ（賛同者）用で分かれている。

⁶⁹ 2015/12/17 現在

シアンスポ4年生で、2014年5月から3カ月ほどヨーロッパ歴訪の旅に出ると語っていたが、帰国後は再びJEの活動に復帰している⁷⁰。このヨーロッパ歴訪の際、ドイツで行われている反化石燃料回帰運動のキャンプに参加した。この経験が彼に強い刺激を与えたようで、「理論家ではない行動するエコロジー活動家に出会える」とメールで語っていた。その後JEのメーリングリストでは、スクワットの人々が行っている開発反対運動への支援など、直接行動的なアクションが積極的に取り上げられるようになっていた。これらの（空論的ではない）直接行動への関心は、第3章に掲載したインタビューへの回答にも強く見られる。

JEの中でももっとも急進的な考え方の持ち主と言え、大麻合法化に賛成し、緑の党の社会党からの独立、JEの緑の党からの独立を強く主張しており、JEの、党に左右されない自由で自立した活動を重視する（もちろん、緑の党と価値観を共有しているのは言うまでもない）。*nuit de l'action* など、運動・行動への参加に積極的である。後述の反過剰消費アクションの際は、私をアクションに誘ってくれたほか、JEメンバーの中でもっとも積極的に活動を行っていた。

一方で、言動が急進的であるからと言ってもまったく節度がないわけではなく、運動・活動が法律を遵守したものであることを常に意識したり、*nuit de l'action* のポスター貼りの際、某団体の所有物である掲示板に誤ってメンバーがポスターを貼り、その団体から激しい抗議のメールが送られてきたときには、反省と注意を喚起する非常に真面目な文体のメールを流したり⁷¹するなど、一定の分別ある行動をとることができ、かつそれをメンバーにも求めているといえる。

アクションの際には話しかけてきた通行人に活動を紹介するなど気さくにやりとりし、こうした草の根での活動が重要だと話していた。また、自分の将来について未定だとし、会社勤めはしたくないと話していたことがある。出身は西岸のダックスという街だが、引っ越しを繰り返したという。両親の仕事はともに公的なもので、父は医療関係の仕事、母はソーシャルワーカーである。政治的には父はオランダを支持しており、母はよりエコロジストに近いが、家庭ではエコロジストは自分だけだと話していた。アパートの一室でシェアハウスをしている。

以上のようにJEリヨンの実質的な指導的立場にあり、彼の言動が活動内容や方針を左右することも少なくない。後述のとおりグループの組織化を志向するジョアンナは、反体制的・独立的な姿勢を鮮明にするセドリックがグループに強い影響を与えていることを指摘

⁷⁰ フランスの教育機関ではバカンスに当たる時期であり、そもそもJEの活動がなかった。

⁷¹ この際、不法行為をすれば法律で罰せられる場合もある、そしてそういうことは起こってほしくないとも書いていた。

していたが、それに関して鋭く対立するということもなかった。そのほかのメンバーはセドリックの役割に特別不満を抱くこともなく、それを受け入れている。

先述のとおり、緑の党の社会党からの独立、JEの党からの独立を非常に強く主張しており⁷²、後述の規約採択の会議では、JEメンバーが必ずしも黨員とはならないという規定を強調していた。

ナターシャ：事務面でのリーダー的存在。女性。緑の党やJE連盟との関わりが深く、党関連のメールや全国レベルのメールをシェアしたり、党や連盟との連絡の窓口になったりしている。メーリングリストに参考になる情報の紹介やイベントへの参加呼びかけのメールを投稿することが多い。また、facebookページの管理者になっている。

会合のために自宅のアパートを提供することがしばしばある。すでに大学・大学院を卒業しており（大学時代はリヨン・カトリックに所属、大学院も私立。専攻は環境学）、Lyonnaise des eaux (GDF Suez、水道・電気会社)に3年間勤めていたが辞め、2014年現在は定職についていない。大麻を自宅で栽培する自由は認められるとして大麻合法化容認の立場を取っている。

党との関係性については、あるべき関係性を"autonomie solidaire"（連帯ある自立）と表現していた。つまり、JEは緑の党に属するわけではないが、他の党につくことはできず、党と価値観を共有すると規約にもある⁷³ように、基本的には協力関係、連帯をもつべきであるが、それは自立したものである必要があると言っていた。党とのかかわりも強く、選挙前のミーティングや開票速報の視聴会など、党関連のイベントに顔を出していることも多い。党からの独立を強く主張するセドリックに比べれば、穏健、党寄りの立場と言える。ただ、特徴的な髪のかき方をしたり、ヘビースモーカーであったりと、セドリックのような反体制的な姿勢も見て取れる。

ルイズ：中心メンバーの一人。当時シアンスポ2年生で、2014年9月から台湾に留学していた。ランス出身で、父がワイン醸造会社の"directeur"⁷⁴で母は銀行員（全国的に知られた銀行）、エコロジーの考え方は両親と全く共有していないという。また、妹は獣医を目指している。

14年9月からの台湾に留学に関して少し不安に思っていると話しており、フランスに来

⁷² 彼はこの主張をする際、"marionette"「操り人形」という言葉を好んで使う。すなわち、JEは緑の党の、緑の党は社会党の操り人形になるべきではないというのである。

⁷³ <http://www.jeunes-ecologistes.org/statuts/>（2015/12/15 閲覧）

⁷⁴ 部長などの重役を指している言葉。

でどう感じたかなどを私に尋ねていた。ある会合の際には、日本の政治や社会の情勢に強く興味を示し、日本は未だ男性優位社会なのか、フェミニズムはどうか、マスコミについて、アメリカの影響力、留学予定の台湾が原発建設を凍結したことに関連し、原発についてなどいろいろ質問され、意見を交わした。外国人の私にもわかりやすく話してくれ、特に親切に接してくれた。グループ内では比較的穏健な立場と言える。

ポリヌ：ストラスブール出身。女性。シアンスポに所属する1年生で、日本語を勉強しており、彼女のfacebookによれば日本のマンガにも興味があるようである。リヨン第2大学にも参加している。私がリヨン第3大学で勉強していることを話すと、リヨン第3にはファシスト的な教授がいる、と話していた⁷⁵。大麻合法化に賛成。

セドリックの影響なのか、次第に彼と似たようなヒッピールックをするようになっていった。発言数はあまり多くないが、ほかのメンバーと比べてセドリックに近い考え方を持っている印象を受ける。特に一学年上のシアンスポのメンバーたちが留学で不在となった2014年の秋学期頃から、*nuit de l'action* や定期会合には積極的に参加しており、メーリングリストへもよく投稿している。

ジョアンナ：リヨン＝カトリック所属。女性。トゥルノン⁷⁶出身、二人の兄がいて、一人はグルノーブルにおり、もう一人はリヨンで緑の党で働いているという。父は小さな村で役人の仕事をしており、母はソーシャルワーカーという家族構成。エコロジーの考え方は家族で共有されている。

緑の党のオフィスで作業をしていた際、大麻合法化についてまだよく知らないし賛成と言えるかわからないと話してくれた。またその際、ナンシーで行われた全国JE会合に出席した話もしてくれ、リヨンに比べ他地域のJEは、コーディネーターが置かれ非常に上手く組織されている、リヨンも参考にすべきだとの考えを示していた。

⁷⁵ リヨン第3大学に通っていることを話した時のJEメンバーの反応は、概して好意的なものではなく、「リヨン第2じゃないの?」といった発言もあった。リヨンには第1, 2, 3それぞれの大学があるが、初めは一つの大学だったのが、まず68年五月革命の際に第1と第2に、その後73年に第2がさらに現在の第2と第3に分裂して誕生した。<http://www.univ-lyon2.fr/universite/> (2015/12/17 閲覧)

また、リヨン第2大学は左派で第3大学は右派であるとの指摘を複数の学生から耳にしたことがある。Wikipediaの情報ではあるが、リヨン第3大学は、その極右的な教育内容から80~2000年代に非難されていたことがあるようである。https://fr.wikipedia.org/wiki/Universit%C3%A9_Lyon_III_Jean_Moulin#cite_ref-3 (2015/12/17 閲覧)

⁷⁶ ローヌ・アルプ地域圏の小さな街。

「セドリックの影響でリヨンのJEはアナーキーな傾向がある」と話していたこともあり、こうした発言や大麻に関しての態度からも見て取れるように、JEの中ではやや保守的であり、グループの統一や組織化を重視する傾向がある。

また、facebookグループでナターシャとともに共同管理人になっているほか、前述のとおり2015年2月ごろから、メーリングリストに流されるJE名義のメールの代表者（末尾の署名者）になっており⁷⁷、JEにおいて中心的な役割を果たすようになったようである。このように活動には積極的に参加しており、運営方法に関して独立志向の強いセドリックと対立するようなことはない。

クレール：フランス北西部・ペイ・ド・ラ・ロワール地域圏、サルト県の街・サブレ＝シュール＝サルト出身⁷⁸。当時シアンスポ2年生で、同じくシアンスポ2年生のルイーズと仲が良い。ある *nuit de l'action* の際に彼女にシアンスポの学費について尋ねたところ、貧しい家庭は学費が免除され、収入が増えるにつれて上昇すると教えてくれた。会合や *action* でよく顔を見るが、筆者の参加していた時期の終盤（2014年4、5月ごろ）は欠席しがちだった。

後述の反過剰消費アクションの際、筆者同様その場には居合わせたか、やや過激ではないかという筆者の意見に同調し、積極的に活動に参加していなかった。

セドリックやポリーヌとは異なり、身なりは一般的で、普通の大学生という印象を受ける。15年12月に連絡した際にはすでにJEから脱退していた。

フランセット：ブルターニュ地方、レンヌ近郊の出身。女性。シアンスポ2年生で、2014年9月から中国に留学。会議のためにアパートを提供することがよくあり、司会・書記を務めることも多い。ポリーヌ同様発言はそこまで多くないが、基本的に会議や活動には参加する。

サラ：フランス南部・エクス＝アン＝プロヴァンス出身、両親は現在もエクス＝アン＝プロヴァンス在住。女性。シアンスポ1年生。セドリックほどではないが、ラフな格好をしており、考え方もほかのメンバーと比べると急進的な印象を受ける。

あるアクションでは、道に座り込んでいたホームレスと思われる高齢男性を助けようと救急に連絡するなどして介抱し、そのままアクションから離脱して男性に付き添っていたことがあり、正義感が強い性格。ちなみにこのとき他のメンバーはアクションを続けた。

⁷⁷ 現在は私の参加していた頃にはいなかった別の人物になっている。

⁷⁸ Facebook の情報。

なお、JE の facebook グループになぜか参加していない。2014 年 4 月の会合でリュカとともに財務担当に選ばれた。

リュカ：シアンスポ 1 年生。ポワティエ出身。男性。エコロジー思想には高校時代から関心があったが、運動に参加するようになったのは大学に入ってから。進学先にリヨンを選んだのはカッコいいからと話していた。

卒業後の進路については未定だが、マスター（修士課程）はやりたくないと話していた。活動への参加は頻繁だが、発言数はそれほど多くなかった。アクションのための作業など、活動中はとても楽しそうにしている。2014 年 4 月の会合で、財務担当に選ばれたが、メーリングリストに投稿があまりなくサラから返事を催促されるなどしていた。

ミレイユ：シアンスポ所属、パリ郊外のサン＝ジェルマン＝アン＝レー出身⁷⁹。女性。会合の際書記を務めることが多い。発言はそれほど多くないが、活動にはほぼ毎回参加していた。

2014 年 10 月に、しばらく JE の活動に参加していないこと、今後も参加する時間がなさそうなことを理由に脱退したいという旨のメールを投稿した。これに対しルイズとポリヌが餞別の言葉を投稿している。なお、JE の facebook グループからは脱退していない。

以上が、私が参加していた頃の JE リヨンの中心的なメンバーである。

2-4 メンバーの性格や日常

前節からわかるように、JE リヨンに積極的に参加しているメンバーは高学歴者、特にシアンスポ在籍者が多い。また、親は社会的に一定以上の地位の職業についている場合が多く、出身家庭は中産階級以上と言ってよいだろう⁸⁰。これらは、しばしば緑の党の支持者像として挙げられる特徴と一致する⁸¹。ちなみに前章で見たとおり、シアンスポの存在する 7 区は学生の多い地区であり、緑の党の支持率も高い。また、中心メンバーにリヨン出身者がいないことも指摘しておくべきだろう。

ナターシャ以外のメンバーは学生であり、彼(女)らは日常的には学生生活を送っている。それがよくわかるのがテスト期間であり、会議の際にテスト勉強のために活動に参加できないと発言するメンバーがおり実際に活動やメーリングリストの利用が行われないなど、

⁷⁹ Facebook の情報。

⁸⁰ 家族とエコロジー思想が共有されているかどうかは場合による。

⁸¹ 畑山,2012:70

学生としての本分を捨ててまで活動に身を捧げるという意図はそれほど感じられないほか、休暇中も帰省する者が多いため活動は行われない。

ナターシャは前述のとおりまたすでに学生ではないため活動に多くの時間やエネルギーを割くことができるうえ、党との関係も深いので JE にとどまらずエコロジー運動に深く携わっている。またセドリックは、学生ではあるがそれほど学業や学校に通うことに重きを置いていないようであることに加え、党の影響を強く嫌うため、JE での草の根の活動に力を注いでいる。

団体規約第 4 条にもあるとおり、活動の期間は定められておらず、団体や活動の将来について細かい展望があるようには思えない。メンバーが自分たちの将来についてそれほど深く考えている様子はないことは、リュカの態度にも見られる。ただ、修正した規約を県庁に提出して法的な団体になることで、より継続的で安定した団体を目指していることが見て取れる。メンバーが今後についてどう考えているのか詳しく話したことはないが、シアンスポのプログラムにより留学する（した）メンバーがコアメンバーに 3 人いる。

・インターネットの使用頻度について

JE メンバー用のメーリングリストがあり、アクションや会合の告知や参加呼びかけ、日程の調整や参加表明、会合の議事録の共有などが行われている。メーリングリストには会員用とシンパ（賛同者）用の 2 種類があり、調整等が行われるのは前者で、後者は JE 名義で *nuit de l'action* など活動の案内をする時にのみ使用される。メーリングリストの用途は専らこれらの事務的なやりとりであり、メール上で議論が行われるようなことはほとんどない。

メーリングリストは、活動が行われている間は毎日のように利用されているが、活動が行われなくなるとともに利用されなくなる。活動がない期間とはすなわち、テスト期間やバカンス中であり、たとえばバカンス中の 7 月（2014 年）、クリスマス期間（2014 末~2015 年明け）は利用がほとんどない。

メンバーのメーリングリストへの投稿頻度は、セドリックとナターシャが非常に高い。イベントの呼びかけ等で音頭をとるのは多くの場合ナターシャである。2014 年前半はクレールも利用が多かったが、後半からは利用しなくなった⁸²。2014 年後半からはサラとジョアンナの投稿が目立つようになる。

投稿されるメールに共通しているのは、言葉の使用における男女平等意識である。フランス語の人を表す名詞には男性形と女性形があるものがあり、その名詞が複数形になる時

⁸² 留学したためだと思われる。

は、男性が一人でも含まれれば基本的には男性形をとる（例：「すべて、全員」をあらわす tout（女性形 toute）の複数形は tous（女性形 toutes）で、構成員に男性が一人でもいれば tous をとる）が、JE のメールでは男性形・女性形が並べて表現されることが多い（例：to u-te-s）。単数形でも quelqu'un-e（だれか：男性形は quelqu'un、女性形は quelqu'une）のような表記が見られる。こうした表記からは、意識的に言葉遣いの領域からも男女平等を実践していることが伺える。

また、セドリックとナターシャは特に facebook を使った情報・意見の発信が多く、サラやポリヌなど他のメンバーも facebook に政治的・社会的なことに対して意見や情報を掲載することがある。JE メンバーの facebook グループがあり、たまに投稿がなされるが、そこで議論が行われることはほとんどない。

JE の公式ツイッターアカウントも存在するが、フォロワー数は 200⁸³と非常に少なく、ツイートも頻繁には行われていない⁸⁴。メンバー専用の facebook グループもあるが、こちらもごくたまに投稿がある程度で、ページ上で議論や意見交換は行われない。

以上からもわかるように、活動におけるセドリックとナターシャの負担が非常に大きい。これは 2014 年 12 月の会合の話題に上ったことがメーリングリストで報告されている。

2-5 その後の JE

私が JE の活動に参加していたのは 2014 年の 5 月末までだったが、ここでその後の JE について簡潔に述べておきたい。

先述の通りセドリックは 2014 年の夏休みにヨーロッパ歴訪の旅に出かけ、ドイツでは化石燃料運動のキャンプに参加し、そこで真の活動家にあつたと力説していた。その影響からか、ミツバチの減少に関するアクション、市民的不服従、スタジアム建設反対、共同庭園、フランスでの気候キャンプなど直接行動的なアクションが俎上に載せられている。また 2014 年の 12 月には、協力相手の他団体として、大麻合法化を掲げる CIRC リヨン、反 TAFTA 運動を行う Colibris、エネルギーの浪費に反対するゼロ・ワット、スーパーなどで捨てられた食品を道で配る活動を通じて農産物加工業の無分別を告発する Les gars'pill eurs、環境・人権団体の Engraineurs、居住権を訴える lutte pour le droit au logement などが、挙げられていた。

同時に一方で、活動が停滞気味であることが指摘され、参加者不足に苦しむ様子もうかがえたほか、セドリックやナターシャが多くを担当していることも述べられており、誰でも思う通りにイニシアティブを取っていいということも確認されていた。その後もシンパ

⁸³ https://twitter.com/JE_Lyon (2015/12/15 閲覧)。

⁸⁴ 同上日現在で 139 ツイートにとどまり最後に更新されたのは 2015 年 6 月 18 日である。

用のメールには *nuit de l'action* をはじめとする活動の連絡が送られてきている。

2-6 まとめ

では **JE** というグループについて簡単にまとめておこう。全国レベルの **JE** 連盟に名を連ねる **JE** リヨンは、決まったオフィスや固定された組織形態を持たず、参加を強制されるようなこともない、ネットワーク型の典型的な「新しい社会運動」であると言える。*nuit de l'action* のように単体でアクションを企画して行動することもあるが、反 **TAFTA**、反過剰消費、気候変動などテーマごとに他の団体と協力することも多い。緑の党と関係の深いグループであることは確かだが、**JE**（特に中心メンバーのセドリック）は、実際にそれが存在するか否かは別として、党からの影響を警戒し、**JE** の独立を説いている。

普段活動しているメンバーは 15 人弱程度、ほとんどが学生でさらにそのほとんどがシアンスポに通っている。学生が多いので、グループの活動期間は大学の授業期間に準拠する。定常的なリーダーは置かれていないものの、実質的にはセドリックが活動面・思想面でのリーダーとなっており、グループに影響を与えている。事務的には党や他の **JE** とも関係の深いナターシャが活動やイベントへの参加を呼びかけるなど、音頭を取っている。他のメンバーはこうした状況に特に疑問を抱くことはなく、それぞれのペースで活動を楽しんでいる。インターネットは連絡手段程度としてしか利用されていない。

第3章 JE とは何者なのか？

ここまで、第1章ではJEが活動を行っているリヨンという街を、そして第2章ではJEに関する客観的な情報とメンバーの性格をそれぞれ見てきた。では、結局JEとは何者なのであろうか？メンバーによる各種の活動を見つつ、彼(女)らが自分たちをどういう運動であると認識しているかを読み解きながら、JEとは何者なのかを明らかにしたい。

3-1 JE リヨンの活動

JEの主たる活動は大きく分けて会合とアクションである。ここでは、これらの2つを中心に、私が見たり参加したりしてきたJEの活動について紹介したい。

・会合

JEのメインの活動は、2週に1度程度のペースで行われる定期会合である。今話題となっている政治や社会のトピックが取り上げられ、それらの問題について自分たちはどう考えるか、JEとして今後どのような立場を取り、どういった行動（デモ、アクション、貼り紙など）を起こしていくのが話し合われたり⁸⁵、次のアクション（主に後述の *nuit de l'action*）のテーマや内容が決められたりする。他にも、厳密には会合ではないが、貼り紙を作成したり、アクションで使う道具を作ったりといった準備作業が行われることもある。

会合と言っても特別堅苦しいものではなく、スナックやドリンクを持ち寄ってメンバーの家（アパートの一室）で行われることがほとんどである。ほかに緑の党のオフィスが会場として使われることもある。

会合の一例として、団体規約について話し合う会が2014年4月にナターシャ宅で行われ、9名が参加した。直接民主主義を掲げるエコロジストの例に漏れず、規約の一条一条について細かい議論が行われ、多数が決するまで投票が行われた（この時の会合の様子は次項で詳述する）。時間は夕方～夜、19:30～20:30 ごろから 22:00～23:00 ごろまで行われ、途中入退室は自由、議題が尽きていったん会合が終了した後も、残って深夜まで議論したり情報交換したりするメンバーも多い。

・ *nuit de l'action*（アクションの夜）⁸⁶

nuit de l'action は不定期に開催される夜のアクションで、JEの活動の根幹をなすものと

⁸⁵ 私が参加していた頃は、TAFTAにどのように反対していくかが盛んに議論されていた。

⁸⁶ <http://www.jeunes-ecologistes.org/blog/2013/09/nuit-de-laction-1lyon/> (2015/12/08 閲覧)

言っても過言ではない。内容はその時々の問題・関心等によって異なるが、毎回自転車⁸⁷に乗って街を移動し⁸⁸、主に JE のポスター貼りや、ショッピング通りに並ぶ店のネオンを、先にフックがついた長い竿を使って消灯させたり、路上にある電動式の広告の電灯を消したりして行く活動（ライト・オフ）⁸⁹、ビラ貼りなどを行う。ビラは監視カメラ設置反対、ポスターは過剰消費や過剰広告に反対するものなどがあるほか、JE やエコロジー思想、エネルギー転換などに関するステッカーやポスターなどもある。一応集合時間や場所は決められているが、初参加者であっても歓迎され、来る時間や帰る時間は自由で、好きな時に加わって好きな時に離脱して良い。強制的であったりストイックであったりすることはなく、純粹に活動を楽しんでいる印象で⁹⁰JE が柔軟なネットワーク型の運動であることがうかがえる。

また、セドリックなどは道端で興味をもって話しかけてきた人に活動の紹介をしたり、社会の問題について議論したりと、アクションをただ自分たちの主張を行う場ではなく、草の根民主主義を広めたり、人々に活動を知ってもらい興味を持ってもらう場としてとらえている。ライト・オフは、映画館など深夜まで営業している施設では迷惑がられることがあるが、それ以外は街に混乱をもたらすような「過激な」行動が行われることはほとんどないし、先述のとおり、あるアクションで誤ったポスター貼りによるトラブルが発生した際にはセドリックが注意喚起するなど、活動がルールや法律を遵守したものになっているかどうかには注意を払っているように見受けられる。

・JE フォーラム

2014 年 5 月初旬頃にナンシーで、フランス中の JE が集結するフォーラムが開催⁹¹され、JE リヨンからはセドリック、ナターシャ、ポリヌ、ジョアンナが参加し、彼女らが感想を話してくれた。口を揃えて素晴らしい会合だった、ほかの地域の JE について見聞きし、彼らと議論したことはとてもよかったと語っていた。特にジョアンナは、リヨンに比べ他

⁸⁷ 自転車は持参するか、街にあるレンタル自転車ステーションのものを利用する。

⁸⁸ 経路は第 1 章の通り。

⁸⁹ 「消灯テロ」と呼んでいるメンバーもいたが、メールでは「ライト・オフ」という表現が使われている。また、この活動はメンバーによれば違法ではないとのことだった。

⁹⁰ 活動の分析や反省などはほとんど行われぬ。例えば、貼り紙をしても翌日にははがされてしまうことは容易に想像できる。nuit de l'action では自分たちが参加しているという意識や楽しんでいる実感が重視されているようにも思われる。ただ、後述のインタビューに対するセドリックの回答を見ると、少なくとも彼はそのスタイルだけでは不十分と考えているようだ。

⁹¹ <http://www.jeunes-ecologistes.org/blog/2014/05/retour-sur-le-forum-de-nancy/> (2015/12/08 閲覧)

地域の JE は、コーディネーターが置かれ、非常に上手く組織されている、と話しており、リヨンも参考にすべきだと考えているようだった⁹²。またポリーヌは、行きはセドリックとともにヒッチハイクをしたとのことである。

・党関連のイベント

選挙の直前などには、候補者の紹介・スピーチが行われる中規模なミーティングや、党主催で行われる小規模な交流会（飲食物が用意され、アットホームな雰囲気の中参加者が談笑する立食形式）が党によって行われるが、JE からは一応の代表であるナターシャが参加する程度で、他のメンバーの関心は低く、参加者はまずいない。また、党から参加を強制されるようなこともない。

2014 年 5 月末の欧州議会選の際にも、結果報道をオフィスで視聴する会が行われたが、JE からはナターシャしか参加していなかった⁹³。

・その他

以上が JE が普段行っている代表的な活動だが、これ以外にも活動が検討されたり実行されたりしている⁹⁴。第 2 章でも述べた通り、それらの活動は、他の団体と協力しながら行われるものが多い。ここではそのいくつかを紹介していきたい。

2014 年 2 月 8 日には、反過剰消費アクションが行われた。全体の参加者は 2, 30 人程度いたが、JE のメンバーは私も含めて 4, 5 人程度であった。参加者は白い布を身にまとい、自分たちを「消費教」の信者に見立てて大きな商店街を練り歩き、マクドナルドや H&M といった有名大型店舗に突撃しては「アーメン!」「ハレルヤ!」「消費せよ!」と叫んだり、商品に向かって礼拝するポーズをとったりして騒ぎ立て、過剰消費を揶揄しアピールするというものであった。なお、傍らで道行く人にチラシを配っている者もいた。特にセドリックがスクワットの人たちと親しく交流しているようだ。

2014 年 2 月 5 日には、プーチン大統領の同性愛差別政策を批判するシュプレヒコールアクションに参加した。2014 年 2 月 24 日には、西サハラで活動している団体 APSO (les Amis du Peuple du Sahara Occident) の人々を招いての、西サハラの現状についてのドキュメ

⁹² これは、集団指導性を他とは違う JE リヨンの良い点だと考えているセドリックの認識と若干のズレがある。

⁹³ ナターシャ以外のメンバーはそもそも平常時から党とのつながりは薄い。規約でも JE と党の距離感が定められているし、各国の緑の党の独立派や活動派に見られるような、選挙を重視しない姿勢、党勢の拡大への無関心が JE にも見られる。

⁹⁴ 検討はされるが実行まで移されなかったり、延期されてしまったり、参加者が少なく断念されてしまったりするものも多い。

ンタリーDVD 上映会とディスカッションが緑の党のオフィスで行われた。

他にも、左派・左翼勢力が中心となって行った反ファシズムデモに参加したり、ヨーロッパの連帯を訴える取り組みや反 TAFTA アクション、反モンサントデモ、大麻合法化賛成デモなどが検討されていたりしたほか、第 2 章で扱った通りセドリックの欧州歴訪帰国後は、スタジアム建設反対、空港建設反対⁹⁵、気候キャンプなども議論され、様々な団体との協力が模索されていた。

以上のように、会合やフォーラム等を除けば、JE の活動は *nuit de l'action* を直接行動的なものが多く、直接的に党をサポートしたり党への投票を呼びかけたりするような活動は、全くと言っていいほど行われぬ。また党や選挙関連のイベントがあつたとしても参加率は低く、*nuit de l'action* におけるライト・オフのような実際に体を動かして行動するものの方が人気も参加率も高い。

JE リヨンの行っている活動の内容や主張を、エコロジー思想や政策におけるカテゴリーで分類すると、以下のようなになる。

反産業社会	反 TAFTA、ライト・オフ、反モンサント、反開発（気候キャンプ）
社会的リバタリアン	反監視カメラ、大麻合法化
環境保護	気候変動、エネルギー、ライト・オフ、気候キャンプ
代替グローバリズム	反 TAFTA、反モンサント、反極右レイシズム
（その他グループ関係）	ビラ貼り、ポスター貼り／会合、フォーラム

これらの活動は、第 3 項で見るエコロジー的な価値観や思想に準拠したものであることがわかる。この中でも特に重要なのが「反産業社会」である。他の 3 つは、産業社会がもたらした悪影響に対応したり、産業社会に対抗したりするためのアンチテーゼ的な主張と考えることもできるからだ。

3-2 団体規約

2014 年 4 月に、団体規約が 3 年ぶりに作り直されることになり、その条文についてメンバー間での共有と変更や書き換えの話し合い、賛否の投票が行われた。セドリックによると、規約を作り直して県庁に提出することにより、JE リヨンは法的な根拠を持つ団体となる。セドリックは、より集団的なものへの団体の変化を文章化することが目的であるとしており、それまでの自由参加型から参加費を要するメンバーシップ制への移行と見ることもできるほか、普段メンバー間で共有されていた暗黙の了解や考え方の一部が明文化され

⁹⁵ <http://www.notredamedeslandes2015.org/> (2015/12/25 閲覧)

ており、注目に値する。

なお、この規約は、2015年8月14日付のJE連盟規約⁹⁶と似通っている部分も多いが、条項の番号などがところどころ異なっている。また、本稿掲載の規約は2014年4月1日および15日の会議の際に採択されたものである。規約の全文は巻末資料集に記載してあるので、そちらを参照してほしい。

2014年4月に制定されたこの団体規約には、いくつか注目すべき条項があり、それらからJEの特徴が垣間見える。以下においてその特徴的な点を確認してみたい。

・法的・制度的な安定性

そもそも法律に基づいた規約を（再）制定し県庁に提出すること自体が、グループとして公的な存在になることを意味する。グループの決まりごとや種々の定義を明文化することにより、正式で公的な団体として活動することが可能になる。

・メンバーシップ制（会員制）の明文化

これまでもメーリングリストには会員用とシンパ用の区別があったが、今回の規約の再制定によって、メンバーとなるには会費を支払う必要があることが確認され、その意味で「メンバーシップ制」を取ることが明文化された。

・緑の党との関係を巡るジレンマ-独立と「賛同」

規約では、JEリヨンがエコロジー思想に基づいて活動する団体であることが明記され、緑の党と理念を共有することが表明されているうえ、「緑の党の基本的な価値観と相反の政党の系列下にある青年運動への所属は禁止されて」いる。メンバーの自由参加を重んじるJEにあって、違反者には「辞退」（＝除籍）という罰則付きで、緑の党と価値観を違えるグループ⁹⁷への参加を禁じていることは、非常に重い措置であり、エコロジーの価値観を重要視する姿勢が見て取れる。

一方、JEメンバーがすなわち「ヨーロッパ・エコロジー＝緑の党の加入者であるわけではない」ことが記されていたり、あるいは上記の対立グループへの参加禁止の条文にも、前置きとして「当団体への参加は、自動的にヨーロッパ・エコロジー＝緑の党への参加を含むわけではない」と断られていたりするように、グループが党に取り込まれることへの強い警戒心が文章に表れている。特にセドリックはこれらの文言を強調していた。

以上から、規約には緑の党の理念への「賛同」「共感」しつつも、党との一体化を嫌いあ

⁹⁶ <http://www.jeunes-ecologistes.org/statuts/> (2015/12/17 閲覧)

⁹⁷ 保守派、極右などのグループのことを指すと思われる。

くまで独立を貫こうとする、相反する感情が見え隠れする。JE は常に党という存在を意識し、それとどう差別化を図るかに苦心し、そして自分たちが草の根で活動するグループであることに誇りを持っているのである。

JE やそのメンバー（特にセドリック）はこうして、独立した草の根の活動家たちであるということに強いこだわりを見せ、JE が党の下部組織になることを強く拒むのであるが、一方の緑の党が、JE に対して影響力を行使しようとしたり、操ろうとしたりしている様子はほとんど見受けられないし、党からこうした活動をせよ、という命令が出されることも、私が知る限りではない。したがって、党からの独立を強く説く姿勢は、やや自意識過剰的な側面があるということも否定できない。むしろその姿勢により、体制派へと墮落した党との違いを強調することで、草の根の活動家という自分たちの立場を明確にし、アイデンティティ形成を行っているとの見方もできる。

3-3 彼(女)らは自らをどう位置付けているか？

結論を導くために、彼(女)らが自分たちをどう位置付けているか、どう名乗っているかを分析したい。彼(女)らが自分たちの運動をどんな運動と考えているのか、彼(女)らの自らに対する位置付けを読み解くために、JE 連盟がホームページ上で公開している声明や文章(理論面)をと JE リヨンの普段の活動方針やメンバーへのインタビュー(実践面)を通じて明らかにしていく。またその際、エコロジー思想理論的にどのような枠組みに位置しているのかについても確認する。

3-3-1 JE 連盟のホームページ上での考え方

JE 連盟のホームページには JE に関する様々な情報が掲載されているが、ここでは特に「連盟書記の言葉」⁹⁸と「政治的エコロジー？」⁹⁹を通じて、JE 全体としてはどのような立場・見解を取っているのかを明らかにしたい。なお、これらの資料は巻末資料集に全訳を掲載した。

ホームページ中「連邦書記の言葉」では、「青年エコロジストは、政治的エコロジーの若者の運動である」と述べられている。続けて、「あらゆる分野・レベルにおいて、エコロジーのための文化的な闘争に勝利するために、持続的に我々の現在のモデルを変革するために、そして分別ある社会を再構築するために我々は闘う」と宣言している。

また、依拠する考え方・思想として、「人間や生き物を経済の優位に置く真の社会的プロジェクト」たるエコロジーの他に、平和主義・反レイシズム、フェミニズム、代替グロー

⁹⁸ <http://www.jeunes-ecologistes.org/le-mot-des-secretaires-federaux/> (2015/12/10 閲覧)

⁹⁹ <http://www.jeunes-ecologistes.org/ecologie-politique/> (2015/12/10 閲覧)

バリズムと代替社会構想、反生産至上主義、反核、連邦主義と無政府主義などが挙げられている。そして潮流をひっくり返すためのこうした運動を自分たちの草の根で行うこと、「本当に大胆な政治的決断が行われて、市民社会がすでに動かし始めたものの国際的な枠組みが設立されるため」に「思想の闘いに勝つために戦い続け、統治者に圧力をかけ続ける」ことが掲げられている。この政治的エコロジーは「人類と生き物を経済より優位に置く、解放的で進歩的な真の社会プロジェクトである」とも述べられており、「市民社会の中で闘うことが重視されていることもわかる。

この「政治的エコロジー」が具体的にどのような思想であるのかについては、「政治的エコロジー？」と題されたテキストでさらに詳しく述べられている。それによると「政治的エコロジー」とは、「様々な影響（アルテルモンディアリズム運動¹⁰⁰、フェミニズム運動、平和主義・非暴力運動、無政府主義運動、社会主義運動、自主管理運動など）のもと養われた」「環境の課題を考慮に入れた政治的行動を起こす可能性を 1970 年代から要求している」社会文化活動である。

以上を整理すると、JE は自らを「政治的エコロジー」の運動としており、その「政治的エコロジー」とは、「社会文化活動」であるから、三段論法的に言えば JE は「社会文化活動」であるということになる。また、ここで「社会文化活動」とは何かといえば、関連する思想・運動としてフェミニズムや平和主義、代替グローバリズムなどが挙げられていることから、やはりいわゆる「新しい社会運動」であると言えよう。「政治的」という言葉が入っているものの、後述のセドリックのインタビューでも見られるように、ここでは広い意味での政治を指していると思われ、政党政治や議会制民主政治はそれほど重視されていないか、社会変革の一つの手段程度にしか捉えられていないように見える。

この「政治的エコロジー？」において、エコロジーの意味するところは単なる環境保護運動にとどまらない。消費主義と資本主義、ひいてはそれを支えてきた西洋近代思想（ユダヤ・キリスト教、ルネサンスのヒューマニズム、啓蒙主義など、人間が世界の中心に位置し自然を支配するとする思想）とそれが自然環境や人々の暮らしに与えてきた悪影響を批判し、それに代わる新たな社会モデルを提唱する思想としてエコロジーが位置付けられている。また JE のロゴマークには「保守派なき政治 (politique sans conservateurs)」と書かれており、いわゆる「保守派」が敵視されている。なお、既存の左派も社会民主主義という形で成長幻想や生産至上主義を受け入れてきたとして批判の対象に含まれている。

¹⁰⁰ http://www.lemonde.fr/revision-du-bac/annales-bac/geographie-terminale/altermondialisme_gx375.html (2015/12/25 閲覧) グローバリズムを全否定するのではなく、その問題点を修正しもう一つのグローバリズムを目指す運動。日本語にするなら「代替グローバリズム」とでも表されよう。

以上のように、JEは、少なくとも建前上は経済体制から社会的ビジョンまでを包括的に扱っていることがわかる。その思想の内実とは単なる環境保護というよりもむしろ環境問題などを引き起こした近代資本主義社会、消費・産業社会への批判・抵抗・反発であり、そうした意味において文化的な変革を市民社会から起こしていくことを目指す運動であるといえよう。

3-3-2 JEが謳う「政治的エコロジー」の思想的位置付け

上記の通りJEは、その思想として「政治的エコロジー」を主張している。一口に「エコロジー」と言ってもラディカルなものからシステム内での改革にとどまるものまで様々な立場が存在する。彼(女)らの謳う「政治的エコロジー」とは、思想的にどのように位置付けられるだろうか。ドライゼクは環境言説を下図のように4つに分けて分類している¹⁰¹。

	改良主義者	ラディカル
常識的	問題解決	生存主義
独創的	持続可能性	緑のラディカリズム

環境言説は基本的に産業社会からの離脱を説くが、その離脱が改良主義的かラディカルかあるいは常識的か（現行の政治システムを所与とみなしその中での改革を目指す）独創的か（既存のシステム自体の見直しを説く）によって上記の分類がなされる。この分類において、草の根からの根本的な社会変革（既存のシステム自体の変革）を訴えるJEは明らかに「緑のラディカリズム」¹⁰²に属する。

小野（2014:121-122）は、緑の党はかつて「緑のラディカリズム」型に該当したが、穏健化や政権党化に伴い「持続可能性」型あるいは「問題解決」型に接近していると述べている¹⁰³。このモデルの「持続可能性」、すなわち「持続可能な開発」という思想は、JEの「政治的エコロジー？」においては、「考え方としては興味深い」とはされながらも、既存の産業社会に対し「不安をもたらすことが少ない」ため「主流の経済思想と自由主義論理

¹⁰¹ ドライゼク,2007:16-20

¹⁰² ドライゼクは前掲書の中で、緑のラディカリズムをさらに大きく分けて、人々の意識性の変革を目指す「緑的意識性」と、社会構造や社会制度からの変革を説く「緑の政治」に分けている。JEがどちらに入るかの判定は難しいが、グループとしては後者に近いと言えよう。

¹⁰³ これとオーバーラップすることだが、緑の党で「原理派」と「現実派」の対立が勃発し現実派が優勢となったり、「アマチュア運動家の党」モデルから離れていったりしたということはしばしば指摘される（畑山,2013:144-146,ジーン・フラン克蘭ドほか,2013:421など）。

におおいに回収され」、利用されてきたとして糾弾されている¹⁰⁴。「持続可能性」領域に接近し穏健化した緑の党と、「緑のラディカリズム」に位置する JE の間に認識のズレが存在すると考えれば、JE（少なくとも JE リヨン）が党との距離を保ちたがる構図も納得できる。

JE の展開する徹底した「人間中心主義」批判は、「エコ中心主義」と読めなくもない。エコ中心主義の極端な言説では、地球環境のためには人類が滅びてもいいとされかねないし、そこまでではなくても近代的な人権概念が制約される可能性もある¹⁰⁵ ¹⁰⁶が、JE はそうした極端な考え方には立っておらず、民主主義を重視し、むしろ「政治的エコロジー？」では人間の尊厳と環境的課題を不可分のものとして捉えている。

このほかにも環境主義の言説の分類体系は様々に存在する¹⁰⁷が、ここでは JE を無理に分類の型にはめることはしない。そうしてもあまり意味はないし、類型にぴったり当てはまるほど現実の運動は単純ではないからだ。

以上をまとめると、JE の主張や立場は次のようになる。人間を自然の支配者とする「人間中心主義」と、常に成長と増産を求める「生産至上主義」（左派＝社会民主主義や持続可能な開発もここにとり込まれた）による産業社会は環境や人々の暮らしを破壊してきた。JE の掲げる「政治的エコロジー」はこれらの思想や社会システムをラディカルに批判し、人間や生き物が経済に優越する社会への変革を主張し、JE はその実現のために市民社会で闘う。

つまり、公式的には、JE の思想・目標は人間中心主義や生産至上主義に支配された産業消費社会を批判しその体制を打破することであり、JE の運動とはそのための社会変革運動である。ちなみに「若者の」運動であることが定義されてはいるものの、その「若者」に何か特別な役割や期待を見出したり、意味を与えたりはしていない。

3-3-3 JE リヨンメンバーへのインタビュー

¹⁰⁴ 緑の党は「持続可能な開発」に賛同しており（フランス緑の党,2004:21）、この点に JE との認識の差が見られる。一方同著内でディープ・エコロジー（アルネ・ネスによって提唱された、人間中心主義を批判する自然中心主義的な思想。ドライゼク前掲書では「緑のラディカリズム」に分類されている）についても言及しており（同著:30）、元来のラディカルな思想にも一定の理解は示していることがわかる。

¹⁰⁵ 小野,2014:116

¹⁰⁶ ちなみに丸山(1997)は、エコロジーを「人間中心主義」対「エコセントリズム」で見るとのではなく、短期的な利益志向の「人間中心主義」に対抗する、利益概念自体を批判的に組み立て直す「人間理性」と「批判的エコロジー」を説いている（賀来・丸山編著,1997:42）。

¹⁰⁷ 例えば、丸山正次は環境主義の諸類型を提示している（川崎編,2014:218）。この類型において強いて言えば、JE の考え方は「エコ共和主義」や「エコ社会主義」に近い。

ここまで、JE 連盟の公的な見解や立場を分析してきたが、地方組織として実際に現場で活動している JE リヨンは自分たちを、そしてエコロジーをどう捉えているのかを見るために、メールでインタビューを行った。

インタビューに回答してくれたのは、グループでもっとも活動に積極的に参加しているセドリックと、台湾留学から帰国し再び JE で活動しているルイーズである。他にもメンバーはいるが時間の関係もあり回答を得られたのはこの 2 名だけだった。2 人の意見のみをもって JE の総意とすることはできないが、第 2 章で見た通りセドリックの考えは JE リヨンの方針を大きく左右していてかつメンバーもそれに特に異存はないようであるので、参考とすること、現在あるいは今後の JE リヨンの方向性をここに見いだすことは不可能ではないだろうし、ルイーズの意見も検討することで認識の違いがあるのかをある程度見ることができよう。

質問事項は以下の通り。

- ① あなたにとって、理想的な社会とはどのようなものか？
- ② その理想の社会のためには、どのような政治を実現しなければならないか？今の私たちの社会に何としても必要なものとは何か？
- ③ 政党についてどのようなイメージを持っているか？JE は緑の党とどのような関係を持つべきだと考えるか？
- ④ JE とはどのような運動だと考えるか？（例：政治運動、文化運動…）
- ⑤ 政治をどう捉えるか？

これらの質問に対してまずセドリックは以下のように回答している。やや長くなるが、ここに掲載する。

①僕が夢見る社会の形は、平和で、幸福で、すべてのメンバーを尊重し、多文化で、お互いの公平さ（違いに関して平等）を目指し、誰に対しても自由で無償の教育機会が与えられる社会である。

僕の想像する理想の社会では、教育はまったく新しいものとなるだろう。個々人の解放と、批判的考察力と共同・協力作業の発達を目指し、現在のような従順さや階級の尊重することを育成したり、競争を体験させたりすることではない。フレネーやモンテソリ、フランシスコ・フェレなどによるような教育の理論と実践に基づいた自由な学校が至る所で導入される。

この社会は包括的に環境を配慮するものであり、生活はこの配慮に基づいて再構築され

る（商業、富の生産、交通、教育、消費、価値観、エネルギーなど）。ユートピアではなく、僕の意見ではこれは必要性の話であり、人間の活動とその侵食のせいで起きている気候変動という確実な事実のせいで、ここに向かって僕たちは（非常にゆっくりと）進んでいく。

価値観も同じく新たなものとなる：尊重、協力、分権性、水平性、権力の脱構築、人間同士の暴力だけでなく動物と自然の場所に対する暴力に関しての個人的・集団的な取り組み、相互扶助、愛、幸福。民主主義もフランスで適用されているものとは大きく異なるだろう。フランスでは真の民主主義よりも少数独裁制を志向している（そしてそれ（真の民主主義）には複数の形態と応用が存在する）。

仕事と金は最も重要なものではなくなるだろう。仕事は再検討され、生きる理由、あるいは生きるための条件として前面に押し出されはしなくなり、全員に成長し、成熟し、学び、自由になることを可能にする活動としてみなされるようになるだろう。誰に対しても生涯働くことは強制されず、何もしていない人々や失業者、枠から外れている人々は、現在のようにパラサイトとして後ろ指を指され非難されることはなくなる。お金は手段であって目的ではない。同様にして経済システムもよりよいものになり、公共政策と社会の組織の最優先事項ではなくなる。人がお金に先立つのだ。

②どんな政治形態を、理想社会に達するために実現しなければならないかはわからない。僕の理想社会の夢は大勢の人々のものと同じではない。この質問は難しい、というのも実行すべき「よいシステム」についての議論は何世紀も続いているからだ。誰も正しい答えを見つけていないし、すべては理論的・実践的な実験にすぎない。

しかし、僕にとってひとつ確かなことがある。それは、「政治的なもの」と「政治」¹⁰⁸を再定義する必要があるということだ。僕たちの民主主義の実践を再定義し、僕たちの共生システムと社会契約を再考する。なぜならそれはもう失敗に終わっている。第5共和制は失敗だ。独裁的で寡頭的な体制、あるいはすべての決定者が60~70歳を過ぎている一種の老人支配へと向かっている。第5共和制とその支持者たちは墮落していて、営利主義で、エリート主義であり、往年の君主制の嘆かわしい継続に見える。

これを変えるために、僕には答えはない。ただいくつかの手がかりはある。それは例えば議論であり、市民運動・大衆運動であり、政治的・社会的経験であり、ストライキ（力関係を打ち立てるのには不可欠）であり、集会であり、住民投票であり、深く民主主義的

¹⁰⁸ セドリックは回答中で、**politique** という言葉を《le politique》（男性形）と《la politique》（女性形）の2つに使い分けている。前者は《le fait politique》（政治的な事柄）の略で、政治という概念を指して使っているといい、ここでは「政治的なもの」と訳した。後者は現在多数決によって行われている政治を指しており、権力や金をめぐるものというイメージをもって使っているようだ。よって「政治」と訳した。

な刷新の提案（憲法、投票方法、選挙と階級制、有権者と市民の参加）であり、システムを変えようとする勇氣である。

これこそが、僕たちの社会がどうしても必要なもの、勇氣と変化である。しかしこれは真の変化であって、オランダとその一派や共和党によるそれではない。直接民主制、そして中央集権的な国を必要としない分権制の何がいけないのか。しかし何よりもまず、目覚め、より意識化し、僕たちの生活に関する権力を再奪取しなければならない。

③政党に関して僕が持つイメージ…理想的なものか、それとも現在の政党に関するものか？緑の党に接近し2008年に会員になった（2009年にはジュンヌ・ヴェール〔JEの前進〕の会員になった）ころは、僕はやや理想化された認識を持っていた。他とは本当に違う政党に入ったと信じていた。進歩的な民主主義的实践、熱狂的で考えさせられる議論、おもしろい人々と活動家、正当で必要だと感じられた過去あるいは現在の闘い。時間が経つにつれ、こうした経験から、苦いけれどもポジティブな感じが僕には残っていた。希望と可能性にあふれた政党は社会党や国民連合〔サルコジの所属する右派政党。現在の共和党〕と同じように行動し始め、ブルジョワ化した当選者たちの政党へと姿を変えた一方で、闘的でオルタナティブなアイデンティティの一部は守られていた。

僕が見出したのは、矛盾と曖昧さだらけで、はっきりした考えを持ってない政党と、首尾一貫して明確な政治路線だった。2009年のヨーロッパ・エコロジーとの合流により非常に異なる視野の人々がやってきて、とても多様なビジョンがもたらされた。アナーキーで脱成長志向のエコロジストから中道右派・自由主義のエコロジストまで。この経験は成功になりえたが、失敗し、様々なもの（たとえば社会党との同盟、変節、裏切り、政治的な躊躇、権力の誘惑、失敗した選挙、草の根で行動し説得するための困難）がある中で、現在の極度に脆い状態がもたらされ、EELVは誰と手を組むか方向性を見失い、聞き取りにくく、信用できない状態になっている。フランスの政治的状况の中に存在する最も解放的なひとつと言える考え方と良い思想にもかかわらず、残念ながら耳を貸してもらえず、ほとんど理解されず、しばしば批判されている。僕は2012年に緑の党を去った。党と議員と代表者たちがオランダと政府の軍事介入を支持した時のことだ。平和主義者として、戦争ほど激しく批判されるべき、重大で政治的なことに反対しない運動の会員でい続けることはできなかった。

僕に言わせれば、政党は形を変えなければならない。水平性、民主主義、透明性、精力的で活発で現場に根を下ろし、異なる民主主義的实践の形態（くじ引き、直接民主制、権力関係の再検討、反独裁主義など）に開かれた運動、非暴力的だが闘争的で、断固として、エコロジックで、市民社会に開かれ、入れ替わり立ち替わり根こそぎ刷新する用意のある

代表者とともにある運動である。

一つのサイクルが終わる。きっと狂氣的な破局、政党のごたごたによって、そしておそらく、古びて、西洋式で、汚染的で、破壊的で、超消費的な僕たちの文明の墮落、破滅に先立つ期間によって終わりを迎える。しかし変革するためには、破滅まで待つ必要はない。そして彼らを変えることができないなら、問題ない、大きな社会運動が、なんらかの方向で重みを持つことができるのだ。僕の考えでは、ヨーロッパでは数年後にはすべてがファシズムや独裁制、戦争、あるいは進歩主義陣営の勝利に行き着く可能性がある。しかし勝利は、実現には程遠い。ただおそらくスペインは例外で、民主主義の復活が現れつつある（憤慨した人々、ポデモスの経験、絶対自由主義・共産主義・無政府主義運動）し、市民的な憲法を書いたアイスランドもそうかもしれない。しかしギリシャの急進左派連合の例は、より公正な社会を望む者に対する妨害は数多くかつ激しいということを示している（ギリシャのアナーキストは政治的・社会的な自立の能力を証明しているけれども）。

JE と緑の党の関係について：運動は党の青年運動が始まって以来のもので、個々人間の関係において青年運動は党に密接に結びついており、党にも所属するジュンヌ・ヴェールメンバーもいた。団体にしか入っていない人もいたが、それでも、党から独立しているが緑の党と連帯した団体であるという他との違いを維持しつつ、政治的な価値観を共有してきた。これはずっとそうだったというわけではない。根底における意見の相違の結果の分裂もあった（2000年代における、学生に近い労働組合組織と緑の党に近い若者の政治運動の対立）。僕がどう考えるか？運動はもっと政治的・思想的・財政的に独立している方がいいし、多様で実験的で自由で水平的な形式をとったほうがいい。

リヨンでは、僕たちはたとえばオフィスのないグループで、男女同数の 2 人の財務担当者は投票によって選ばれ、水平性を実践し、団体への参加において活動家に責任感を持たせることを試みていて、団体も自由で強制のないものだ。これは完全に成功しているわけではない、というのも活発さ（ダイナミズム）は非常に不安定で、実りが多く活発な良い時期もあれば、とても停滞していて人々があまり動かない時期もある。回転率はリヨンでは同じく高く、全体的に見て活動生活は複雑だ。

関係性の話に戻ると、僕が思い描いているのは、より独立したものであること、そして大きく、開かれていて、よりラディカルで、ブルジョワさはなくてより活発な、違った形で活発な形式だ。JE たちは進化の途中で、闘いの現場への参加を志向し、市民的不服従や開発地区での闘い、ラディカルで具体的で理論（空論）的でないエコロジーに少しずつ興味を持つようになっていく。もちろんこの〔理論的という〕側面は、JE においてはとても興味深く有益ではあるけれど（知的な側面と提案、思想、議論）。

④前の質問でもすでに少し話したが、僕はJEを政治的な青年運動と見ている。その関心が向けられているのは、政治理論や議論、強烈さがなく大半は適法的な活動であり、はじめは市民的不服従の側面がほとんどなく、ユーモアを交えた演劇的な活動や〔常識から〕ズレたやり方、楽しみ、行き当たりばったりなどが多かった。しかし去年から気候に関する正義のため、そして化石燃料の採掘に反対するために、市民的不服従運動に接近している。僕はこの3年間これに取り組んでいて、この運動と活動家たちが、他のエコロジー運動、より闘争的精神、他の可能性を構築する運動の精神、他の可能性を構築する精神、よりラディカルでアナーキーエコロジーに近い運動の精神をもった運動に目を向けるように努めてきた。

これは少し功を奏し、たとえば今年10人弱のJEメンバーがオランダとドイツの自治キャンプに出向いた。そこでは気候の正義のためにヨーロッパにおいて重要な大衆行動が行われていた（ドイツのエンデ・ゲレンデ、アムステルダムのカライメイト・ゲーム→詳細は僕のブログにて〔ブログのURLは割愛〕）。

これは良い経験となり、政治屋的で組織的な政治ではなくて、フランスあるいは海外の他のエコロジー運動との出会いへと一歩足を踏み出している。JEたちも同じく可能性の種を蒔く活動家で、様々なレベル、重要な政治的規模や地位においてさえ取り組み（共和的で遵法的で代表制による道に位置しているならば）、社会を内側から変えようと努めている。一方、他の人々、たとえば空想家や「ヒッピー」が彼らの周りの他の組織で様々な闘い（サン・パピエ〔身分証明書の無い不法入国者〕、開発地区、大衆教育）を通して活動しており、エコロジー文化とその実践、習慣、異質な文化、左派リバタリアン的な側面を我々と共有している。

⑤僕が政治をどう捉えるか？ うーん、同じく、前の質問で答えたと思う。政治というのは古い慣行で、様々な形式と数世紀を経た実践事例である。僕は集団協定や社会契約、都市生活の組織など人間間の妥協の取り組みなど、はっきり言ってしまえば政治的なもの（市民に関わる）に、特に人間の解放を見る。僕は「政治的なもの」は肯定的に捉えるが、「政治」、つまり今日の取り組みや政治家や多くの人々が持っているビジョンについてはそうではない。政治はエリート主義的や専制主義的、硬直的であるべきではないし、暴力や支配、階級利害、権力のもてあそび、友達間の八百長、見返り、マフィア的な政府（例：ニコラ・サルコジ政権）によって、あるいは大多数の人々が非常に画一化され規格化された国や地域や街や自分たちの生活の問題について語る言葉を持たない間違っただ民主主義によって成り立つべきではない。フランスでは政治はより激しくあるべきで、より多くの人、特に声なき人々が議論に加わるべきだ。政治階級は変わるべきであり、僕に言わせれば、新しい

サイクルのためのサイクルの終わりという意味での革命の思想は最も興味深いものだ。しかし潜在的には、新たなサイクルにおいては、民主主義はより大きく、より水平的で、より形式的でなく、よりエリート主義的でないものであり、経済は政治行為を左右せず、言論は自由で、定期的で的確な議論が喚起され、教育や、同じ場所や街、領域の市民間の交流に富んでいる。

また、これらの一連の質問に答えたあと、追加で連絡をしてくれたので、それについても以下に記載する。

きみの最後の質問に答えると、僕はこの質問をちゃんと理解していなかったんだけど、JEは制度的な集団運動であり、非常に古典的で、たとえば全く革命的ではない。それから、JE（のメンバーたち）は非常に異なっていて、運動に10人と全く同じ考えを持っている人はいない。このことが運動を豊かなものにしていて、運動にはエコロジーの形態や検討すべき社会についての多くの考え方や多様な思想潮流がある。共和的な人々もいれば、共産主義やその他のアナーキズムの影響を受けた人たちもいる。

だから見かけよりも複雑で、運動はこのところ非常に進化している。たとえば、JEは市民的不服従を実行している他の運動に接近していて、このメンバーには、僕が既に書いたように、違法だけれども正当な市民的不服従行動を行っている人もいて、これは活動家が多くの場合にやっている「楽しく」て適法的だけれどもほとんど反体制的ではない運動とは違うものだ。

あ、JE内の考え方については、成長論の反対者（脱成長論者）もいれば、資本主義者を自称する人もいる。ここにはたとえば経済思想についての差があるね！

（JEには思想的な統一は必ずしもないのか？という質問に対して）

ない、フランスのエコロジー文化においては全員が同じように考えるということではなく、これは僕たちの歴史的なDNAのようなものでもあるんだけど、エコロジストの多様性であって、違ったふうに考えるけれども同じ運動のメンバーでいる自由が残されている。それから、一方でコンセンサスを得てJEの活動家の多数の間で共有されている考え方もたくさんある。たとえば議題やテーマによって主張する政治路線を決定する組織動議など。

（議会制民主主義を完全に否定しているわけではないのか？という問いに対し）

そうじゃない。

たとえばどんなシステムが納得できるものなのか僕には細かくはわからない。

でも私たちが生きている共和制（つまり第 5 共和制）は望まない。僕はまずは第 5 共和制の終了と新たな統治形態を望む。国家によるという地形態を終わらせて別のものに映ったほうがいいのかは僕にはわからない。第 5 共和制の終了と試すべき違ったシステムの形態についての議論はほとんどない。この議論は封殺され、妨害されている。今日、特にシャルリー・エブドや 11 月 13 日のテロ以降、政府は政治的論理を覆し、人々に共和主義者であることを求め、問題提起がなされている：あなたは我々と共にいるのか？それとも我々に反対か？気が滅入るよ。

あ、言論が閉じられているというのはフランス全体についてであって、JE においてではない。JE においては、他の組織や運動や集団のように議論は開かれている。でもそれは内部においてであって公的な議論においてではない。

あと、市民的不服従についての君の質問〔JE では市民的不服従のようなラディカルな考え方は受け入れられているのか？という質問〕に関しては、どれほど人が市民的不服従に好意的でいるのかあるいはためらっているのか僕にははっきりとはわからない。たとえば 2 年前 JE の夏の日に当時の連盟書記〔全国レベルの JE 連盟の書記〕にこの話をした時に、その人は、それは私たちのやり方ではないと言い、市民的不服従をやるのは JE ではなくてグリーンピースのような運動だ、と言っていた。以来、方針は変化して、連盟書記や多くの活動家は戦略としてそれに賛同し、大きな行動を結集することを訴えている。だからこのテーマについては進化があったと僕は思う。

（このラディカルな考え方は JE リヨンにおいて共有されているのか？という問いに対し）これも僕にはわからない、活動家の間にもいろんな意見があるべきだと思うし、リヨンの地域グループは連盟において、特に水平的で集団的な組織のようなやり方がややリバタリアン的でややアナーキーだと考えられている。この見方は全くもって正しくなく、リヨンの活動家全員がリバタリアンやアナーキーな、それからエコロジーの考え方に影響されているわけではない。アナーキーなグループというこの見方はちょっと誇張されている。

ではセドリックの回答を項目ごとに見てみよう。まず①の理想の社会については、平和・平等で、自由な教育が行われ、環境に配慮した真に民主的な社会を思い描いている。そしてその社会においては人がお金に先立つとされている。②の実現すべき政治に関しては、わからないとしながらも、現行のシステムの限界を指摘し（第 5 共和制は失敗だとまで述べている）、各種の運動を通じて変革する勇気を持つ必要性を訴える。③ではオルタナティブな存在でありながら体制的になった緑の党への不信感を述べ、緑の党の初期に見られたような「反政党的政党」的な理念を述べている。日頃から主張している通り、党との関係

性においてJEはより独立的であるべきだとし、現場重視のよりラディカルな運動を志向していることがわかる。④ではJEを「政治的な青年運動」とし、③同様にラディカルさを追求している。ではその「政治」とはなんなのかという質問⑤に対しては、現代の（腐敗した）政治ではない、直接民主的で草の根的な新たな政治のあり方を提起している。

以上からセドリックの主張を簡潔にまとめてみると、「現代の政治システムは限界を迎えており、変革が必要だが、現在の緑の党は体制に回収されてしまっている。JEはそんな緑の党から独立し、よりラディカルであるべきで、直接行動的な運動とも関わりを持つべきだ。そして現実問題として、直接民主的で環境配慮型の社会へと根本から転換していかなければならない」ということになる。

彼の主張する根本からの体制変革は上述の「政治的エコロジー？」で見られたラディカルな主張とほとんど変わりが無い。それどころか、緑の党と連帯があることは認めつつも独立を強く主張し、これまでのJEが適法的で社会内での変革を目指していたことを指摘したうえで、空論を嫌い「市民的不服従運動」のような直接行動的な運動に関心を示している点を踏まえればむしろさらにラディカルなものであるし、思想面だけでなく実戦面においてもラディカルであろうとしているとも言える。

また、JEを「政治的な青年運動」としており、政治運動であると考えているようだ。ただ、この「政治」とは現在の一般的に使われている意味のものではない。彼によれば、現在の政治は墮落していて、権力をもてあそぶマフィア的でエリート主義的なものであり、第5共和制はすでに失敗している。彼の想定する「(概念としての)政治的なもの」は、より水平的で議論が活発で市民が参加する、直接民主主義・分権制である。

ただし追加の返信において、JEの思想的不統一性についても述べられており、経済思想をはじめとした考え方の違い・多様性はエコロジストのDNAに例えられるくらい自明のものでされている。JEリヨンは非常にラディカルな存在だとJE連盟に考えられているようで、市民的不服従運動のような直接行動についてJE連盟は（少なくとも当初は）行為的ではなかった。また、JEリヨン内でも完全に一致しているかどうかはわからないようだ¹⁰⁹。

つづいてルイズの回答は以下の通りである。

①理想の社会とは生命（植物、動物、そして人間の）に基づいた社会。人間関係が、個人の自由を尊重しつつ、寛容と、連帯と、公共の利益の原則に基づいている社会。

¹⁰⁹ 他のメンバーにもインタビューできればこの点の比較ができたが、時間の都合上間に合わなかった。

②現在の私たちの社会（西洋、特にフランス社会の話）には、私に言わせれば次の 3 つのことが早急に必要だ。

- ・より多くの寛容とヒューマニズム：社会的地位や国籍などによって人々を判断するのではなく、まずは人として見ること。

- ・政治と民主主義における信用を取り戻すこと。そのためには、政治的決定のプロセスが、代議制民主主義（国家レベル）と参加型民主主義（地方レベル）を組み合わせるべきだと思う。

- ・人間を経済の中心に置くこと。今日、経済はもはや人間に奉仕しておらず、人間が経済に奉仕している。完全なナンセンスだ！これを変えるためには、普遍的賃金の導入は、仕事と報酬の関係を断ち切ることを考慮すれば、一つの解決策になりうると思う。（この考え方を紹介したとても興味深い動画がある：<https://www.youtube.com/watch?v=uhg0SUYOXiw>）。

政治と経済における変化も同じ方向に向かう。中央集権と垂直性から脱中央集権化と水平性へ。つまり、この社会的・政治的・経済的変化は社会における社会関係の再構築を目指し、自然との私たちの関係性を根本的に変える。自然はもう資源としてのみではなく、尊重し愛すべきものとして見られるべきだ。私の意見では、人間に対する尊重と自然に対する尊重は同じ動きから生じる：生命に対する寛容と愛の感情だ。

③私の意見では、政党の第一の役割は計画をはっきりさせ、この計画を実行するために権力を勝ち取ることだ。私たちの緑の党との関係は比較的自立的だ：確かに彼らから財政的な支援を受けているが、私たちは党に従属した「党の青年運動」ではない。私たちの規約で私たちの意見をもっともよく保持しているのは緑の党であるとされているのは認識しているが、例えば党は私たちに選挙キャンペーンに参加するよう強制することはできず、私たちがそれを望む時にのみ彼らを支援することができる。その代わりに、私たちは適法的な活動しかしないことにしている。というのも、もし例えば市民的不服従活動を私たちがしたら、それはメディアの好意的でない反響や党への悪影響を及ぼしかねないから。私たちはそういうことは望んでいない。

④JE では、私たちは政党ではない。私たちは権力を勝ち取ることを目指していない。私たちの目的は公的な場においてにおいて私たちの関心を引く問題を提起し、人々にこの問題に対して関心を持ってもらうことだ。私には、私たちが「運動」であると言えるかどうかわからない：私たちは政治団体でしかないから…。むしろ私たちは政治的エコロジー運動に参加しているんだと言えるかもしれない。この運動は複数の潮流を合流させる（自然と

動物の保護、フェミニズム、代替グローバリズム、脱成長など)。この中で私たちは **JE** だと自認している。私たちの団体の中の個々人は、違う意見を持っていてグループの持つ幾つかの考えには賛同できないかもしれないけれど。私の意見では、政治的エコロジーは「総合的な」運動だ：政治的、文化的、社会的、経済的など。2 番目の質問への答えで説明したように、私の意見では、政治的エコロジーは社会のあらゆる領域にインパクトを与える考えだ。

⑤ 広い質問だね！ きっと知っていると思うけど、私は政治学の生徒。大学では何時間も、何が政治なのか¹¹⁰ 定義するのに助けるための授業を受けている。だから私の政治についてのビジョンについても何時間でも語れるよ！ 短く言うと、政治には二種類あると言えるだろう。「制度化された」政治（政党のゲーム、選挙、当選者や国会議員や大臣たちの間のけん力をめぐる闘いなど）と「インフォーマルな」政治：あらゆる市民・社会活動、社会の議論など（2つのカテゴリーは「政治」と「政治的なもの」との違いに対応する）。**JE** での私たちの活動はどちらかという後者のカテゴリーに合う（*le politique* 「政治的なもの」：私たちは政治的な影響力を持った運動をするけれど、政治はやらない）。今日政治はとても損なわれていると思う。というのもその正当性を確立するのに苦勞しているから：指導者たちは理想を持っているからというよりもむしろ権力に惹かれたから高いポストに達している。実は、現在の政治システムは人々に、権力に届きたいのならば考えを捨てることを強制しているんじゃないか。同時に、政治の指導者と人工の大多数の社会的現実との間には深い断絶がある：政治は人々の「普通の」生活から完全に切り離されていて、経験（経験主義）に基づいた人々の語りよりも、自分たちの「エキスパートさ」を特権化する傾向が強い。そこに加わるのが、今日の政治と経済の非常に緊密な結びつきだ。政治は今日公共の利益や一般的な利益よりも大企業の利益を満たすことを目指していることが多い。この状況は私からすればとても深刻で、というのもこれは民主主義の深刻な危機も同然で、市民の側の、政治や共和制の諸制度への不信感となって現れるからだ。しかし私は、私たちには政治がかつてないほど必要だと思う。ここに含まれている政治は思想のため、そして人々に他の考え方に関心を持ってもらいながら社会を変えるための闘いのようなものだ。これこそまさに **JE** での私たちの活動の目的だ。

ルイーズが①で思い描くのは、生命を尊重する寛容な社会であり、そのためには寛容と

¹¹⁰ ここで彼女は、《*la politique, le politique, les politiques*》と *politique* という語を女性形、男性形、複数形に分けて並べて書いている。適切な日本語が見当たらなかったため「政治」とまとめたが、女性形と男性形の差については彼女もセドリック同様言及している。

ヒューマニズム、政治と民主主義の信頼回復、経済に対する人間の優位性が現在の社会には必要だと述べる(②)。③では緑の党とJEの関係について、自立を重んじ選挙キャンペーンへの参加を強制されることはないとしている。JEは「総合的な」運動である「政治的エコロジー」に参加して人々に関心を持ってもらうことを目指しているとし(④)、⑤では現在の「政治」が権力闘争によって毀損されていることを指摘し、人々に関心を持ち参加することを説いている。

彼女の主張は、党からの独立や市民的不服従運動への参加を訴えるセドリックのものと比べると比較的穏健である。例えば市民的不服従運動については、ネガティブなイメージを持たれることを危惧しているし、党との関係についてもセドリックほど急進的には主張していない。また生命や動物に対してたびたび言及している点が印象に残る。

ラディカルな直接行動に参加するかどうかなど、運動の方法論や手段については意見が分かれているようだが、現行の政治システムは権力闘争とエリート主義、中央集権に陥っており限界で、人間が経済に優先される社会へと根本から変革していかなければならないという認識は共通していることがわかる。この考え方は前節で見た「政治的エコロジー？」の認識にはかならない。

3-4 まとめ

JEリヨンの活動においては、党と関わる政党活動よりも *nuit de l'action* におけるライト・オフに代表されるように、直接行動的な社会運動が好まれる¹¹¹。団体規約でも、他党への参加が認められていないなど党との関連が事実上認められている一方で、JEへの参加が党への参加とイコールではないことも強調されており、党に賛同しつつも一定の距離感を保ち、自分たちが草の根の活動であることが確認されている。

JEの理念では、人間中心主義や生産至上主義とそれに基づく産業社会が批判され、それに代わる人間や生き物が経済より優先される社会が提唱され、市民社会に根ざした社会変革運動として自らを定義しており、社会システム自体の転換を説いている。こうした態度は、思想的には緑の党結成当初に見られた「緑のラディカル」類型に当てはまる。

この理念上・思想上のラディカルさは実際の活動内容にも表れており、「反産業社会」やそれから発展した「社会的リバタリアン」「環境保護」「代替グローバリズム」的な活動をJEリヨンは展開している。セドリックによれば、JEリヨンにおいては、これまでの適法的・社会内部的な活動領域から、市民的不服従運動などさらに直接行動的な運動へと足を踏み出しており、よりラディカルな路線を目指そうという動きもある。思想面・活動面で

¹¹¹ ウォールは、直接行動が党の議会活動と同じように重要であると述べており、イギリスにおけるクライメイト・キャンプにも言及している(ウォール,2012:175-176)

一貫して産業社会からの根本的な体制変革を説くラディカルな存在が **JE** なのである。

結論

本論で示されたことをまとめると、政治的エコロジーの観点から産業社会・生産至上主義をラディカルに批判し、根本からの社会変革を目指すJE（第3章）は、第3次産業が中心の学生都市リヨンで、左派が強い1,4,7区のほか特に大企業・グローバル資本が並ぶ商業地区2区を中心に（第1章）、「反産業社会」を中心に「社会的リバタリアン」、「環境保護」、「代替グローバリズム」といった「政治的エコロジー」で掲げられる思想に準拠した活動を展開している（第3章）。党との関係深化には慎重な姿勢をとる一方、アナーキーでラディカルなメンバーを中心としてより直接行動的な他団体や他の運動との協力を模索している（第2、3章）。これらを一言で表すとすれば、JEとは、「産業社会からの根本的でエコロジー的な転換を、市民社会の領域から追求するラディカルな運動グループ」である。

本稿の問題意識であった、「本当に『緑』からラディカリズムはなくなってしまったのか」という問いに答えるとするならば、制度化された政党としての緑の党からは先行研究の通りラディカルさが失われてしまったのかもしれないが、党の周辺的な存在であるJEは非常にラディカルな性質を持っており、広い意味での「緑」からラディカリズムが完全になくなったわけではない、ということになるだろう。まして現在のJEは2011年に再結成されたものであり、緑のラディカリズムは失われていないどころか今も輝きを放っており、メンバーにより温度差はあるがJEリヨンにはよりラディカルな路線に向かおうとする動きさえある¹¹²。「政治的エコロジー」というと政党としての緑の党が連想されがちだが、こうしたラディカルな組織が、党のすぐそばに存在し活動していることは無視されるべきではない。ただ、セドリック自身も話しているようにJEリヨンでは参加者不足や活動の停滞も見受けられ、「党と関係性はあるがラディカル」というこの形態の運動が今後も持続可能かどうかは注視が必要である。

党と関連した組織であるということは多かれ少なかれ自認してはおり¹¹³、議会制民主主義を完全に拒絶しているわけではないが、党からの独立性を説いて党の支持拡大や集票のための運動はせず、根本的な社会システムの変革という理念と自分たちのやり方を貫きつ

¹¹² また、党からの独立性を説きラディカルであろうとするのは少なくともJEリヨンでは確認できたが、本稿ではJEリヨン以外のグループの調査を行えなかったため、実際に活動している他の地方組織もこのラディカルさを共通して持っているかはわからない。セドリックやジョアンナから聞く限りでは他のJEはより組織化が強いようなので、なんらかの違いがある可能性があるし、セドリックによるとJE連盟はJEリヨンをラディカルでアナーキーな組織だと考えており、全国すべてのJEが同様にラディカルとも言い切れない。ただ少なくともJE連盟のホームページを見る限りでは緑のラディカリズム的思考は全JE的なものではあるようだ。

¹¹³ JEの参加に伴う党への参加は強制されないが、他党の運動への参加が禁止されている以上、関連した組織であると言わざるを得ない。

つ、認識を共有する（特定の政党とは関係のない）他団体・ラディカルな社会運動と広く協力しようとする JE は、一見すると緑の党が身を置く政党政治システムと、政党政治と無関係の他団体が活動する社会運動の領域の中間的な位置をさまよう不安定な組織にも見える。しかし、このあいまいな位置こそ JE の特長であり、社会運動の世界に軸足を置きつつも必要なら政党政治システムにいる緑の党とも協力できるという強みを持っているとも言える。

JE がこうした中間的な存在であること、そして政党と社会運動との架け橋となりうるこのような存在が今も活動しているという事実によって、緑の党や政治的エコロジーの、現実化路線をたどりはしたものの草の根民主主義的なアマチュア性を失わず¹¹⁴、「現行の経済社会モデルを自明視している既成政党とは根本的に異質」¹¹⁵であるという特徴が生き続けている。ただこれはもちろん、JE が政党としての緑の党の補完勢力として価値を持っているということとは全く異なる。それは議会制民主主義の枠内に収まった視野の狭い言説だし、何より JE 自身がそのようなことを望んではないだろう。そうではなく、JE という存在には、既存の枠内にとどまらず、「政治」を再定義し、エコロジーの推進のために社会運動と政党政治を両立させる中で社会を根本から変革していくという、そもそもの「緑的なもの」を維持し、私たちに再認識させていく可能性が一彼ら自身は必ずしもそれを目指しているわけではないが一秘められているのである。

¹¹⁴ ジーン・フラン克蘭ドほか,2013:415-419。該当箇所の説明をもとに考慮すると、こうした草の根の活動家たちの存在が、緑の党が完全に既成正当化してしまうのを妨げていると言うこともできる。

¹¹⁵ 畑山,2012:221

本研究の限界

JEの活動に参加したフィールドワーク経験に基づいた本研究であるが、いくつかの限界が存在する。

まず挙げられるのが、追跡調査が難しいということである。参加期間は約半年と短く、私が参加する「前」のJEについては一部のメンバーから聞いたものにとどまり、私が参加した「後」のJEは、facebookやメーリングリストの投稿を参照する程度で追ったり、セドリックのインタビューを参照したりすることでしか把握できない。これは交換留学という時間的な制約、フランスという距離的な制約が原因でありどうすることもできないとはいえ、JEの過去・現在・これからを通史的に分析することができず、JEがどのような変遷をたどるのかを生で見ることができなかつたのは残念でもある。

次に、比較調査ができていないことである。JEはリヨンだけでなくフランス各地に存在しており、いくつかの団体を比較できれば地域性や構成の違いを描くことも可能であっただろう。党と違いあまり表舞台に出ることのない下部組織であるので、それができればより深みのある研究になりえた。また、他の政党の青年組織も調査できれば、それとの比較を通して緑の党の青年組織ならではの特徴も見えたかもしれない。

ほかにも、「緑の党がJEをどのように見ているのか」という視点が入れられなかったことや、メンバーにリヨン出身者がいないことに関しての分析を深められなかったこと、時間の都合でセドリック・ルイズ以外のメンバーにインタビューができなかったことも悔やまれる。

以上に挙げた点以外にも至らない点が多いと思われるが、時間的・距離的な制約等も大きいのでご容赦いただきたい。

謝辞・あとがき

本論文を執筆するにあたり多くの方々にお力添えを頂いた。この場を借りてお礼を申し上げます。

小熊英二先生には、本稿の指導教員として多岐にわたりご助言いただいた。社会運動に関する深い知識と理解をもって指導にあたっていただき、先生のアドバイスは留学期間中参与観察に取り組む上で非常に支えとなった。豊富な知識や理論を持ちつつ、行動する人たちへの愛にあふれる先生から、授業・研究会・留学中・卒論執筆あるいは現場で学んだことは、生涯の糧になると確信している。

JEのメンバーたちにも感謝している。外国人の私をグループに気さくに受け入れてくれ、日本にいてはできなかったであろう様々な体験を彼らとともにすることができた。常にラディカルで、しかし同時にユーモラスな彼らとの出会いは、私の人生において非常に貴重な経験となった。

宮代康丈先生には、フランスの政治制度や選挙結果の調査に関して様々なアドバイスを頂戴したうえ、非常に多くの情報を教えていただいた。研究会に所属しているわけでもない私の細かい疑問や質問にもとても丁寧に答えていただき、感謝してもし尽くせない。

ジョルジュ・ヴェスィエール先生には主に翻訳にあたり助言いただいた。筆者と年も近い先生というよりは兄弟のように話しやすい方で、フランス語の細かなニュアンスを日本語でわかりやすく表現してくださった。

リヨン在住の中原穂さんには、第1章の執筆にあたりリヨンの街や大学の様子について聞かせていただいた。留学中もたいへんお世話になり、良き先輩に出会うことができたと思っている。

そのほか、学生生活・留学生生活を支えてくれた家族、お互いの研究について語り合った小熊英二研究会の皆さん、同じフランス語学習者として切磋琢磨したフランス語研究室の皆さん、多彩で濃密な授業で楽しくフランス語を教えてくださいましたSFCフランス語の教授陣、リヨンで知り合った日本人留学生・現地学生の皆さんら、どなたが欠けてもこの論文を書き終えることはできなかっただろう。

山本純一先生には、連帯経済をはじめとしたオルタナティブな経済のあり方についてご教授いただき、現場に出る大切さを学んだ。授業にとどまらず研究会や食事会にもお誘いしていただいたほか、留学や研究に関する相談にも乗っていただき、心からお礼申し上げます。

最後に、パトリス・ルロワ先生を挙げさせていただきたい。パトリスとの最初の出会いは、その独特なスタイルのフランス語の授業であったが、フランス語だけにとどまらず、政治や社会に関する考え方など、本当に多くのことを彼から学んだ。社会に対する深い洞

察と批判精神、そしてユーモアセンスを併せ持つ彼の姿に、筆者は常に影響を受け続けてきたし、これからもそうであろう。

本論文内で詳しく扱うことはなかったが、日本において緑の党や政治的エコロジーの不在は常に指摘されてきた。こうした思想にあまりなじみのない日本で今後緑の勢力が台頭できるかどうかはわからない。JEのような運動がそのまま日本でも可能か、通用するかというと、そうとは言えないだろう。ただ日本でも、原発や安保法制などを受けて昨今デモやアクションが行われるようになってきた。一つの民主主義のあり方として期待を込めて注目したい。

さて、結論でも触れたとおり JE は政党政治と社会運動の中間を揺らいでいる。彼らが掲げる目標や目指す社会は途方もないもので、複雑な現代社会においてその実現は確かに困難を極めるかもしれない。しかし彼らのような行動する人たちが世界を動かしてきたのも事実であるし、彼らのようなラディカルな存在こそが政治的エコロジーの独自性であり魅力でもある。参加者不足に悩んでいる様子も垣間見えるし、学生中心の運動である以上資金力や戦略など至らない面も多いかもしれない。私とともに活動したメンバーが今後どんな道を歩んでいくのかもまだわからない。それでも筆者は、世界を変えたいというエネルギーに満ち溢れ、新しい社会の実現のために真面目に、しかしユーモアたっぷりに行動し続ける彼らの姿に、希望を抱かずにはいられないのだ。

参考文献

- デレク・ウォール著,白井和宏訳,2012,『緑の政治ガイドブック—公正で持続可能な社会をつくる』,筑摩書房
- 梅本洋一・大里俊晴・木下長宏編,2000,『現代フランスを知るための36章』,明石書店
- 大畑裕嗣・道場親信・樋口直人・成元哲編著,2004,『社会運動の社会学』,有斐閣選書
- 大山礼子,2013,『フランスの政治制度〔改訂版〕』,東信堂
- 小野一,2014『緑の党 運動・思想・政党の歴史』,講談社
- 小熊英二,2012,『社会を変えるには』,講談社現代新書
- 賀来健輔・丸山仁編著,1997,『環境政治への視点』,信山社
- 川崎修編,2014,『岩波講座 政治哲学6 政治哲学と現代』,岩波書店
- 小出裕章,2011,『原発のウソ』,扶桑社
- E.ジーン・フラン克蘭ド,ポール・ルカルディ,ブノワ・リウー著,白井和宏訳,2013,『変貌する世界の緑の党』,緑風出版
- 高橋伸夫・手塚章・村山祐司・ジャンロベール・ピット編,2003,『EU 統合化におけるフランスの地方中心都市—リヨン・リール・トゥールーズ—』,古今書院
- 高橋伸夫,1987,『改訂版フランスの都市』,二宮書店
- 坪郷實,1989,『新しい社会運動と緑の党：福祉国家のゆらぎの中で』,九州大学出版会
- 土倉莞爾,2000,『現代フランス選挙政治』,ナカニシヤ出版
- 土倉莞爾,2011,『拒絶の投票—21世紀フランス選挙政治の光景—』,関西大学出版部
- J.S.ドライゼク著,丸山正次訳,2007,『地球の政治学—環境をめぐる緒言説』風行社
- 仲井斌,1986,『緑の党：その実験と展望』,岩波書店
- 西田慎,2009,『ドイツ・エコロジー政党の誕生：「六八年運動」から緑の党へ』,昭和堂
- 畑山敏夫,2012,『フランス緑の党とニュー・ポリティクス：近代社会を超えて緑の社会へ』,吉田書店
- 畑山敏夫,2007,『現代フランスの新しい右翼—ルペンの見果てぬ夢—』,法律文化社
- 樋口直人,2007.11.8,「ミリュウの政治社会学 ——(2)なぜ日本には緑の党がないのか——」,日本社会学第80回大会 <http://homepage2.nifty.com/chijiken/Higuchi2007.pdf> (2015/12/23 閲覧)
- H.ブラーズ・E.トッド著,石崎晴己訳,2014,『不均衡という病：フランスの変容』,藤原書店
- ウルリッヒ・ベック著,東廉・伊藤美登里訳,1998,『危険社会』,法政大学出版局
- ウルリッヒ・ベック著,山本啓訳,2014『世界リスク社会』,法政大学出版局
- フランス緑の党著,真下俊樹訳,2001,『緑の政策事典』,緑風出版
- フランス緑の党著,若森章孝・若森文子訳,2004,『緑の政策宣言』,緑風出版

W.F.ホワイト著,奥田道大・有里典三訳,2000『ストリート・コーナー・ソサエティ』,有斐閣

朝日新聞 2013年7月31日朝刊「(社説) もう一つの参院選 参加と対話の政治を育む」

————— 2013年8月3日朝刊「(耕論) ネットは選挙を変えたか 三宅洋平さん、中川淳一郎さん」

緑の党ホームページ <http://greens.gr.jp/>

Europe Écologie Les Verts <http://eelv.fr/>

THE GREENS <http://greens.org.au/>

Les Jeunes Écologistes <http://www.jeunes-ecologistes.org/>

Les Jeunes Écologistes de Lyon <http://www.jeunes-ecologistes.org/lyon/>

JE リヨンツイッター https://twitter.com/JE_Lyon

INSEE (国立統計経済研究所) <http://www.insee.fr/fr/default.asp>

リヨンオフィシャルサイト <http://www.lyon.fr/page/accueil.html>

外務省ホームページ フランス共和国基礎データ <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/france/data.html>

Facebook グループ Jeunes Ecologistes Lyon (非公開ページ)

CIRC Lyon <http://www.circ-lyon.fr/>

Zéro watt <http://www.zero-watt.net/index.php/en/>

Colibris69Lyon <http://www.colibris69lyon.org/>

Les Gars'pilleurs <http://lesgarspilleurs.org/mouvement/>

Les Engraineurs <http://engraineurs.tumblr.com/>

La lutte pour le droit au logement <http://base.d-p-h.info/fr/fiches/dph/fiche-dph-6566.html>

資料集

下記に特記のあるもの以外は全て筆者が撮影した写真である。



写真1 ジャン・マセ広場



写真2 ギョチエール メトロ駅前



写真3 7区詳細地図



写真4 ガリバルディ駅周辺



写真5 緑の党オフィス



写真6 ベルクール広場



写真7 レピュビュリック通り

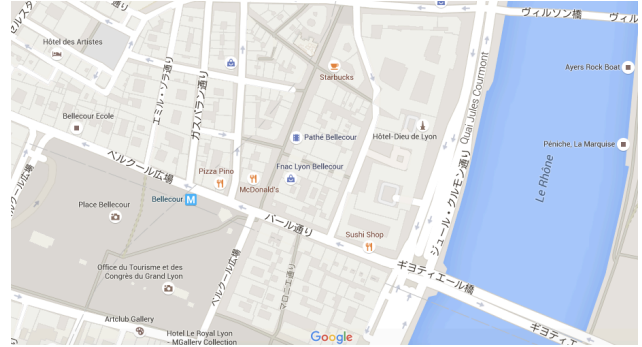


写真8 2区詳細地図



写真9 テロー広場噴水



写真10 テロー広場



写真11 クロワ・ルースの丘

以下の写真については、記載の URL のページからのスクリーンショットである。

写真 2 : <https://www.google.co.jp/maps/@45.7550924,4.8424895,3a,75y,174.35h,85.77t/d ata=!3m6!1e1!3m4!1sQFp1IFaBmy9WUHFU9ezGIA!2e0!7i13312!8i6656?hl=ja> (2016/0

1/01 閲覧)

写真 3 : <https://www.google.co.jp/maps/place/%E3%83%95%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%82%B9+%E3%83%AA%E3%83%A8%E3%83%B3+7e+%E3%82%A2%E3%83%AD%E3%83%B3%E3%83%87%E3%82%A3%E3%82%B9%E3%83%A2%E3%83%B3/@45.7502592,4.8401687,15z/data=!4m2!3m1!1s0x47f4ea246efbf2fb:0x508ab2ae4c21920?hl=ja> (2016/01/01 閲覧)

写真 8 : <https://www.google.co.jp/maps/@45.7585152,4.8354168,17z?hl=ja> (2016/01/01 閲覧)

リヨン青年エコロジスト規約

第1条：名称

現在の規約において会員の間で設立され、1901年7月1日の法律、及び1901年8月16日の政令に基づく団体で、名称は「Les Jeunes Écologistes de Lyon」(リヨン青年エコロジスト)とする。

第2条：目的

リヨン青年エコロジストは、政治的エコロジーを情報の拡散やデモの組織、様々なイベントを通じて特に若者に対して優先的に普及し促進させることを目的とする。

よって同団体は、ヨーロッパ・エコロジー=緑の党の基本的な価値観と思想に賛同する¹¹⁶。同団体は、局地的、地域的、国内的、国際的で公的な生活のすべてのテーマに参加することができる。

第3条：社会的な拠点

団体の本拠地は次の住所に設定する：ヨーロッパ・エコロジー=緑の党、34 rue Rachais, 69007 Lyon

これは、会の決定により移転されうるが、全体集会での承認が必要となる。

第4条：期間

団体の存続期間は定められていない。

第5条：加入

団体のメンバーは、日付(期日)通りに会費を負担するすべての会員である。

青年エコロジストリヨンの加入者は自動的に青年エコロジスト連合の加入者となるが、ヨーロッパ・エコロジー=緑の党の加入者であるわけではない。

第6条：会費

会費は直接青年エコロジスト連合のレベルで行われる。総計や期間は年一度の連合全体集会で定められる。

¹¹⁶ ここで「賛同する」という表現が使われていることに注目すべきである。賛同はするがあくまで別の団体であるという意識がここに表れていると言える。

第7条：会員資格の喪失

団体会員資格は、辞退、会費の更新不履行、死亡、全体集会により決議される除籍(当事者は、書留の書状によって呼び出され、全体集会の前で釈明する)によって失われる。

第8条：年齢制限

会員の年齢制限は、青年エコロジストの連合規約において設定される。¹¹⁷

第9条：両立不可能性

当団体への参加は、自動的にヨーロッパ・エコロジー=緑の党への参加を含むわけではないが、他の政党や、ヨーロッパ・エコロジー=緑の党の基本的な価値観と相反の政党の系列下にある青年運動への所属は禁止されており、除籍に値する。

第10条：財源

当団体の財源は、次の通りである。

- ・会員の会費
- ・デモでの集金
- ・会員に対する物品販売
- ・民間及び公的組織からの助成金
- ・法律により許可されたその他のあらゆる財源

第11条：決議会

青年エコロジストへ期日どおりに会費を納めた人物はすべて、事実上、グループの決議会のメンバーとみなされる。すべての会員は共同財務局の選挙への投票権を有する。

会員のリストは連合レベルの青年エコロジストによって管理され、いつでも運動の連合執行部によって請求されうる。このリストが、会の構成を示す。

この会は常に、課せられた決定を行い、必要であれば投票による。

・ 動議の採択、修正案の採択、行動の実行など、コンセンサスが必要な決定については、有効票の 2/3 の投票。

もしくは

日常の決定や、会議や全体集会の進展のために一つの選択が必要な決定については、有効

¹¹⁷ ここにはもともと会員資格の年齢制限を 15~30 歳とする旨の文言があったが、会議の前にすでに削除されていた。

票の絶対多数の投票。

JE 連盟ホームページ内 Le mot des secrétaires fédéraux 全訳

連盟書記の言葉

「世界を創造し続ければ、今の世界を変えることもできる」 ウンベルト・エーコ

青年エコロジストは、政治的エコロジーの若者の運動です。片足は連合の領域に、片足は政治の領域に、あらゆる分野・レベルにおいて、エコロジーのための文化的な闘争に勝利するために、持続的に我々の現在のモデルを変革するために、そして分別ある社会を再構築するために我々は闘います。

このサイトは、我々の機能、歴史、価値観についての情報が満載です。いろいろ見るのも、私たちや地方グループに連絡するのも、SNS で私たちを追うのも、あなたの自由。ここではとりあえず、私たちの運動やプロジェクトについての、ほんの数行です。

私たちの運動は、エコロジー思想とその多様な起源（平和主義・反レイシズム、フェミニズム、代替グローバリズムと代替の社会構想、反生産至上主義、反核、連邦主義と無政府主義）の遺産と連続性の中に位置しています。私たちの運動は政治的エコロジーに加え、世界についてのグローバルなビジョンを持ちます。こうしたビジョンは 21 世紀の課題と、社会、環境、民主主義の迫り来る危機に対する、正しく持続的な答えをもたらすと確信しています。また、資本主義システムの野放図な状態への単なる一つの答えであるだけでなく、人類と生き物を経済より優位に置く、解放的で進歩的な真の社会プロジェクトであるとも確信しています。

JE のメンバーは自分たちの領域で活動し、市民社会の中で闘い、オルタナティブなプロジェクトを提示し、創造性をもち、ユーモラスかつゴキゲンに、流れをひっくり返すには欠かせないこの良心の反逆を実行します。多くの人々と同様、私たちは気づいているのです。毎日、解決策が編み出され、意識の目覚めが起こっているということに。そして、本当に大胆な政治的決断が行われて、市民社会がすでに動かし始めたものの国際的な枠組みが設立されるためには、思想の闘いに勝つために戦い続け、統治者に圧力をかけ続けながらこれらのイニシアティブを普及したほうがいいということに。

活動的でエコロジーな愛を込めて、そしてあなたがこのサイトから出発して、我々と同じように希望で満たされていることを願って。

—セシル・ジェルマン、ヴィクトール・ヴォキュワ、青年エコロジスト連盟共同書記

政治的エコロジー？

「エコロジーとは、不当な権力の形式すべてに対する批判精神による反逆である」

—ノエル・マメール

エコロジーとは何か？

「エコロジー」という用語は、もともとの科学的な定義においては、個人個人（単独の、あるいは集団においての）と彼らを囲む世界（環境）、彼ら自身が一員である世界との相互作用についての研究の広大な領域を指す。

環境主義あるいはエコロジズムは、思想（イデオロギー的で政治的な）潮流であると同時に、人間の活動によって変化させられうる自然界と生きた生態系の保護を目指す、価値観と提言の集成である。いくつかの理論家や団体（地球の友、グリーンピース、ソルティール・ドゥ・ニュークレール）や政治的エコロジーの代表者は、今日この思想の活動的な代表者である。

政治的エコロジーは、結局のところ、様々な影響（アルテルモンディアリズム運動、フェミニズム運動、平和主義・非暴力運動、無政府主義運動、社会主義運動、自主管理運動など）のもと養われた社会文化活動で、環境の課題を考慮に入れた政治的行動を起こす可能性を 1970 年代から要求している。

歴史的な視点

歴史的・文化的に、西洋世界は人類の自然界にたいする優越の神話に沿って構築されてきた。人類が世界の中心に置かれているかのようなこのビジョンは、一部ではユダヤ・キリスト教的な文化と創世記の表現（神が地球を支配せねばならない道具として人間に限定して与える）、さらにはルネサンスのヒューマニズム運動（人間が世界の中心）や啓蒙主義運動（世界の認識が、続いてそれを進歩の思想に導かれて機械的に変更することが可能とするとされる）に由来している。

政治的エコロジーの思想は西洋産業革命期の 19 世紀後半に現れた。例えば、工業発展やそれが人々や環境にもたらした結果に対するある種の批判が現れたのは、1870 年代のイギリスやドイツにおいてだった。

しかし 1960 年代や 1970 年代になってから、エコロジーが政治界への一歩、特に、1974 年の大統領選挙の際エコロジストにとっての最初の候補者となったルネ・デュモンのような、消費社会と資本主義についてのラディカルな批判が見られるようになる。

政治的エコロジー

エコロジーはもともと組織と自然界との関係について学ぶことを目的としていたが、政治的エコロジーは人間中心主義、つまり人間を世界の中心の実体と考える哲学概念の限界を意識することに続いている。

特に、エコロジー言説は消費社会と世界の商業化の成長神話の実現に批判的な話法をとる。政治的エコロジーは、アンドレ・ゴルツやアラン・リピエツのような思想家が考えている通り、「今存在するものの秩序」を拒絶するというマルクス主義の批判領域との共通点を示す。労働者と資本家の力関係の分析に限らず、エコロジーは、人類が自然との間に持つ関係を思考に取り入れ、私たちの生活と生産の様式が生物界にもたらす影響を考慮に入れることの必要性を説く。この思想のカギとなるのは、この容認できない生活様式の直接の犠牲となる人々と、未来世代に対しての責任の概念である。

単なる批判的な姿勢を超えて、エコロジストは、生き物が経済成長と利益の強迫観念より優先される、新たな社会モデルの実行を主張する。この新たなプリズムはあらゆる領域に影を投げかける。農業から運輸まで、気候の温暖化から教育システムまで、経済から社会的分野まで。したがって、政治的エコロジーは我々の近代性を特徴付ける経済的・文化的な画一化と理論的に闘う。少数者の認知と権利の平等のために奮闘する。自立の、平等の、民主主義の、連帯の、平等の（訳者注：原文ママ）、連邦主義の、社会と環境の正義の価値を擁護する。

左派生産至上主義批判

エコロジストは、常により多く生産することに通じる経済理論を生産至上主義とみなす。この論理は、財とサービスの生産力を、労働の密度やその自然資源への影響を減らすことなく無限に拡大し続けることを目指すものだ。一般的に、生産性の追求は利益の追求をもたらす、経済的権力の至上権を強めることしかない。

時代が進むにつれて、人間の創意工夫のおかげで生産性は向上する：これは嘆くべきこ

となのだろうか？

- ・ノー、同じ生産（有用なものであると仮定して）のためであればエネルギーと原料、そして特に労働時間を節約できる。
- ・イエス、生産の社会的有用性が疑わしいものであり、生産性の高さがこの星や労働条件を傷つけるものであり、また資本だけがこの改善から利益を得るのであれば。

東洋諸国はある種の共産主義に挑戦して成功することはなかったが、先進資本主義諸国は社会的要求に応えるとみなされている成長のモデルを実行してきた。分業を極限まで推し進めてきたこの資本主義・自由主義モデルは、給与所得者たちに「成長の果実の分け前」と大量消費に与えることを保障した。左派勢力は、このモデルを社会民主主義を通して受け入れ、この妥協を長い間容認し、この経済モデルの中で不平等を削減し何百万もの労働者の境遇を改善する手段を見出してきた。しかしながら、認めざるを得ないのだ。**有限の世界において無限の成長を褒め称える経済モデルは通用しない**ということ。今日、**成長は解決策**というよりもむしろ**問題と化してしまっている**。特に、社会的不平等の悪化や際限なき資源の搾取、物質的な蓄積に基づいた時代遅れの経済理論の延長につながってしまっているからだ。

しばしば語られる脱成長は、実体経済のそれというよりもむしろエコロジカル・フットプリント、つまり我々の生活様式が我々の環境に与える影響のそれである。この思想家たち（セルジュ・ラトゥーシュ、ポール・アリエ）が認めるところによれば、「**脱成長**」は**主流の経済思想**と成長への強迫観念を**粉碎するための口撃**である。

脱成長の対極にある、**持続可能な開発**（ブルントラント委員会、1987年）という概念は、方針としては興味深いが、**主流の経済思想と自由主義論理**におおいに回収されてきた。というのも、自発的な節約やつましさという考え方よりは不安をもたらすことが少ないからだ。持続可能な成長概念の3つの領域（経済、社会、環境）は、たしかに責任ある横断的な政治行動を目指すというメリットはある。しかしながら、持続可能な成長の議論は、何度も新たな形式の成長（「緑の」成長）を正当化し、純粹に功利主義的で墮落したやり方で広告の目的を提供するために利用されてきた。

エコロジー、未来の危機

経済危機、社会危機、民主主義の危機そして環境の危機は本質的に結びついている。エコロジストによる確認と提案は、今後平等と連帯のための左派勢力の言説を豊かにする。エネルギーの不安定、農業の苦境、若者の危機、消費社会に置いてけぼりにされた人々、気候難民…。これほど多くの問いに対し政治的エコロジーは独自の答えを持って臨み、同時に社会的進歩とよい暮らしのための共闘を行う。よって社会的な優先事項と環境保護を対立させてはならず、むしろ逆に人間の尊厳をさらに進めるために、環境の課題の緊急性を理解しなければならない。


これが、政治的エコロジーが率いる闘いである。

「世界を創造し続ければ、今の世界を変えることもできる」ウンベルト・エーコ

「すべての問いが本質的な問題性においてエコロジー的というわけではないが、
すべての政治的な問いにおいてエコロジー的な観点が存在する」

ポール・リクール

リヨンメトロ路線図



Plan lignes fortes

- M** Métro
- T** Tramway
- F** Funiculaire
- C** Ligne majeure de Bus (en correspondance avec métro / tramway)

MÉTRO

M1	Part-Dieu - Perrache
M2	Part-Dieu - Gare de Vaise
M3	Part-Dieu - Gare de Vaise
M4	Part-Dieu - Gare de Vaise
M5	Part-Dieu - Gare de Vaise
M6	Part-Dieu - Gare de Vaise
M7	Part-Dieu - Gare de Vaise
M8	Part-Dieu - Gare de Vaise
M9	Part-Dieu - Gare de Vaise
M10	Part-Dieu - Gare de Vaise
M11	Part-Dieu - Gare de Vaise
M12	Part-Dieu - Gare de Vaise
M13	Part-Dieu - Gare de Vaise
M14	Part-Dieu - Gare de Vaise
M15	Part-Dieu - Gare de Vaise
M16	Part-Dieu - Gare de Vaise
M17	Part-Dieu - Gare de Vaise
M18	Part-Dieu - Gare de Vaise
M19	Part-Dieu - Gare de Vaise
M20	Part-Dieu - Gare de Vaise
M21	Part-Dieu - Gare de Vaise
M22	Part-Dieu - Gare de Vaise
M23	Part-Dieu - Gare de Vaise
M24	Part-Dieu - Gare de Vaise
M25	Part-Dieu - Gare de Vaise
M26	Part-Dieu - Gare de Vaise
M27	Part-Dieu - Gare de Vaise
M28	Part-Dieu - Gare de Vaise
M29	Part-Dieu - Gare de Vaise
M30	Part-Dieu - Gare de Vaise

FUNICULAIRE

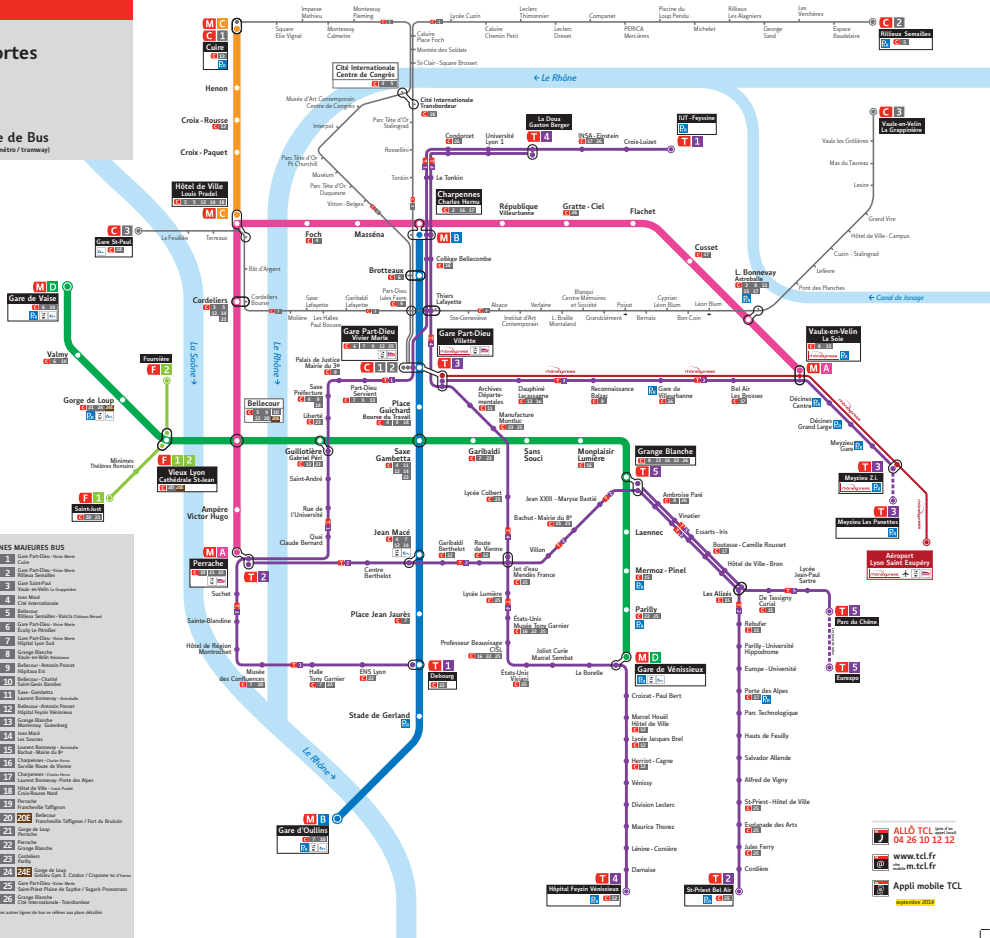
F1	Part-Dieu - Gare de Vaise
F2	Part-Dieu - Gare de Vaise
F3	Part-Dieu - Gare de Vaise
F4	Part-Dieu - Gare de Vaise
F5	Part-Dieu - Gare de Vaise

TRAMWAY

T1	Part-Dieu - Gare de Vaise
T2	Part-Dieu - Gare de Vaise
T3	Part-Dieu - Gare de Vaise
T4	Part-Dieu - Gare de Vaise
T5	Part-Dieu - Gare de Vaise
T6	Part-Dieu - Gare de Vaise
T7	Part-Dieu - Gare de Vaise
T8	Part-Dieu - Gare de Vaise
T9	Part-Dieu - Gare de Vaise
T10	Part-Dieu - Gare de Vaise
T11	Part-Dieu - Gare de Vaise
T12	Part-Dieu - Gare de Vaise
T13	Part-Dieu - Gare de Vaise
T14	Part-Dieu - Gare de Vaise
T15	Part-Dieu - Gare de Vaise
T16	Part-Dieu - Gare de Vaise
T17	Part-Dieu - Gare de Vaise
T18	Part-Dieu - Gare de Vaise
T19	Part-Dieu - Gare de Vaise
T20	Part-Dieu - Gare de Vaise
T21	Part-Dieu - Gare de Vaise
T22	Part-Dieu - Gare de Vaise
T23	Part-Dieu - Gare de Vaise
T24	Part-Dieu - Gare de Vaise
T25	Part-Dieu - Gare de Vaise
T26	Part-Dieu - Gare de Vaise
T27	Part-Dieu - Gare de Vaise
T28	Part-Dieu - Gare de Vaise
T29	Part-Dieu - Gare de Vaise
T30	Part-Dieu - Gare de Vaise

SERVICES

S1	Part-Dieu - Gare de Vaise
S2	Part-Dieu - Gare de Vaise
S3	Part-Dieu - Gare de Vaise
S4	Part-Dieu - Gare de Vaise
S5	Part-Dieu - Gare de Vaise
S6	Part-Dieu - Gare de Vaise
S7	Part-Dieu - Gare de Vaise
S8	Part-Dieu - Gare de Vaise
S9	Part-Dieu - Gare de Vaise
S10	Part-Dieu - Gare de Vaise
S11	Part-Dieu - Gare de Vaise
S12	Part-Dieu - Gare de Vaise
S13	Part-Dieu - Gare de Vaise
S14	Part-Dieu - Gare de Vaise
S15	Part-Dieu - Gare de Vaise
S16	Part-Dieu - Gare de Vaise
S17	Part-Dieu - Gare de Vaise
S18	Part-Dieu - Gare de Vaise
S19	Part-Dieu - Gare de Vaise
S20	Part-Dieu - Gare de Vaise
S21	Part-Dieu - Gare de Vaise
S22	Part-Dieu - Gare de Vaise
S23	Part-Dieu - Gare de Vaise
S24	Part-Dieu - Gare de Vaise
S25	Part-Dieu - Gare de Vaise
S26	Part-Dieu - Gare de Vaise
S27	Part-Dieu - Gare de Vaise
S28	Part-Dieu - Gare de Vaise
S29	Part-Dieu - Gare de Vaise
S30	Part-Dieu - Gare de Vaise



ALLO TCL 04 26 10 12 12
 www.tcl.fr
 m.tcl.fr
 Appii mobile TCL

リヨン主要データ

人口	リヨン	フランス
人口 (2012 年)	496,343	65,241,240
人口密度 (2012 年)	10,368.6 人/km ²	103.1 人/km ²
面積	47.9km ²	632,734.9km ²
人口変動率 (2007 年から 2012 年の年間平均)	+1.0%	+0.5%
うち自然増 (同上)	+0.8%	+0.4%
うち社会増 (同上)	+0.1%	+0.1%
世帯数 (2012 年)	250,328	28,268,898
自宅出産 (2014 年)	7,627	809,328
自宅死亡 (2014 年)	3,284	556,772

住宅	リヨン	フランス
住宅数総計 (2012 年)	283,456	34,037,824
主たる住居の割合 (2012 年)	88.3%	83.1%
副次的住居 (臨時の住居も含む) の割合 (2012 年)	2.8%	9.4%
空き家の割合 (2012 年)	8.9%	7.6%
持ち家率 (2012 年)	33.6%	57.7%

所得	リヨン	フランス
課税世帯 (2012 年)	221,187	
全世帯に占める課税世帯の割合 (2012 年)	69.6%	
消費単位による家庭の税務に関わる諸収入の中央値 (2012 年)	21,659.6 ユーロ	
貧困率 (2012 年)	14.0%	

雇用・失業	リヨン	フランス
職場での雇用総数 (給与所得者とその他) (%)	305,665	26,338,468
うち給与所得者	89.3%	87.1%
職場での雇用総数変動	+1.3%	+0.3%
15 歳から 64 歳までの就業比率 (2012 年)	73.0%	72.8%

15 歳から 64 歳までの失業率 (2012 年)	13.2%	13.2%
----------------------------	-------	-------

施設	リヨン	フランス
2012 年 12 月 31 日時点での営業施設数	68,600	6,280,327
農業	0.1%	6.4%
工業	3.5%	5.3%
建造物 ¹¹⁸	5.2%	10.2%
商業、交通、諸サービス	77.1%	64.5%
うち商業と自動車修理	13.8%	16.1%
行政、教育、健康、社会事業	14.1%	13.6%
従業員 1～9 名の施設割合	23.9%	24.2%
従業員 10 名以上の施設割合	5.9%	6.0%

以上 <http://www.insee.fr/fr/themes/comparateur.asp?codgeo=COM-69123&codgeo=FE-1>
(2016/01/01 閲覧)より

¹¹⁸ 原語では construction とあるが、パトリス・ルロワ教授によれば、マンションなど住居を指すと考えられるとのことである。

詳細データ

以下全データ(http://www.insee.fr/fr/themes/dossier_complet.asp?codgeo=COM-69123
 および http://www.insee.fr/fr/themes/dossier_complet.asp?codgeo=FE-1 (いずれも 2016/
 01/01 閲覧)より)
 その他特記があればそのサイトを参照。

・人口、世帯

<年齢層別の人口>

リヨン

	2012	%	2007	%
計	496,343	100.0	472,331	100.0%
0~14 歳	76,735	15.5	71,287	15.1
15~29 歳	145,108	29.2	135,991	28.8
30~44 歳	106,288	21.4	100,568	21.3
45~59 歳	76,269	15.4	75,889	16.1
60~74 歳	53,712	10.8	49,308	10.4
75 歳~	38,231	7.7	39,288	8.3

フランス

	2012	%	2007	%
計	65,241,240	100.0	63,600,456	100.0
0~14 歳	12,081,501	18.5	11,767,038	18.5
15~29 歳	11,864,581	18.2	12,069,575	19.0
30~44 歳	12,845,619	19.7	13,229,236	20.8
45~59 歳	13,051,952	20.0	12,894,446	20.3
60~74 歳	9,498,564	14.6	8,304,023	13.1
75 歳~	5,899,023	9.0	5,336,137	8.4

<性別・年齢ごとの人口 (2012 年) >

リヨン

	男	%	女	%

計	232,310	100.0	264,033	100.0
0~14 歳	39,428	17.0	37,307	14.1
15~29 歳	66,523	28.6	78,585	29.8
30~44 歳	53,932	23.2	52,355	19.8
45~59 歳	35,690	15.4	40,579	15.4
60~74 歳	24,045	10.4	29,667	11.2
75~89 歳	11,701	5.0	22,002	8.3
90 歳~	991	0.4	3,537	1.3
0~19 歳	55,212	23.8	56,472	21.4
20~64 歳	150,641	64.8	164,479	62.3
65 歳~	26,457	11.4	43,082	16.3

フランス

	男	%	女	%
計	31,580,580	100.0	33,660,660	100.0
0~14 歳	6,180,428	19.6	5,901,074	17.5
15~29 歳	5,964,076	18.9	5,900,506	17.5
30~44 歳	6,355,650	20.1	6,489,970	19.3
45~59 歳	6,371,086	20.2	6,680,867	19.8
60~74 歳	4,502,487	14.3	4,996,077	14.8
75~89 歳	2,060,041	6.5	3,255,447	9.7
90 歳~	146,814	0.5	436,721	1.3
0~19 歳	8,209,962	26.0	7,834,308	23.3
20~64 歳	18,628,752	59.0	19,242,860	57.2
65 歳~	4,741,867	15.0	6,583,493	19.6

<人口動態指標>

リヨン

	1968~1975	1975~1982	1982~1990	1999~2007	2007~2012
年平均人口変動 (%)	-2.1	-1.4	+0.1	+0.8	+0.7

自然要因	+0.5	+0.3	+0.5	+0.6	+0.8
流出入により	-2.5	-1.7	-0.4	+0.1	0.0
出生率(‰)	15.6	13.9	14.8	15.2	15.4
死亡率(‰)	10.9	10.9	10.2	8.9	7.8

フランス

	1968~1975	1975~1982	1982~1990	1999~2007	2007~2012
年平均人口変動 (%)	+0.8	+0.5	+0.5	+0.4	+0.7
自然要因	+0.6	+0.4	+0.4	+0.4	+0.4
流出入により	+0.2	+0.0	+0.1	+0.0	+0.3
出生率(‰)	16.9	14.4	14.0	12.9	13.0
死亡率(‰)	10.8	10.2	9.6	9.1	8.7

<世帯構成>

リヨン

	世帯数				世帯人数	
	2012	%	2007	%	2012	2007
計	250,314	100.0	236,812	100.0	481,331	456,450
単身世帯	121,198	48.4	114,502	48.4	121,198	114,502
男性のみ	50,292	20.1	46,298	19.6	50,292	46,298
女性のみ	70,906	28.3	68,204	28.8	70,906	68,204
家族以外の他世帯	15,356	6.1	12,061	5.1	35,479	27,740
家族世帯	113,760	45.4	110,248	46.6	324,654	314,208
子ども無カップル	49,836	19.9	49,257	20.8	100,881	99,937
子ども有カップル	44,691	17.9	43,204	18.2	173,075	167,642

片親	19,232	7.7	17,787	7.5	50,699	46,629
----	--------	-----	--------	-----	--------	--------

フランス

	世帯数				世帯人数	
	2012	%	2007	%	2012	2007
計	28,269,668	100.0	26,992,034	100.0	63,760,072	62,111,400
単身世帯	9,709,823	34.3	8,924,508	33.1	9,709,823	8,924,508
男性のみ	4,112,257	14.5	3,681,970	13.6	4,112,257	3,681,970
女性のみ	5,597,567	19.8	5,242,538	19.4	5,597,567	5,242,538
家族以外の他世帯	757,661	2.7	709,361	2.6	1,796,844	1,695,848
家族世帯	17,802,182	63.0	17,358,166	64.3	52,253,404	51,491,044
子ども無カップル	7,547,156	26.7	7,248,241	26.9	15,495,031	14,904,226
子ども有カップル	7,660,383	27.1	7,750,715	28.7	29,822,280	30,269,830
片親	2,594,645	9.2	2,359,210	8.7	6,936,094	6,316,990

< 婚姻状況 >

	独身	既婚	死別	離婚
リヨン	53.4%	33.2%	5.6%	7.8%
フランス	38.5%	46.2%	7.6%	7.7%

(参考)

パリ	52.6%	34.6%	5.1%	7.8%
マルセイユ	42.5%	40.0%	8.0%	9.6%
グルノーブル	53.9%	31.6%	6.4%	8.2%

http://www.insee.fr/fr/themes/dossier_complet.asp?codgeo=COM-75056 (2016/01/01 閲覧)

http://www.insee.fr/fr/themes/dossier_complet.asp?codgeo=COM-13055 (2016/01/01 閲覧)

http://www.insee.fr/fr/themes/dossier_complet.asp?codgeo=COM-38185 (2016/01/01 閲覧)

【移民に関するデータ】

データはすべて 2012 年のもの

<移民人口>

リヨン

	~15 歳	15~24 歳	25~54 歳	55 歳~	計
移民人口	2,619	8,637	33,766	15,822	60,843
全人口	7,6735	95,248	208,747	115,612	496,343
割合	3.4%	9.1%	16.2%	13.7%	12.3%

http://www.insee.fr/fr/themes/tableau_local.asp?ref_id=IMG1A&millesime=2012&niveau=1&typgeo=COM&codgeo=69123 (2016/01/01 閲覧)をもとに筆者が作成

フランス

	~15 歳	15~24 歳	25~54 歳	55 歳~	計
移民人口	274,898	488,771	3,112,993	1,837,382	5,714,045
全人口	12,081,501	7,910,623	25,667,608	19,581,508	65,241,240
割合	2.3%	6.2%	12.1%	9.4%	8.8%

http://www.insee.fr/fr/themes/tableau_local.asp?ref_id=IMG1A&millesime=2012&niveau=1&typgeo=FE&codgeo=1 (2016/01/01 閲覧)をもとに筆者が作成

・経済、産業

<部門ごとの雇用>

リヨン

	2012				2007	
	数	%	うち女性	うち賃労働者	数	%
計	302,165	100.0	52.4	90.7	284,134	100.0
農業	206	0.1	38.7	56.4	238	0.1
工業	21,585	7.1	37.4	93.7	23,656	8.3
建築	10,435	3.5	14.1	81.4	10,300	3.6
商業、交通、諸サービス	176,356	58.4	49.0	88.9	159,296	56.1

行政、教育、健康、社会事業	93,583	31.0	66.6	94.4	90,643	31.9
---------------	--------	------	------	------	--------	------

フランス

	2012				2007	
	数	%	うち女性	うち賃労働者	数	%
計	26,337,358	100.0	48.0	88.5	26,005,558	100.0
農業	744,659	2.8	29.7	40.1	805,857	3.1
工業	3,377,278	12.8	29.1	93.9	3,801,863	14.6
建築	1,811,219	6.9	10.9	78.1	1,762,547	6.8
商業、交通、諸サービス	12,123,161	46.0	46.5	87.3	11,697,415	45.0
行政、教育、健康、社会事業	8,281,041	31.4	67.6	94.8	7,937,876	30.5

<職業別社会階層ごとの15歳以上人口>

リヨン

	2012	%	2007	%
計	250,314	100.0	481,331	100.0
自営農業者	103	0.0	308	0.1
職人、商人、企業主	8,423	3.4	22,239	4.6
管理職および高度知的職業	53,697	21.5	120,522	25.0
中間管理職	46,063	18.4	90,336	18.8
サラリーマン	34,418	13.7	65,129	13.5
工員	21,843	8.7	54,074	11.2
退職者	54,710	21.9	83,674	17.4
職業活動のない他の個人	31,057	12.4	45,049	9.4

フランス

	2012	%	2007	%
計	53,160,028	100.0	51,811,644	100.0
自営農業者	473,713	0.9	545,269	1.1
職人、商人、企業主	1,826,972	3.4	1,678,286	3.2
管理職および高度知的職業	4,742,886	8.9	4,301,431	8.3
中間管理職	7,473,200	14.1	7,053,268	13.6
サラリーマン	8,838,599	16.6	8,675,475	16.7
工員	6,963,902	13.1	7,151,108	13.8

退職者	14,086,972	26.5	13,119,187	25.3
職業活動のない他の個人	8,753,788	16.5	9,287,622	17.9

<15~64歳の活動種別の人口>

リヨン

	2012	2007
計	350,068	332,095
現役	73.0%	71.0%
有職者	63.3	63.2
失業者	9.7	7.8
非現役	27.0	29.0
児童、生徒、研修生、無給	17.0	17.4
退職者および定年前退職者	4.2	4.8
その他の非現役	5.8	6.9

フランス

	2012	2007
計	41,834,380	41,358,948
現役	72.8%	71.4%
有職者	63.2	63.2
失業者	9.6	8.2
非現役	27.2	28.6
児童、生徒、研修生、無給	10.2	10.9
退職者および定年前退職者	8.4	8.2
その他の非現役	8.6	9.5

<2012年における、活動ごとの15~64歳人口>

	現役有職者	失業者	退職者	学生	他非現役
リヨン	63.3%	9.7%	4.2%	17.0%	5.8%
フランス	63.2%	9.6%	8.4%	10.2%	8.6%

(参考)

パリ	68.0%	9.0%	3.9%	12.5%	6.6%
マルセイユ	54.9%	12.4%	6.5%	12.7%	13.5%

グルノーブル	59.6%	10.4%	4.2%	19.2%	6.7%
--------	-------	-------	------	-------	------

http://www.insee.fr/fr/themes/dossier_complet.asp?codgeo=COM-75056 (2016/01/01 閲覧)

http://www.insee.fr/fr/themes/dossier_complet.asp?codgeo=COM-13055 (2016/01/01 閲覧)

http://www.insee.fr/fr/themes/dossier_complet.asp?codgeo=COM-38185 (2016/01/01 閲覧)

<15~64 歳の失業>

リヨン

	2012	2007
失業者数	33,844	25,784
失業率	13.2%	10.9%
男性失業率	13.2	10.5
女性失業率	13.3	11.4
失業者に占める女性の割合	50.2	51.9

フランス

	2012	2007
失業者数	4,032,292	3,394,731
失業率	13.2%	11.5%
男性失業率	12.6	10.2
女性失業率	13.9	12.9
失業者に占める女性の割合	50.8	53.3

<2012 年における、職業別社会階層ごとの総合平均純時間給 (ユーロ) >

リヨン

	全体	女	男
全体	15.1	13.4	16.5
管理職、高度知的職業、企業主	23.4	20.5	25.0

中間管理職	14.1	13.2	14.8
サラリーマン	10.5	10.3	10.9
工員	10.7	9.3	11.0

フランス

	全体	女	男
全体	13.8	12.4	14.8
管理職、高度知的職業、企業主	25.0	21.7	26.6
中間管理職	14.4	13.3	15.1
サラリーマン	10.3	10.1	10.9
工員	10.9	9.6	11.1

<2012年における、通勤に利用される交通手段>

	公共交通機関	自動車、トラック、ライトバン	二輪車	徒歩	交通機関なし
リヨン	37.3%	38.2%	6.2%	14.9%	3.4%
フランス	14.7%	69.9%	3.9%	7.2%	4.3%

(参考)

パリ	64.1%	12.9%	7.7%	9.8%	5.4%
マルセイユ	24.9%	54.4%	7.1%	10.7%	2.9%
グルノーブル	28.6%	41.6%	12.8%	14.3%	2.8%

下3都市のリンクは前出のものと同様。

<占有状況ごとの主たる住居>

リヨン

	2012				2007	
	数	%	人数	平均入居年数	数	%
計	250,328	100.0	481,359	10.5	236,819	100.0

持ち家	84,067	33.6	176,715	16.4	81,736	34.5
借家	160,321	64.0	293,919	7.4	148,686	62.8
うち公営住宅空き家	40,431	16.2	92,196	12.7	38,595	16.3
無料宿泊	5,939	2.4	10,725	8.7	6,397	2.7

フランス

	2012				2007	
	数	%	人数	平均入居年数	数	%
計	28,268,898	100.0	63,759,972	15.0	26,992,532	100.0
持ち家	16,311,485	57.7	38,720,884	19.8	15,482,438	57.4
借家	11,258,810	39.8	23,610,203	8.2	10,739,429	39.8
うち公営住宅空き家	4,117,313	14.6	9,699,540	11.8	3,987,114	14.8
無料宿泊	698,603	2.5	1,428,883	12.9	770,665	2.9

・教育

<高等教育機関>

<http://www.universite-lyon.fr/l-universite-de-lyon/les-etablissements-membres-et-associes-314457.kjsp?RH=PFR-Udl&RF=PFR-Udlmem> (2015/12/14 閲覧)参照

大学 学生 120,000 人以上

- ・リヨン第1大学：自然科学系、40,000人
- ・リヨン第2大学：社会科学系、28,680人
- ・リヨン第3大学：人文科学系、26,700人
- ・リヨンカトリック：私立大学、10,000人

グランゼコール

学校名	立地	分野	学生数
Ecole Centrale Lyon	郊外	エンジニアなど理工学系	1468人(うち4分の1が留学生、43の国籍)

INSA (Institut National des Sciences Appliquées Lyon)	郊外	理工学系	5400 人 (うち 25%が留学生、エンジニアの教育を受けている者 4500 人)
Ecole normale supérieure de Lyon (リヨン国立高等師範学校) *	市内 (ジェルラン地区)	社会科学・人文科学など	2209 人
Sciences Po Lyon (リヨン政治学院)	市内	法学・政治学など社会科学	1800 人
VetAgro Sup	郊外の街	獣医学・農学	1000 人 (うち 25%が留学生)
Ecole nationale des travaux publics de l'Etat (ENTPE)	郊外	建築学・都市学	761 人 (うち 8%が留学生)
Centre national de recherche scientifique (CNRS)	郊外	公立の研究機関。	

*元はパリにあったが理系部門が 1987 年にリヨンに移転、ついで文系部門も 2000 年に移転し、2010 年に 2 つが統合され現在の姿となる。

(<http://www.ens-lyon.eu/l-ens-de-lyon/historique-78755.kjsp?RH=ENS-LYON-ENS-IN>
FOS :2015/12/14 閲覧)

<http://www.ec-lyon.fr/centrale-lyon/presentation/chiffres-cles-classements> (2015/12/14 閲覧)

<http://www.insa-lyon.fr/fr/content/d%3%A9couvrir-linsa-lyon> (2015/12/14 閲覧)

<http://www.universite-lyon.fr/> (2015/12/14 閲覧)

<2012 年における、年齢・性別ごとの就学率>

リヨン

	計	就学人口	就学人口率(%)		
			計	男	女
2~5 歳	22,370	15,786	70.6	69.3	71.9
6~10 歳	23,856	23,454	98.3	98.3	98.3
11~14 歳	17,799	17,627	99.0	98.8	99.3

15~17 歳	13,434	13,057	97.2	96.6	97.8
18~24 歳	81,814	60,681	74.2	70.1	77.3
25~29 歳	49,860	8,477	17.0	15.8	18.2
35 歳~	274,500	5,341	1.9	1.9	1.9

フランス

	計	就学人口	就学人口率		
			計	男	女
2~5 歳	3,228,932	2,399,677	74.3	74.0	74.6
6~10 歳	4,058,313	4,002,315	98.6	98.6	98.6
11~14 歳	3,221,601	3,188,698	99.0	98.9	99.0
15~17 歳	2,354,222	2,260,626	96.0	95.4	96.6
18~24 歳	5,556,402	2,871,829	51.7	49.1	54.3
25~29 歳	3,953,958	291,059	7.4	6.8	7.9
35 歳~	41,295,160	365,995	0.9	0.8	0.9

<2012 年における、15 歳以上の非就学人口の最高ディプロム（免状）>

リヨン

	計	男	女
15 歳以上の非就学人口	332,050	155,133	176,917
各種ディプロム,%			
ディプロムなし	13.0	12.7	13.2
初等教育証書	5.6	4.0	6.9
前期中等教育修了証書、コレージュ証書	4.8	4.1	5.5
職業適性証書、職業教育修了証	13.2	14.8	11.8
バカロレア、職業証書	15.7	15.8	15.7
短期高等教育修了証書	16.6	14.8	18.1
長期高等教育修了証書	31.1	33.8	28.8

フランス

	計	男	女
15 歳以上の非就学人口	47,370,232	22,576,806	24,793,424

各種ディプロム,%			
ディプロムなし	17.9	17.4	18.3
初等教育証書	9.7	7.6	11.7
前期中等教育修了証書、コレージュ証書	6.0	5.1	6.8
職業適性証書、職業教育修了証	23.7	28.3	19.5
バカロレア、職業証書	16.6	16.4	16.8
短期高等教育修了証書	12.5	10.8	14.1
長期高等教育修了証書	13.7	14.5	12.9

・政治

大リヨン圏議会議席配分

政党	議席
フランス共産党 (PCF)	10
リヨン都市左派連合 (LMGS)	4
緑の党 (EÉLV)	7
都市の熟慮と行動 (GRAM)	2
フランス社会党 (PS)	32
異なる都市 (LMA)	11
左翼急進党 (PRG)	4
リヨン都市民主連合 (RDLM) ※国政の中道政党 MoDem の党派	4
中道独立派-みんなのための都市 (CI)	10
未来への協力 (SA)	29
民主主義・独立連合 (UDI)	6
国民運動連合 ¹¹⁹ (UMP)	41
都市と領域 (MT)	3
国民戦線 ¹²⁰ (FN)	2
計	165

記載順は http://fr.wikipedia.org/wiki/Liste_des_conseillers_de_la_m%C3%A9tropole_de_Lyon (2016/01/01 閲覧)に倣った (公式ページで議席のデータを確認済み)。上から下へ向かって左派から右派へと並んでいるものと思われるが、厳密にどちらがより左か (あるい

¹¹⁹ 右派の国政政党。サルコジの所属する党。

¹²⁰ 極右政党。党首ポリーヌ・ルペン。

は右か)を決めるのが困難な場合もある(左翼急進党の位置づけなど)。なお、日本語訳のない政党に関しては、筆者が訳を付けた。

リヨン市議会議席配分¹²¹

政党	議席
民主中道(左派リスト ¹²²)	5
国民運動連合(UMP、右派リスト)	13
緑の党(EÉLV、左派リスト)	3
中道と独立(左派リスト)	5
リヨン・市民と団結(左翼戦線リスト)	3
リヨン・エコロジーと市民(左派リスト)	3
リヨン・左派連合(左派リスト)	5
無所属 ¹²³	1
社会党(PS、左派リスト)	27
民主主義・独立連合(UDI、同党独自のリスト)	8
計	73

<投票結果(2014年地方選)>

フランスの地方選では、リストに投票し、その得票率によって議席が配分される¹²⁴。以下は2014年3月に行われた市議会選の区ごとの投票結果である。この選挙によって上記の市議会の議席配分が決められた。

¹²¹ <http://www.lyon.fr/page/vie-municipale/les-groupes-politiques.html>
<http://www.leparisien.fr/resultats/elections-municipales-2014-lyon-69000>
http://www.lexpress.fr/resultats-elections/municipales-2014-lyon-69000_413788.html

以上を参考に作成(いずれも2015/12/14閲覧)

¹²² ここでいうリストとは、第2回投票の際に作成されたどのリストに属していたかを表す。第2回投票では地区ごとに3つのリストが登録され、リストの種類としては、2014年は左派、右派、左翼戦線、極右、UDIがあった。

¹²³ この1名は現在無所属との表記になっているが、選挙の際は極右FN系のリストに登録している。

¹²⁴ 人口2500人以上の市町村議会選挙では、名簿に対して投票し、比例代表制による2回投票が行われる。第1回投票で過半数を獲得した名簿がなかった場合、10%以上の票を獲得した第2回投票が行われるが、5%以上の票を獲得した名簿は他の名簿と合併すれば第2回投票にも参加できる(大山,2013)。例えばリヨン1区から選出されている緑の党のエミール・ボーム氏は第1回では緑の党のリストから、第2回は社会党の議員らと共に左派連合のリストから出馬している。当選後は各党での活動に戻るようだ。

http://www.lexpress.fr/resultats-elections/municipales-2014-lyon-69000_413788.html

第1回

	得票	%
極右 (FN) ¹²⁵	17902	12.19
みんなのためのリヨン	5209	3.55
エコロジスト (EÉLV)	13065	8.9
右派 (UMP)	44767	30.49
左派 (PS)	52495	35.76
労働系極左	1106	0.75
リヨン・市民と団結(左翼戦線)	11095	7.56
リヨン 2014	329	0.22
クロワ・ルース 2014	255	0.17
市民の挑戦	410	0.28
行けリヨン	178	0.12

第2回

	得票	%
右派 (UMP 系)	44385	34.24
左派 (PS 系)	65659	50.64
左派 (左翼戦線系)	6191	4.78
極右 (FN 系)	13411	10.34

以上がリヨン市全体レベルでの投票結果であるが、区ごとに見ていくと全く違った特徴が見て取れる。

・1区

第1回

	得票	得票率(%)	議席
--	----	--------	----

(2015/05/15 閲覧)

¹²⁵ 正式にはブルー・マリーヌというグループで、必ずしも FN と完全に同一のものではないが、FN 党首ポリーヌ・ルペン主導のものであり、ここでは FN と同じものとして扱っている。

ブルー・マリーヌホームページ <http://www.rbmfrance.com/> (2015/5/16 閲覧)

極右	583	6.18	0
諸派	293	3.10	0
エコロジスト	1064	11.27	0
右派連合	1804	19.12	0
社会党	2447	25.94	0
極左	86	0.91	0
左翼戦線	3156	33.45	0

第2回

右派連合	2266	24.12	0
左派連合	2944	31.34	1
左翼戦線	4181	44.52	3

・2区

第1回

	得票	得票率(%)	議席
諸派	325	3.23	0
エコロジスト	609	6.05	0
社会党	2737	27.22	0
左翼戦線	487	4.84	0
右派連合	4738	47.12	0
極右	1159	11.52	0

第2回

社会党	3637	36.71	1
右派連合	5248	52.98	4
極右	1020	10.29	0

・3区

第1回

	得票	得票率(%)	議席
右派連合	8161	28.01	0
社会党	11256	38.63	0
エコロジスト	2854	9.79	0

諸派	1352	4.64	0
左翼戦線	1579	5.41	0
極右	3603	12.36	0
諸派	329	1.12	0

第2回

右派連合	10259	35.04	2
左派連合	15752	53.81	10
極右	3259	11.13	0

・4区

第1回

	得票	得票率(%)	議席
右派連合	3493	26.46	0
諸派	255	1.93	0
極左	123	0.93	0
諸派	375	2.84	0
左翼戦線	1323	10.02	0
左派諸派	410	3.10	0
極右	1131	8.56	0
エコロジスト	1567	11.87	0
社会党	4522	34.26	0

第2回

右派連合	4857	37.46	1
左翼戦線	2010	15.50	0
左派連合	6097	47.03	4

・5区

第1回

	得票	得票率(%)	議席
社会党	5954	36.29	0
極右	1857	11.31	0
エコロジスト	1340	8.16	0

右派連合	5850	35.65	0
諸派	498	3.03	0
左翼戦線	752	4.58	0
極左	154	0.93	0

第2回

左派連合	8120	48.46	6
極右	1493	8.91	0
右派連合	7140	42.61	2

・6区

※右派連合が第1回投票で過半数の票を得たため第2回投票は行われなかった。

	得票	得票率(%)	議席
右派連合	8971	50.06	8
エコロジスト	1110	6.19	0
諸派	610	3.40	0
極右	1867	10.41	0
社会党	4801	26.79	1
左翼戦線	561	3.13	0

・7区

第1回

	得票	得票率(%)	議席
エコロジスト	2165	10.87	0
左翼戦線	1543	7.75	0
諸派	178	0.89	0
諸派	722	3.62	0
右派連合	4746	23.84	0
極左	227	1.14	0
極右	2597	13.04	0
社会党	7724	38.81	0

第2回

右派連合	5774	29.36	1
------	------	-------	---

極右	2469	12.55	0
左派連合	11422	58.08	8

・ 8 区

第 1 回

	得票	得票率(%)	議席
極左	317	1.70	0
諸派	586	3.16	0
エコロジスト	1435	7.73	0
極右	3421	18.44	0
右派連合	4303	23.20	0
社会党	7473	40.30	0
左翼戦線	1008	5.43	0

第 2 回

極右	3463	18.12	1
右派連合	5459	28.57	2
左派連合	10183	53.30	9

・ 9 区

第 1 回

	得票	得票率(%)	議席
極右	1684	13.78	0
社会党	5581	45.67	0
エコロジスト	921	7.53	0
諸派	448	3.66	0
左翼戦線	686	5.61	0
右派連合	2701	22.10	0
極左	199	1.62	0

第 2 回

極右	1707	13.55	0
左派連合	7504	59.58	8
右派連合	3382	26.85	1

以上 9 区の選挙結果は <http://www.leparisien.fr/resultats/elections-municipales-2014-lyon-69000> (2016/01/01 閲覧)を参照。

区ごとの詳細データ

1 区

< 基本情報 >

<http://www.insee.fr/fr/themes/comparateur.asp?codgeo=COM-69381&codgeo=COM-691>

23 (2016/01/01 閲覧)

人口	1 区	リヨン
人口 (2012 年)	29,209	496,343
人口密度 (2012 年) 人/km ²	19,343.7	10,368.6
面積 km ²	1.5	47.9
人口変動率 (2006 年から 2012 年の年間平均) %	+0.8	+1.0
うち自然増 (同上) %	+1.0	+0.8
うち社会増 (同上) %	-0.3	+0.1
世帯数 (2012 年)	15,535	250,328

住宅	1 区	リヨン
住宅数総計 (2012 年)	17,935	283,456
主たる住居の割合 (2012 年) %	86.6	88.3
副次的住居 (臨時の住居も含む) の割合 (2012 年) %	2.9	2.8
空き家の割合 (2012 年) %	10.5	8.9
持ち家率 (2012 年) %	31.1	33.6

所得	1 区	リヨン
課税世帯数 (2012 年)	13,962	221,187
全世帯に占める課税世帯の割合 (2012 年) %	67.1	69.6
消費単位による家庭の税務に関わる諸収入の中央値 (2012 年)	21,572.5	21,659.6
貧困率 (2012 年) %	15.6	14.0

雇用・失業	1 区	リヨン
職場での雇用総数 (給与所得者と非給与所得者) %	16,128	305,665
うち給与所得者	84.8	89.3
職場での雇用総数変動 %	+1.1	+1.3

15歳から64歳までの就業比率（2012年）%	76.2	73.0
15歳から64歳までの失業率（2012年）%	13.9	13.2

施設	1区	リヨン
2012年12月31日時点での営業施設数	5,699	68,600
農業（以下%）	0.1	0.1
工業	4.8	3.5
建造物 ¹²⁶	2.5	5.2
商業、交通、諸サービス	79.7	77.1
うち商業と自動車修理	11.7	13.8
行政、教育、健康、社会事業	12.8	14.1
従業員1～9名の施設割合	21.8	23.9
従業員10名以上の施設割合	3.6	5.9

以下は http://www.insee.fr/fr/themes/dossier_complet.asp?codgeo=COM-69381 (2016/01/01 閲覧)より

<年齢層別の人口>

	2012	%	2007	%
計	29,209	100.0	28,126	100.0
0～14歳	4,238	14.5	3,903	13.9
15～29歳	9,384	32.1	9,238	32.8
30～44歳	7,043	24.1	6,614	23.5
45～59歳	4,200	14.4	4,122	14.7
60～74歳	2,459	8.4	2,458	8.7
75歳～	1,885	6.5	1,790	6.4

<職業別社会階層ごとの15歳以上人口>

	2012	%	2007	%
--	------	---	------	---

¹²⁶ 原語では construction とあるが、パトリス・ルロワ教授によれば、マンションなど住居を指すと考えられるとのことである。

計	24,963	100.0	24,237	100.0
自営農業者	14	0.1	3	0.0
職人、商人、企業主	780	3.1	701	2.9
管理職および高度知的職業 ¹²⁷	6,038	24.2	5,494	22.7
中間管理職 ¹²⁸	4,969	19.9	4,470	18.4
サラリーマン	3,429	13.7	3,171	13.1
工員	1,260	5.0	1,531	6.3
退職者	3,589	14.4	3,601	14.9
職業活動のない他の個人	4,882	19.6	5,268	21.7

<世帯構成>

	世帯数			
	2012	%	2007	%
計	15,534	100.0	15,296	100.0
単身世帯	7,867	50.6	8,101	53.0
男性のみ	3,632	23.4	3,745	24.5
女性のみ	4,235	27.3	4,356	28.5
家族以外の他世帯	1,371	8.8	1,043	6.8
家族世帯	6,296	40.5	6,152	40.2
子ども無カップル	2,850	18.3	2,741	17.9
子ども有カップル	2,311	14.9	2,246	14.7
片親	1,135	7.3	1,165	7.6

<婚姻状況>

独身	既婚	死別	離婚
63.0%	25.5%	4.4%	7.1%

<15~64歳の活動種別の人口>

	2012	2007

¹²⁷ 教授、研究者など。

¹²⁸ 原語では Professions intermédiaires。ルロワ教授によれば、小中学校教諭なども含むと考えられるとのことである。

計	21,682	20,981
現役世代%	76.2	73.4
有職者	65.7	64.1
失業者	10.6	9.2
非現役	23.8	26.6
児童、生徒、研修生、無給	16.2	17.6
退職者および定年前退職者	2.8	3.4
その他の非現役	4.9	5.6

<2012年における、15歳以上の非就学人口の最高ディプロム（免状）>

	計	男	女
15歳以上の非就学人口	19,519	9,600	9,920
各種ディプロム%			
ディプロムなし	9.0	9.1	8.9
初等教育証書	3.9	2.6	5.1
前期中等教育修了証書、コレージュ証書	3.3	3.4	3.3
職業適性証書、職業教育修了証	8.5	10.0	7.1
バカロレア、職業証書	15.2	15.1	15.3
短期高等教育修了証書	18.0	16.1	19.8
長期高等教育修了証書	42.1	43.7	40.6

<移民割合>¹²⁹

	~15歳	15~24歳	25~54歳	55歳~	計
移民	2.9%	6.0%	11.9%	15.6%	10.1%

2区

<基本情報>

<http://www.insee.fr/fr/themes/comparateur.asp?codgeo=COM-69382&codgeo=COM-69123> (2016/01/01 閲覧)

人口	2区	リヨン
人口 (2012年)	30,958	496,343

¹²⁹ http://www.insee.fr/fr/themes/tableau_local.asp?ref_id=IMG1A&millesime=2012&niveau=1&typgeo=COM&codgeo=69381 (2016/01/01 閲覧)をもとに筆者が作成。

人口密度（2012年）人/km ²	9,078.6	10,368.6
面積,km ²	3.4	47.9
人口変動率（2006年から2012年の年間平均）%	+0.7	+1.0
うち自然増（同上）%	+0.6	+0.8
うち社会増（同上）%	+0.1	+0.1
世帯数（2012年）	16,425	250,328

住宅	2区	リヨン
住宅数総計（2012年）	18,528	283,456
主たる住居の割合（2012年）%	88.7	88.3
副次的住居（臨時の住居も含む）の割合（2012年）%	3.1	2.8
空き家の割合（2012年）%	8.3	8.9
持ち家率（2012年）%	25.0	33.6

所得	2区	リヨン
課税世帯数（2012年）	13,087	221,187
全世帯に占める課税世帯の割合（2012年）%	73.4	69.6
消費単位による家庭の税務に関わる諸収入の中央値（2012年）	24,819.8	21,659.6
貧困率（2012年）%	10.6	14.0

雇用・失業	2区	リヨン
職場での雇用総数（給与所得者と非給与所得者）%	31,545	305,665
うち給与所得者	87.7	89.3
職場での雇用総数変動 %	+0.8	+1.3
15歳から64歳までの就業比率（2012年）%	68.9	73.0
15歳から64歳までの失業率（2012年）%	13.2	13.2

施設	2区	リヨン
2012年12月31日時点での営業施設数	8 673	68 600
農業（以下%）	0,1	0,1
工業	2,9	3,5

建造物	3,3	5,2
商業、交通、諸サービス	82,3	77,1
うち商業と自動車修理	19,0	13,8
行政、教育、健康、社会事業	11,4	14,1
従業員 1～9 名の施設割合	30,9	23,9
従業員 10 名以上の施設割合	6,8	5,9

以下は http://www.insee.fr/fr/themes/dossier_complet.asp?codgeo=COM-69382 (2016/01/01 閲覧)より

<年齢層別の人口>

	2012	%	2007	%
計	30,958	100.0	29,875	100.0
0～14 歳	4,192	13.5	3,938	13.2
15～29 歳	10,439	33.7	10,031	33.6
30～44 歳	5,989	19.3	5,809	19.4
45～59 歳	4,572	14.8	4,698	15.7
60～74 歳	3,516	11.4	3,102	10.4
75 歳～	2,250	7.3	2,298	7.7

<職業別社会階層ごとの 15 歳以上人口>

	2012	%	2007	%
計	26,782	100.0	25,918	100.0
自営農業者	12	0.0	21	0.1
職人、商人、企業主	986	3.7	985	3.8
管理職および高度知的職業	5,202	19.4	4,757	18.4
中間管理職	4,241	15.8	3,913	15.1
サラリーマン	3,773	14.1	3,348	12.9
工員	1,383	5.2	1,249	4.8
退職者	4,408	16.5	4,337	16.7
職業活動のない他の個人	6,777	25.3	7,308	28.2

<世帯構成>

	世帯数			
	2012	%	2007	%
計	16,425	100.0	15,382	100.0
単身世帯	8,485	51.7	7,977	51.9
男性のみ	3,492	21.3	3,160	20.5
女性のみ	4,994	30.4	4,817	31.3
家族以外の他世帯	1,429	8.7	1,247	8.1
家族世帯	6,511	39.6	6,158	40.0
子ども無カップル	3,087	18.8	2,908	18.9
子ども有カップル	2,433	14.8	2,416	15.7
片親	990	6.0	834	5.4

<婚姻状況>

独身	既婚	死別	離婚
56.6	31.0	5.3	7.1

<15~64歳の活動種別の人口>

	2012	2007
計	22,404	21,789
現役世代	68.9	65.0
有職者	59.8	58.4
失業者	9.1	6.6
非現役	31.1	35.0
児童、生徒、研修生、無給	22.0	22.1
退職者および定年前退職者	3.1	3.6
その他の非現役	6.0	9.3

<2012年における、15歳以上の非就学人口の最高ディプロム（免状）>

	計	男	女
15歳以上の非就学人口	19,848	9,340	10,508
各種ディプロム%			

ディプロムなし	11.3	10.1	12.4
初等教育証書	4.5	3.4	5.5
前期中等教育修了証書、コレッジ証書	4.6	4.2	4.9
職業適性証書、職業教育修了証	9.8	11.2	8.5
バカロレア、職業証書	15.7	16.2	15.2
短期高等教育修了証書	15.8	13.2	18.1
長期高等教育修了証書	38.3	41.8	35.3

<移民割合>¹³⁰

	~15歳	15~24歳	25~54歳	55歳~	計
移民	3.4%	6.7%	12.9%	10.6%	9.5%

3区

<基本情報>

<http://www.insee.fr/fr/themes/comparateur.asp?codgeo=COM-69383&codgeo=COM-69123> (2016/01/01 閲覧)

人口	3区	リヨン
人口 (2012年)	98,135	496,343
人口密度 (2012年) 人/km ²	15,454.3	10,368.6
面積.km ²	6.4	47.9
人口変動率 (2006年から2012年の年間平均) %	+1.6	+1.0
うち自然増 (同上) %	+1.1	+0.8
うち社会増 (同上) %	+0.5	+0.1
世帯数 (2012年)	49,994	250,328

住宅	3区	リヨン
住宅数総計 (2012年)	57,752	283,456
主たる住居の割合 (2012年) %	86.6	88.3
副次的住居 (臨時の住居も含む) の割合 (2012年) %	3.6	2.8
空き家の割合 (2012年) %	9.8	8.9

¹³⁰ http://www.insee.fr/fr/themes/tableau_local.asp?ref_id=IMG1A&millesime=2012&niveau=1&typege=COM&codgeo=69382 (2016/01/01 閲覧)をもとに筆者が作成

持ち家率 (2012 年) %	34.3	33.6
-----------------	------	------

所得	3 区	リヨン
課税世帯数 (2012 年)	44,653	221,187
全世帯に占める課税世帯の割合 (2012 年) %	72.5	69.6
消費単位による家庭の税務に関わる諸収入の中央値 (2012 年)	22,871.0	21,659.6
貧困率 (2012 年) %	12.7	14.0

雇用-失業	3 区	リヨン
職場での雇用総数 (給与所得者と非給与所得者) %	78,329	305,665
うち給与所得者	91.7	89.3
職場での雇用総数変動 %	+1.3	+1.3
15 歳から 64 歳までの就業比率 (2012 年) %	74.7	73.0
15 歳から 64 歳までの失業率 (2012 年) %	12.2	13.2

施設	3 区	リヨン
2012 年 12 月 31 日時点での営業施設数	14,098	68,600
農業 (以下%)	0.1	0.1
工業	3.0	3.5
建造物	5.5	5.2
商業、交通、諸サービス	77.6	77.1
うち商業と自動車修理	12.9	13.8
行政、教育、健康、社会事業	13.8	14.1
従業員 1~9 名の施設割合	22.6	23.9
従業員 10 名以上の施設割合	7.3	5.9

以下は http://www.insee.fr/fr/themes/dossier_complet.asp?codgeo=COM-69383 (2016/01/01 閲覧)より

<年齢層別の人口>

	2012	%	2007	%
計	98,135	100.0	90,490	100.0

0~14 歳	15,047	15.3	13,476	14.9
15~29 歳	29,868	30.4	27,336	30.2
30~44 歳	22,416	22.8	20,404	22.5
45~59 歳	14,658	14.9	13,956	15.4
60~74 歳	9,913	10.1	8,674	9.6
75 歳~	6,233	6.4	6,645	7.3

<職業別社会階層ごとの 15 歳以上人口>

	2012	%	2007	%
計	83,080	100.0	77,015	100.0
自営農業者	31	0.0	19	0.0
職人、商人、企業主	1,955	2.4	1,794	2.3
管理職および高度知的職業	17,865	21.5	14,138	18.4
中間管理職	15,443	18.6	14,714	19.1
サラリーマン	12,671	15.3	12,208	15.9
工員	5,164	6.2	5,089	6.6
退職者	13,586	16.4	13,675	17.8
職業活動のない他の個人	16,365	19.7	15,378	20.0

<世帯構成>

	世帯数			
	2012	%	2007	%
計	49,992	100.0	46 820	100.0
単身世帯	23,762	47.5	22,535	48.1
男性のみ	10,127	20.3	9,146	19.5
女性のみ	13,635	27.3	13,388	28.6
家族以外の他世帯	3,285	6.6	2,684	5.7
家族世帯	22,945	45.9	21,602	46.1
子ども無カップル	10,236	20.5	10,177	21.7
子ども有カップル	9,286	18.6	8,349	17.8
片親	3,423	6.8	3,076	6.6

<婚姻状況>

独身	既婚	死別	離婚
54.7	33.7	4.6	7.1

<15~64歳の活動種別の人口>

	2012	2007
計	71,284	65,260
現役世代	74.7	73.8
有職者	65.6	66.3
失業者	9.1	7.5
非現役	25.3	26.2
児童、生徒、研修生、無給	16.3	16.2
退職者および定年前退職者	3.9	4.3
その他の非現役	5.0	5.7

<2012年における、15歳以上の非就学人口の最高ディプロム（免状）>

	計	男	女
15歳以上の非就学人口	65,365	31,312	34,052
各種ディプロム%			
ディプロムなし	10.5	10.8	10.2
初等教育証書	4.7	3.3	6.0
前期中等教育修了証書、コレッジ証書	4.6	3.7	5.4
職業適性証書、職業教育修了証	12.4	13.4	11.5
バカロレア、職業証書	15.9	15.9	15.9
短期高等教育修了証書	17.3	15.3	19.1
長期高等教育修了証書	34.7	37.6	32.0

<移民割合>¹³¹

	~15歳	15~24歳	25~54歳	55歳~	計
--	------	--------	--------	------	---

¹³¹ http://www.insee.fr/fr/themes/tableau_local.asp?ref_id=IMG1A&millesime=2011&ni veau=1&typege=COM&codgeo=69382 (2016/01/01 閲覧)をもとに筆者が作成

移民	2.8%	6.0%	12.3%	9.6%	8.9%
----	------	------	-------	------	------

4 区

< 基本情報 >

<http://www.insee.fr/fr/themes/comparateur.asp?codgeo=COM-69384&codgeo=COM-691>

23 (2016/01/01 閲覧)

人口	4 区	リヨン
人口 (2012 年)	36,240	496,343
人口密度 (2012 年) 人/km ²	12,368.6	10,368.6
面積.km ²	2.9	47.9
人口変動率 (2006 年から 2012 年の年間平均) %	+1.0	+1.0
うち自然増 (同上) %	+0.5	+0.8
うち社会増 (同上) %	+0.5	+0.1
世帯数 (2012 年)	18,306	250,32

住宅	4 区	リヨン
住宅数総計 (2012 年)	20,203	283,456
主たる住居の割合 (2012 年) %	90.6	88.3
副次的住居 (臨時の住居も含む) の割合 (2012 年) %	2.1	2.8
空き家の割合 (2012 年) %	7.3	8.9
持ち家率 (2012 年) %	43.8	33.6

所得	4 区	リヨン
課税世帯数 (2012 年)	17,000	221,187
全世帯に占める課税世帯の割合 (2012 年) %	73.7	69.6
消費単位による家庭の税務に関わる諸収入の中央値(2012 年)	23,854.0	21,659.6
貧困率 (2012 年) %	9.2	14.0

雇用-失業	4 区	リヨン
職場での雇用総数 (給与所得者と非給与所得者) %	15,672	305,665
うち給与所得者	84.5	89.3

職場での雇用総数変動.%	+1.0	+1.3
15歳から64歳までの就業比率(2012年)%	78.4	73.0
15歳から64歳までの失業率(2012年)%	11.1	13.2

施設	4区	リヨン
2012年12月31日時点での営業施設数	4,366	68,600
農業(以下%)	0.3	0.1
工業	5.2	3.5
建造物	4.1	5.2
商業、交通、諸サービス	74.2	77.1
うち商業と自動車修理	13.4	13.8
行政、教育、健康、社会事業	16.2	14.1
従業員1~9名の施設割合	20.3	23.9
従業員10名以上の施設割合	2.8	5.9

以下は http://www.insee.fr/fr/themes/dossier_complet.asp?codgeo=COM-69384 (2016/01/01 閲覧)より

<年齢層別の人口>

	2012	%	2007	%
計	36,240	100.0	34,496	100.0
0~14歳	6,035	16.7	5,685	16.5
15~29歳	7,341	20.3	7,400	21.5
30~44歳	8,634	23.8	8,236	23.9
45~59歳	6,329	17.5	6,026	17.5
60~74歳	4,504	12.4	3,665	10.6
75歳~	3,397	9.4	3,484	10.1

<職業別社会階層ごとの15歳以上人口>

	2012	%	2007	%
計	30,198	100.0	28,809	100.0
自営農業者	10	0.0	7	0.0
職人、商人、企業主	933	3.1	799	2.8

管理職および高度知的職業	6,316	20.9	5,726	19.9
中間管理職	5,961	19.7	5,699	19.8
サラリーマン	4,128	13.7	3,964	13.8
工員	1,751	5.8	1,612	5.6
退職者	6,801	22.5	6,334	22.0
職業活動のない他の個人	4,299	14.2	4,669	16.2

<世帯構成>

	世帯数			
	2012	%	2007	%
計	18,305	100.0	17,124	100.0
単身世帯	8,572	46.8	7,830	45.7
男性のみ	3,326	18.2	3,129	18.3
女性のみ	5,245	28.7	4,701	27.5
家族以外の他世帯	801	4.4	608	3.6
家族世帯	8,933	48.8	8,686	50.7
子ども無カップル	3,741	20.4	3,792	22.1
子ども有カップル	3,624	19.8	3,479	20.3
片親	1,569	8.6	1,415	8.3

<婚姻状況>

独身	既婚	死別	離婚
49.4	34.6	7.1	8.9

<15~64歳の活動種別の人口>

	2012	2007
計	24,192	23,090
現役世代	78.4	76.7
有職者	69.7	69.4
失業者	8.7	7.3

非現役	21.6	23.3
児童、生徒、研修生、無給	12.0	12.3
退職者および定年前退職者	5.2	5.3
その他の非現役	4.4	5.7

<2012年における、15歳以上の非就学人口の最高ディプロム（免状）>

	計	男	女
15歳以上の非就学人口	26,044	11,785	14,259
各種ディプロム%			
ディプロムなし	10.2	10.1	10.2
初等教育証書	5.5	3.6	7.0
前期中等教育修了証書、コレージュ証書	5.4	4.3	6.2
職業適性証書、職業教育修了証	11.7	13.5	10.1
バカロレア、職業証書	15.4	16.0	14.9
短期高等教育修了証書	17.9	16.5	19.1
長期高等教育修了証書	34.1	36.1	32.4

<移民割合>¹³²

	~15歳	15~24歳	25~54歳	55歳~	計
移民	1.7%	6.1%	8.8%	8.1%	7.1%

5区

<基本情報>

<http://www.insee.fr/fr/themes/comparateur.asp?codgeo=COM-69385&codgeo=COM-69123> (2016/01/01 閲覧)

人口	5区	リヨン
人口 (2012年)	46,693	496,343
人口密度 (2012年) 人/km ²	7,494.9	10,368.6
面積.km ²	6.2	47.9
人口変動率 (2006年から2012年の年間平均) %	-0.1	+1.0
うち自然増 (同上) %	+0.4	+0.8

¹³² http://www.insee.fr/fr/themes/tableau_local.asp?ref_id=IMG1A&millesime=2012&niveau=1&typege=COM&codgeo=69384 (2016/01/01 閲覧)をもとに筆者が作成

うち社会増 (同上) %	-0.5	+0.1
世帯数 (2012 年)	22,123	250,328

住宅	5 区	リヨン
住宅数総計 (2012 年)	24,185	283,456
主たる住居の割合 (2012 年) %	91.5	88.3
副次的住居 (臨時の住居も含む) の割合 (2012 年) %	2.1	2.8
空き家の割合 (2012 年) %	6.4	8.9
持ち家率 (2012 年) %	45.8	33.6

所得	5 区	リヨン
課税世帯数 (2012 年)	19,955	221,187
全世帯に占める課税世帯の割合 (2012 年) %	71.2	69.6
消費単位による家庭の税務に関わる諸収入の中央値 (2012 年)	22,494.0	21,659.6
貧困率 (2012 年) %	11.0	14.0

雇用-失業	5 区	リヨン
職場での雇用総数 (給与所得者と非給与所得者) %	16,083	305,665
うち給与所得者	86.1	89.3
職場での雇用総数変動.%	-0.7	+1.3
15 歳から 64 歳までの就業比率 (2012 年) %	69.1	73.0
15 歳から 64 歳までの失業率 (2012 年) %	12.6	13.2
施設	5 区	リヨン
2012 年 12 月 31 日時点での営業施設数	4,306	68,600
農業 (以下%)	0.1	0.1
工業	3.8	3.5
建造物	5.5	5.2
商業、交通、諸サービス	73.6	77.1
うち商業と自動車修理	11.4	13.8
行政、教育、健康、社会事業	17.0	14.1
従業員 1~9 名の施設割合	20.6	23.9
従業員 10 名以上の施設割合	4.1	5.9

以下は http://www.insee.fr/fr/themes/dossier_complet.asp?codgeo=COM-69385 (2016/01/01 閲覧)より

<年齢層別の人口>

	2012	%	2007	%
計	46,693	100.0	47,012	100.0
0~14 歳	6,714	14.4	6,863	14.6
15~29 歳	12,032	25.8	11,941	25.4
30~44 歳	8,581	18.4	9,103	19.4
45~59 歳	8,129	17.4	8,436	17.9
60~74 歳	6,334	13.6	5,824	12.4
75 歳~	4,904	10.5	4,846	10.3

<職業別社会階層ごとの 15 歳以上人口>

	2012	%	2007	%
計	39,974	100.0	40,134	100.0
自営農業者	12	0.0	10	0.0
職人、商人、企業主	1,025	2.6	1,086	2.7
管理職および高度知的職業	6,263	15.7	5,989	14.9
中間管理職	6,334	15.8	6,393	15.9
サラリーマン	5,544	13.9	5,802	14.5
工員	2,571	6.4	2,706	6.7
退職者	9,647	24.1	9,415	23.5
職業活動のない他の個人	8,577	21.5	8,732	21.8

<世帯構成>

	世帯数			
	2012	%	2007	%
計	22,125	100.0	21,945	100.0
単身世帯	10,110	45.7	9,764	44.5
男性のみ	3,915	17.7	3,527	16.1
女性のみ	6,195	28.0	6,237	28.4

家族以外の他世帯	972	4.4	834	3.8
家族世帯	11,043	49.9	11,347	51.7
子ども無カップル	4,830	21.8	5,147	23.5
子ども有カップル	4,141	18.7	4,341	19.8
片親	2,073	9.4	1,859	8.5

<婚姻状況>

独身	既婚	死別	離婚
47.9	35.9	7.2	9.0

<15~64歳の活動種別の人口>

	2012	2007
計	31,487	31,733
現役世代	69.1	68.7
有職者	60.4	62.1
失業者	8.7	6.6
非現役	30.9	31.3
児童、生徒、研修生、無給	19.6	19.1
退職者および定年前退職者	6.1	5.8
その他の非現役	5.3	6.4

<2012年における、15歳以上の非就学人口の最高ディプロム（免状）>

	計	男	女
15歳以上の非就学人口	31,890	14,111	17,779
各種ディプロム%			
ディプロムなし	12.4	11.2	13.4
初等教育証書	6.2	4.6	7.5
前期中等教育修了証書、コレージュ証書	5.7	4.8	6.4
職業適性証書、職業教育修了証	14.5	16.6	12.9
バカロレア、職業証書	16.0	15.7	16.3
短期高等教育修了証書	17.5	15.0	19.5
長期高等教育修了証書	27.6	32.1	24.1

< 移民割合 >¹³³

	~15 歳	15~24 歳	25~54 歳	55 歳~	計
移民	3.0%	8.7%	13.9%	9.2%	10.0%

6 区

< 基本情報 >

[http://www.insee.fr/fr/themes/comparateur.asp?codgeo=COM-69386&codgeo=COM-691](http://www.insee.fr/fr/themes/comparateur.asp?codgeo=COM-69386&codgeo=COM-69123)

23 (2016/01/01 閲覧)

人口	6 区	リヨン
人口 (2012 年)	49,479	496,343
人口密度 (2012 年) 人/km ²	13,124.4	10,368.6
面積.km ²	3.8	47.9
人口変動率 (2006 年から 2012 年の年間平均) %	-0.1	+1.0
うち自然増 (同上) %	+0.5	+0.8
うち社会増 (同上) %	-0.6	+0.1
世帯数 (2012 年)	25,811	250,328

住宅	6 区	リヨン
住宅数総計 (2012 年)	30,036	283,456
主たる住居の割合 (2012 年) %	85.9	88.3
副次的住居 (臨時の住居も含む) の割合 (2012 年) %	4.4	2.8
空き家の割合 (2012 年) %	9.6	8.9
持ち家率 (2012 年) %	39.7	33.6

所得	6 区	リヨン
課税世帯数 (2012 年)	23,850	221,187
全世帯に占める課税世帯の割合 (2012 年) %	76.6	69.6
消費単位による家庭の税務に関わる諸収入の中央値 (2012 年)	28,305.8	21,659.6
貧困率 (2012 年) %	8.6	14.0

¹³³ http://www.insee.fr/fr/themes/tableau_local.asp?ref_id=IMG1A&millesime=2012&ni veau=1&typege=COM&codgeo=69385 (2016/01/01 閲覧)をもとに筆者が作成

雇用-失業	6区	リヨン
職場での雇用総数（給与所得者と非給与所得者）%	34,486	305,665
うち給与所得者	85.5	89.3
職場での雇用総数変動.%	+1.5	+1.3
15歳から64歳までの就業比率（2012年）%	73.4	73.0
15歳から64歳までの失業率（2012年）%	11.5	13.2

施設	6区	リヨン
2012年12月31日時点での営業施設数	10,745	68,600
農業（以下%）	0.2	0.1
工業	2.6	3.5
建造物	4.6	5.2
商業、交通、諸サービス	79.5	77.1
うち商業と自動車修理	12.1	13.8
行政、教育、健康、社会事業	13.1	14.1
従業員1～9名の施設割合	25.8	23.9
従業員10名以上の施設割合	4.8	5.9

以下は http://www.insee.fr/fr/themes/dossier_complet.asp?codgeo=COM-69386 (2016/01/01 閲覧)より

<年齢層別の人口>

	2012	%	2007	%
計	49,479	100.0	49,683	100.0
0～14歳	7,245	14.6	7,438	15.0
15～29歳	13,105	26.5	12,577	25.3
30～44歳	10,039	20.3	10,217	20.6
45～59歳	7,932	16.0	8,383	16.9
60～74歳	6,081	12.3	5,932	11.9
75歳～	5,077	10.3	5,136	10.3

<職業別社会階層ごとの15歳以上人口>

	2012	%	2007	%
計	42,224	100.0	42,241	100.0
自営農業者	28	0.1	11	0.0
職人、商人、企業主	1,385	3.3	1,368	3.2
管理職および高度知的職業	10,801	25.6	9,284	22.0
中間管理職	6,356	15.1	6,498	15.4
サラリーマン	4,714	11.2	4,881	11.6
工員	1,355	3.2	1,590	3.8
退職者	9,121	21.6	9,267	21.9
職業活動のない他の個人	8,466	20.1	9,341	22.1

<世帯構成>

	世帯数			
	2012	%	2007	%
計	25,809	100.0	25,778	100.0
単身世帯	12,738	49.4	12,800	49.7
男性のみ	4,773	18.5	4,509	17.5
女性のみ	7,965	30.9	8,292	32.2
家族以外の他世帯	1,318	5.1	943	3.7
家族世帯	11,752	45.5	12,034	46.7
子ども無カップル	5,673	22.0	5,757	22.3
子ども有カップル	4,393	17.0	4,598	17.8
片親	1,686	6.5	1,680	6.5

<婚姻状況>

独身	既婚	死別	離婚
48.2	38.1	6.4	7.3

<15~64歳の活動種別の人口>

	2012	2007
計	33,355	33,586
現役世代	73.4	70.2

有職者	64.9	63.4
失業者	8.5	6.7
非現役	26.6	29.8
児童、生徒、研修生、無給	17.8	17.8
退職者および定年前退職者	3.6	5.0
その他の非現役	5.2	7.1

<2012年における、15歳以上の非就学人口の最高ディプロム（免状）>

	計	男	女
15歳以上の非就学人口	33,786	15,081	18,705
各種ディプロム%			
ディプロムなし	8.4	7.5	9.2
初等教育証書	4.2	2.6	5.5
前期中等教育修了証書、コレージュ証書	4.2	3.0	5.1
職業適性証書、職業教育修了証	8.2	9.0	7.5
バカロレア、職業証書	14.2	12.7	15.4
短期高等教育修了証書	15.7	13.3	17.5
長期高等教育修了証書	45.2	52.0	39.6

<移民割合>¹³⁴

	~15歳	15~24歳	25~54歳	55歳~	計
移民	3.0%	7.8%	13.6%	9.1%	9.8%

7区

<基本情報>

<http://www.insee.fr/fr/themes/comparateur.asp?codgeo=COM-69387&codgeo=COM-69123> (2016/01/01 閲覧)

人口	7区	リヨン
人口 (2012年)	75,746	496,343
人口密度 (2012年) 人/km ²	7,768.8	10,368.6
面積.km ²	9.8	47.9

¹³⁴ http://www.insee.fr/fr/themes/tableau_local.asp?ref_id=IMG1A&millesime=2012&niveau=1&typegeo=COM&codgeo=69386 (2016/01/01 閲覧)をもとに筆者が作成

人口変動率（2006年から2012年の年間平均）%	+1.8	+1.0
うち自然増（同上）%	+1.0	+0.8
うち社会増（同上）%	+0.8	+0.1
世帯数（2012年）	39,678	250,328

住宅	7区	リヨン
住宅数総計（2012年）	44,922	283,456
主たる住居の割合（2012年）%	88.3	88.3
副次的住居（臨時の住居も含む）の割合（2012年）%	3.0	2.8
空き家の割合（2012年）%	8.6	8.9
持ち家率（2012年）%	26.0	33.6

所得	7区	リヨン
課税世帯数（2012年）	32,784	221,187
全世帯に占める課税世帯の割合（2012年）%	69.0	69.6
消費単位による家庭の税務に関わる諸収入の中央値（2012年）	20,664.0	21,659.6
貧困率（2012年）%	15.0	14.0

雇用-失業	7区	リヨン
職場での雇用総数（給与所得者と非給与所得者）%	50,900	305,665
うち給与所得者	90.9	89.3
職場での雇用総数変動.%	+1.3	+1.3
15歳から64歳までの就業比率（2012年）%	72.6	73.0
15歳から64歳までの失業率（2012年）%	13.3	13.2

施設	7区	リヨン
2012年12月31日時点での営業施設数	9,296	68,600
農業（以下%）	0.1	0.1
工業	3.8	3.5
建造物	6.1	5.2
商業、交通、諸サービス	76.6	77.1
うち商業と自動車修理	13.2	13.8

行政、教育、健康、社会事業	13.4	14.1
従業員 1～9 名の施設割合	22.9	23.9
従業員 10 名以上の施設割合	6.7	5.9

以下は http://www.insee.fr/fr/themes/dossier_complet.asp?codgeo=COM-69387 (2016/01/01 閲覧)より

<年齢層別の人口>

	2012	%	2007	%
計	75,746	100.0	69,232	100.0
0～14 歳	10,438	13.8	9,257	13.4
15～29 歳	27,711	36.6	24,408	35.3
30～44 歳	16,680	22.0	14,760	21.3
45～59 歳	9,957	13.1	10,147	14.7
60～74 歳	6,555	8.7	6,135	8.9
75 歳～	4,405	5.8	4,525	6.5

<職業別社会階層ごとの 15 歳以上人口>

	2012	%	2007	%
計	75,746	100.0	69,232	100.0
自営農業者	10,438	13.8	9,257	13.4
職人、商人、企業主	27,711	36.6	24,408	35.3
管理職および高度知的職業	16,680	22.0	14,760	21.3
中間管理職	9,957	13.1	10,147	14.7
サラリーマン	6,555	8.7	6,135	8.9
工員	4,405	5.8	4,525	6.5
退職者	9,121	21.6	9,267	21.9
職業活動のない他の個人	8,466	20.1	9,341	22.1

<世帯構成>

	世帯数			
	2012	%	2007	%
計	39,674	100.0	35,847	100.0

単身世帯	20,499	51.7	18,376	51.3
男性のみ	8,885	22.4	8,075	22.5
女性のみ	11,614	29.3	10,300	28.7
家族以外の他世帯	3,267	8.2	2,178	6.1
家族世帯	15,908	40.1	15,293	42.7
子ども無カップル	7,416	18.7	7,185	20.0
子ども有カップル	6,055	15.3	5,715	15.9
片親	2,437	6.1	2,393	6.7

<婚姻状況>

独身	既婚	死別	離婚
60.8	28.2	4.3	6.7

<15~64歳の活動種別の人口>

	2012	2007
計	57,061	51,776
現役世代	72.6	70.4
有職者	62.9	62.8
失業者	9.6	7.6
非現役	27.4	29.6
児童、生徒、研修生、無給	19.5	19.9
退職者および定年前退職者	3.3	4.1
その他の非現役	4.6	5.6

<2012年における、15歳以上の非就学人口の最高ディプロム（免状）>

	計	男	女
15歳以上の非就学人口	48,195	23,335	24,860
各種ディプロム%			
ディプロムなし	12.7	12.8	12.6
初等教育証書	5.0	3.8	6.0
前期中等教育修了証書、コレージュ証書	5.1	4.4	5.7

職業適性証書、職業教育修了証	13.4	14.6	12.2
バカロレア、職業証書	16.4	16.6	16.3
短期高等教育修了証書	16.8	15.7	17.9
長期高等教育修了証書	30.6	32.1	29.2

<移民割合>¹³⁵

	~15 歳	15~24 歳	25~54 歳	55 歳~	計
移民	4.6%	11.0%	17.0%	16.6%	13.8%

8 区

<基本情報>

<http://www.insee.fr/fr/themes/comparateur.asp?codgeo=COM-69388&codgeo=COM-691>

[23](#) (2016/01/01 閲覧)

人口	8 区	リヨン
人口 (2012 年)	81,454	496,343
人口密度 (2012 年) 人/km ²	12,212.0	10,368.6
面積.km ²	6.7	47.9
人口変動率 (2006 年から 2012 年の年間平均) %	+1.3	+1.0
うち自然増 (同上) %	+0.9	+0.8
うち社会増 (同上) %	+0.4	+0.1
世帯数 (2012 年)	39,671	250,328

住宅	8 区	リヨン
住宅数総計 (2012 年)	43,568	283,456
主たる住居の割合 (2012 年) %	91.1	88.3
副次的住居 (臨時の住居も含む) の割合 (2012 年) %	1.0	2.8
空き家の割合 (2012 年) %	7.9	8.9
持ち家率 (2012 年) %	29.5	33.6

¹³⁵ http://www.insee.fr/fr/themes/tableau_local.asp?ref_id=IMG1A&millesime=2012&ni
[veau=1&typege=COM&codgeo=69387](#) (2016/01/01 閲覧)をもとに筆者が作成

所得	8区	リヨン
課税世帯数（2012年）	34,691	221,187
全世帯に占める課税世帯の割合（2012年）%	62.5	69.6
消費単位による家庭の税務に関わる諸収入の中央値（2012年）	18,518.0	21,659.6
貧困率（2012年）%	19.0	14.0

雇用-失業	8区	リヨン
職場での雇用総数（給与所得者と非給与所得者）%	33.02	30.56
	7	5
うち給与所得者	91.4	89.3
職場での雇用総数変動.%	+1.7	+1.3
15歳から64歳までの就業比率（2012年）%	70.6	73.0
15歳から64歳までの失業率（2012年）%	15.6	13.2

施設	8区	リヨン
2012年12月31日時点での営業施設数	5,542	68,600
農業（以下%）	0.0	0.1
工業	3.1	3.5
建造物	8.4	5.2
商業、交通、諸サービス	69.0	77.1
うち商業と自動車修理	16.3	13.8
行政、教育、健康、社会事業	19.6	14.1
従業員1～9名の施設割合	22.2	23.9
従業員10名以上の施設割合	5.9	5.9

以下は http://www.insee.fr/fr/themes/dossier_complet.asp?codgeo=COM-69388 (2016/01/01 閲覧)より

<年齢層別の人口>

	2012	%	2007	%
計	81,454	100.0	76,303	100.0
0～14歳	14,166	17.4	12,219	16.0

15~29 歳	22,608	27.8	21,536	28.2
30~44 歳	16,736	20.5	15,418	20.2
45~59 歳	12,596	15.5	12,290	16.1
60~74 歳	8,858	10.9	8,430	11.0
75 歳~	6,490	8.0	6,410	8.4

<職業別社会階層ごとの15歳以上人口>

	2012	%	2007	%
計	67,296	100.0	64,080	100.0
自営農業者	30	0.0	7	0.0
職人、商人、企業主	1,202	1.8	1,077	1.7
管理職および高度知的職業	7,604	11.3	5,885	9.2
中間管理職	10,773	16.0	10,226	16.0
サラリーマン	11,974	17.8	11,130	17.4
工員	7,167	10.7	7,460	11.6
退職者	13,565	20.2	13,712	21.4
職業活動のない他の個人	14,981	22.3	14,584	22.8

<世帯構成>

	世帯数			
	2012	%	2007	%
計	39,668	100.0	37,178	100.0
単身世帯	19,313	48.7	17,992	48.4
男性のみ	7,890	19.9	7,247	19.5
女性のみ	11,423	28.8	10,746	28.9
家族以外の他世帯	1,872	4.7	1,654	4.4
家族世帯	18,484	46.6	17,532	47.2
子ども無カップル	7,223	18.2	7,197	19.4
子ども有カップル	7,756	19.6	7,259	19.5
片親	3,505	8.8	3,076	8.3

<婚姻状況>

独身	既婚	死別	離婚
50.2	34.6	6.6	8.6

<15~64歳の活動種別の人口>

	2012	2007
計	55,597	52,413
現役世代	70.6	68.8
有職者	59.6	59.9
失業者	11.0	8.9
非現役	29.4	31.2
児童、生徒、研修生、無給	16.5	17.4
退職者および定年前退職者	4.9	5.4
その他の非現役	8.0	8.4

<2012年における、15歳以上の非就学人口の最高ディプロム（免状）>

	計	男	女
15歳以上の非就学人口	53,960	24,882	29,078
各種ディプロム%			
ディプロムなし	18.4	18.5	18.3
初等教育証書	8.1	5.9	10.0
前期中等教育修了証書、コレージュ証書	5.4	4.5	6.2
職業適性証書、職業教育修了証	17.4	20.2	14.9
バカロレア、職業証書	15.9	16.5	15.4
短期高等教育修了証書	15.3	13.8	16.6
長期高等教育修了証書	19.5	20.5	18.6

<移民割合>¹³⁶

	~15歳	15~24歳	25~54歳	55歳~	計
移民	4.5%	10.6%	22.8%	18.9%	16.4%

¹³⁶ http://www.insee.fr/fr/themes/tableau_local.asp?ref_id=IMG1A&millesime=2012&niveau=1&typegeo=COM&codegeo=69388 をもとに筆者が作成

9 区

< 基本情報 >

<http://www.insee.fr/fr/themes/comparateur.asp?codgeo=COM-69389&codgeo=COM-691>

23 (2016/01/01 閲覧)

人口	9 区	リヨン
人口 (2012 年)	48,429	496,343
人口密度 (2012 年) 人/km ²	6,679.9	10,368.6
面積.km ²	7.3	47.9
人口変動率 (2006 年から 2012 年の年間平均) %	+0.6	+1.0
うち自然増 (同上) %	+1.1	+0.8
うち社会増 (同上) %	-0.5	+0.1
世帯数 (2012 年)	22,784	250,328

住宅	9 区	リヨン
住宅数総計 (2012 年)	26,328	283,456
主たる住居の割合 (2012 年) %	86.5	88.3
副次的住居 (臨時の住居も含む) の割合 (2012 年) %	2.2	2.8
空き家の割合 (2012 年) %	11.3	8.9
持ち家率 (2012 年) %	33.1	33.6

所得	9 区	リヨン
課税世帯数 (2012 年)	21,205	221,187
全世帯に占める課税世帯の割合 (2012 年) %	62.8	69.6
消費単位による家庭の税務に関わる諸収入の中央値 (2012 年)	18,576.0	21,659.6
貧困率 (2012 年) %	19.7	14.0

雇用-失業	9 区	リヨン
職場での雇用総数 (給与所得者と非給与所得者) %	29 495	305 66 5
うち給与所得者	90.5	89.3
職場での雇用総数変動.%	+2.0	+1.3

15歳から64歳までの就業比率（2012年）%	73.8	73.0
15歳から64歳までの失業率（2012年）%	15.2	13.2

施設	9区	リヨン
2012年12月31日時点での営業施設数	5,875	68,600
農業（以下%）	0.1	0.1
工業	3.6	3.5
建造物	7.7	5.2
商業、交通、諸サービス	73.9	77.1
うち商業と自動車修理	14.2	13.8
行政、教育、健康、社会事業	14.7	14.1
従業員1～9名の施設割合	23.6	23.9
従業員10名以上の施設割合	7.8	5.9

以下は http://www.insee.fr/fr/themes/dossier_complet.asp?codgeo=COM-69389 (2016/01/01 閲覧)より

<年齢層別の人口>

	2012	%	2007	%
計	48,429	100.0	47,113	100.0
0～14歳	8,661	17.9	8,508	18.1
15～29歳	12,620	26.1	11,523	24.5
30～44歳	10,171	21.0	10,008	21.2
45～59歳	7,895	16.3	7,831	16.6
60～74歳	5,492	11.3	5,088	10.8
75歳～	3,591	7.4	4,155	8.8

<職業別社会階層ごとの15歳以上人口>

	2012	%	2007	%
計	39,765	100.0	38,614	100.0
自営農業者	8	0.0	0	0.0
職人、商人、企業主	977	2.5	936	2.4
管理職および高度知的職業	4,666	11.7	3,810	9.9

中間管理職	6,593	16.6	5,949	15.4
サラリーマン	7,463	18.8	7,144	18.5
工員	4,462	11.2	4,471	11.6
退職者	7,770	19.5	8,498	22.0
職業活動のない他の個人	7,826	19.7	7,806	20.2

<世帯構成>

	世帯数			
	2012	%	2007	%
計	22,782	100.0	21,442	100.0
単身世帯	9,852	43.2	9,128	42.6
男性のみ	4,253	18.7	3,761	17.5
女性のみ	5,600	24.6	5,367	25.0
家族以外の他世帯	1,042	4.6	870	4.1
家族世帯	11,888	52.2	11,444	53.4
子ども無カップル	4,780	21.0	4,354	20.3
子ども有カップル	4,693	20.6	4,800	22.4
片親	2,415	10.6	2,290	10.7

<婚姻状況>

独身	既婚	死別	離婚
49.4	35.6	6.1	8.9

<15~64歳の活動種別の人口>

	2012	2007
計	33,007	31,465
現役世代	73.8	71.3
有職者	62.6	62.1
失業者	11.2	9.2
非現役	26.2	28.7
児童、生徒、研修生、無給	12.6	14.1
退職者および定年前退職者	5.0	5.8

その他の非現役	8.6	8.9
---------	-----	-----

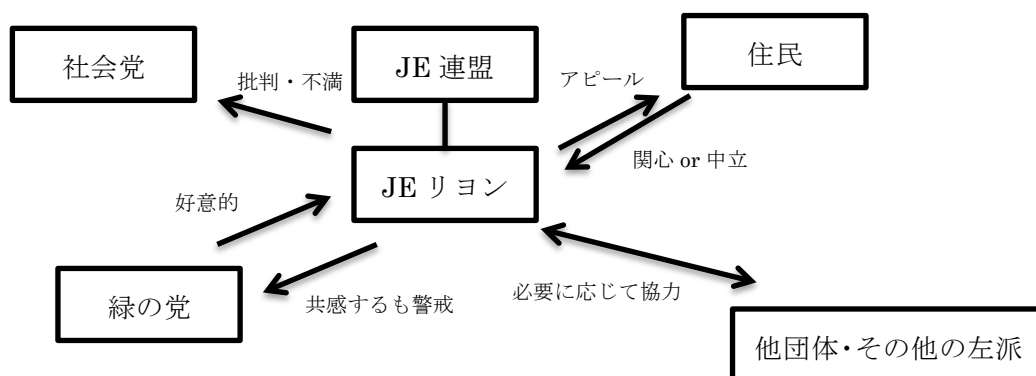
<2012年における、15歳以上の非就学人口の最高ディプロム（免状）>

	計	男	女
15歳以上の非就学人口	33,442	15,686	17,757
各種ディプロム%			
ディプロムなし	20.3	19.7	20.9
初等教育証書	6.4	4.7	7.9
前期中等教育修了証書、コレージュ証書	4.7	4.2	5.2
職業適性証書、職業教育修了証	17.3	19.2	15.7
バカロレア、職業証書	16.1	16.2	16.0
短期高等教育修了証書	15.3	14.4	16.2
長期高等教育修了証書	19.8	21.6	18.2

<移民割合>¹³⁷

	~15歳	15~24歳	25~54歳	55歳~	計
移民	3.3%	9.8%	20.7%	18.5%	15.3%

図1 JEと周辺の関係



¹³⁷ http://www.insee.fr/fr/themes/tableau_local.asp?ref_id=IMG1A&millesime=2012&ni veau=1&typege=COM&codgeo=69389 (2016/01/01 閲覧)をもとに筆者が作成